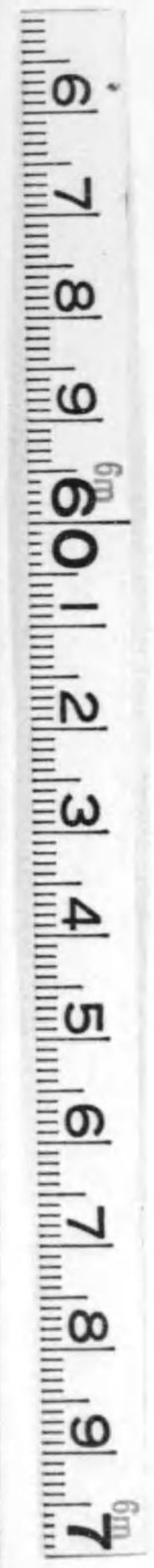


14.24

354



始



自大正五年至大正六年

第三十七回茶業報告

茶業組合中央會議所

1421-354

表 衡 量 度 支 露 米 佛 英 較 比 邦 本

○ 尺 度		○ 衡 量	
一 噶 エータル (Acre).	四反二十四步餘	露 (一チエトツアート (Chetwert)).	一石一斗六二六三
一 哩 マイル (Mile).	十四町七五二五三〇	重量	
一 方呎 スクエーフット (Square foot).	一尺〇一分一厘六七七五	一 噸 トン (二千二百四十封度 (Ton)).	二百七十貫九四六
一 方哩 スクエアマイル (Square mile).	二百六十一丁一四七六九	一 本 ハンドレッドウェイト (百十二封) (Hundred Weight).	十三貫五四七
一 呎 フット (Foot).	一尺〇〇五八二一八	一 封 マンナ (Pound).	百二十匁餘
一 吋 インチ (Inch).	八分三八一八四八五	一 温 オンス (Ounce).	八匁餘
一 碼 ヤード (Yard).	三尺一分七厘四六五四	一 封 パウンド (Pound troy).	九十九匁五分餘
佛 (一) 一米突 メートル (Metre).	三尺三寸	一 温 オンス (一封印二分一) (Ounce).	七匁五分餘
支 (一) 一丈 (一丈十分一) (一尺一丈十分一) (一吋一尺十分一)	一丈一七三 一尺一七三 一寸一七三	一 グレイン (一封印五分一) (Grain).	一厘七二〇三七
○ 斗 量		佛 (一) 一基 キログラム (Kilogramme).	二百六十六匁一二〇三七
一 噸 (40 c. ft.).	立方尺四十個〇七〇二六九二	一 瓦 グラム (一基千分一) (Gramme).	二分六六二〇三
一 塊 クォーター (Quarter).	一石六一一九	露 (一) 一ブード (Pood).	四貫三百六十八匁
一 物 プッシュ (Pushel).	二斗〇一四	一 露 斤 フント (Funt).	百〇九匁
一 我 ガロン (Gallon).	一升五一八	支 (一) 一擔 ビケル	十六貫二四三三三三
佛 (一) 一キロリートル (Kilolitre).	五石五五五二二	一 斤 カテー (一擔百分一)	百六十二匁四三三三三
一 リートル (一キリリートル) (Litre).	五合五四三五二	一 兩 テール (一斤十六分一)	十匁一五二〇八三
		一 錢 (一兩十分一)	一匁〇一五二〇八

第三十七回茶業報告目次

内地景況

静岡出張所報告..... 一

静岡縣茶業組合聯合會議所報告..... 一

岐阜縣茶業組合聯合會議所報告..... 二

長崎縣茶業組合聯合會議所報告..... 二

奈良縣茶業組合聯合會議所報告..... 二

埼玉縣茶業組合聯合會議所報告..... 二

兵庫縣茶業組合聯合會議所報告..... 二

熊本縣茶業組合聯合會議所報告..... 二

愛媛縣茶業組合聯合會議所報告..... 二

高知縣茶業組合聯合會議所報告..... 三

福岡縣茶業組合聯合會議所報告..... 四

滋賀縣茶業組合聯合會議所報告..... 四

輸出港製茶統計

横濱港製茶輸出額 (大正五年四月至五年三月)..... 一一

大正 7. 3. 1 内交

福園

二

神戸港製茶輸出額(自大正五年四月至大正六年三月).....二二

兩港前年ニ對スル増減比較表.....二三

大正五年四日市及名古屋港輸出茶調.....二四

橫濱、神戸其他各港製茶輸出高並前二箇年對照表(自大正五年四月至大正六年三月).....二五

大正五年(自十一月至十二月)橫濱、神戸、長崎三港製茶入荷調表.....二六

大正五年(自五月至六月)橫濱港輸出製茶仕向先.....二七

大正五年(自五月至六月)清水港輸出製茶仕向先.....二八

大正五年四日市及名古屋港輸出茶仕向先.....二九

大正六年(自五月至九月)静岡市移入茶調.....三〇

大正五年四日市驛製茶入荷調.....三一

大正五年東京市製茶入荷個數調.....三二

製茶累年比較統計表(大正六年三月農商務省刊行).....三三

製茶產額及輸出累年比較(同前).....三四

製茶產額種別明細表(其一、二、三同前).....三五

大正五年度府縣稅茶業費豫算表(同前).....三六

綠茶(大正五年大藏省外國貿易概覽抄出).....三七

紅茶(同前).....三八

粉茶(同前).....三九

自明治元年至大正五年製茶輸出表.....四〇

大正五年
四月
交内

大正五年度各港別製茶輸出表.....五三

最近五箇年各港製茶輸出統計表.....五四

外 報

シアトル直營喫茶店事業報告.....五六

米加兩國ニ於ケル日本茶市況(紐育市古谷西村商會報告).....六〇

東部加茶院ニ於ケル本邦製茶商況(以下通商公報ニ據ル).....六六

漢口ニ於ケル磚茶ノ輸出及生産.....六八

印度茶業概況(大正四年度).....七五

瓜哇茶商況(大正五年度).....九三

瓜哇茶ノ米國販路開拓.....九九

雜 報

大谷會頭ノ壽像建設經過.....一〇二

大正六年度綠茶技術員養成所事業成績報告.....一一六

綠茶手揉法研究報告.....一二一

大正五年試驗茶園業務概要.....一二五

大正六年度試驗園業務工程報告.....一二六

第二回全國製茶品評會報告.....一九一

船腹問題卜茶稅問題

大正六年度製茶輸送ニ關スル船腹問題ノ顛末.....一九五
全國茶業聯合會議所所在地及役員.....二〇四



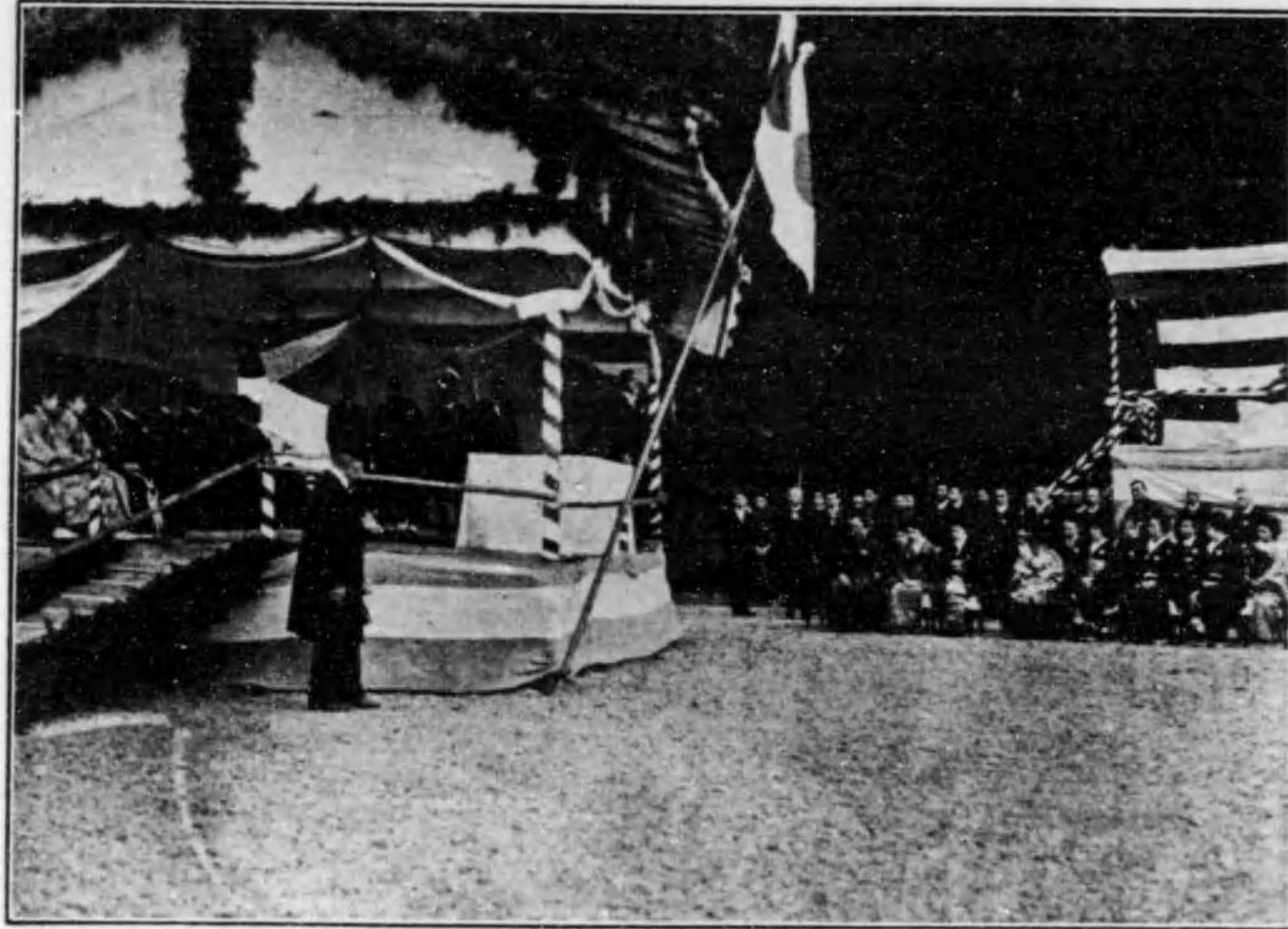
大谷會頭壽像全景

船腹問題卜茶稅問題

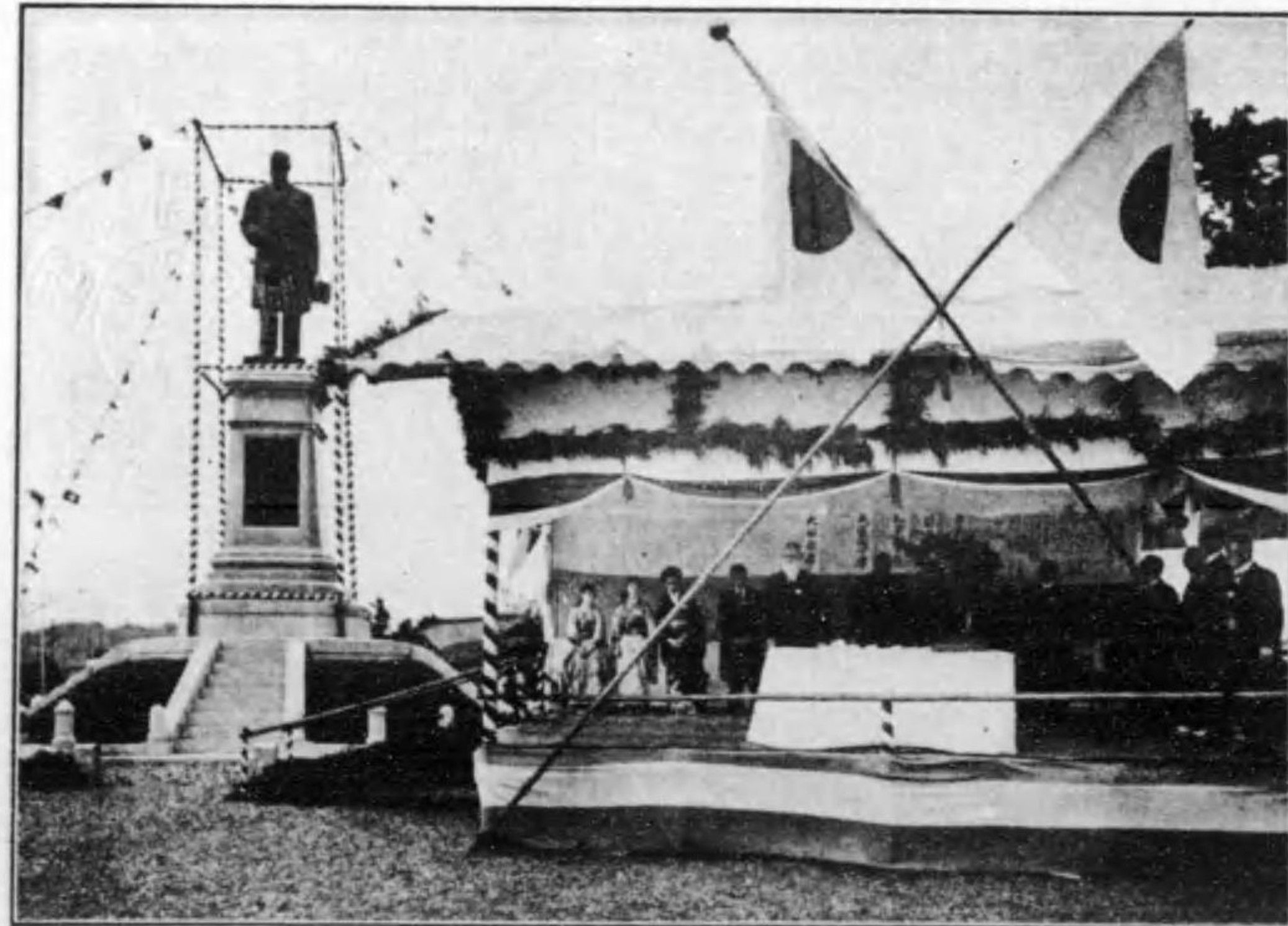
第二回全國製茶品評會報告.....	一九三
大正六年度製茶研究會報告.....	一九一
大正六年度製茶會所所在地及役員.....	一九五
全國茶業聯合會所所在地及役員.....	二〇四

中... 一... 二... 三... 四... 五... 六... 七... 八... 九... 十... 十一... 十二... 十三... 十四... 十五... 十六... 十七... 十八... 十九... 二十... 二十一... 二十二... 二十三... 二十四... 二十五... 二十六... 二十七... 二十八... 二十九... 三十... 三十一... 三十二... 三十三... 三十四... 三十五... 三十六... 三十七... 三十八... 三十九... 四十... 四十一... 四十二... 四十三... 四十四... 四十五... 四十六... 四十七... 四十八... 四十九... 五十... 五十一... 五十二... 五十三... 五十四... 五十五... 五十六... 五十七... 五十八... 五十九... 六十... 六十一... 六十二... 六十三... 六十四... 六十五... 六十六... 六十七... 六十八... 六十九... 七十... 七十一... 七十二... 七十三... 七十四... 七十五... 七十六... 七十七... 七十八... 七十九... 八十... 八十一... 八十二... 八十三... 八十四... 八十五... 八十六... 八十七... 八十八... 八十九... 九十... 九十一... 九十二... 九十三... 九十四... 九十五... 九十六... 九十七... 九十八... 九十九... 一百...

版銅文撰彰表績功頭會谷大



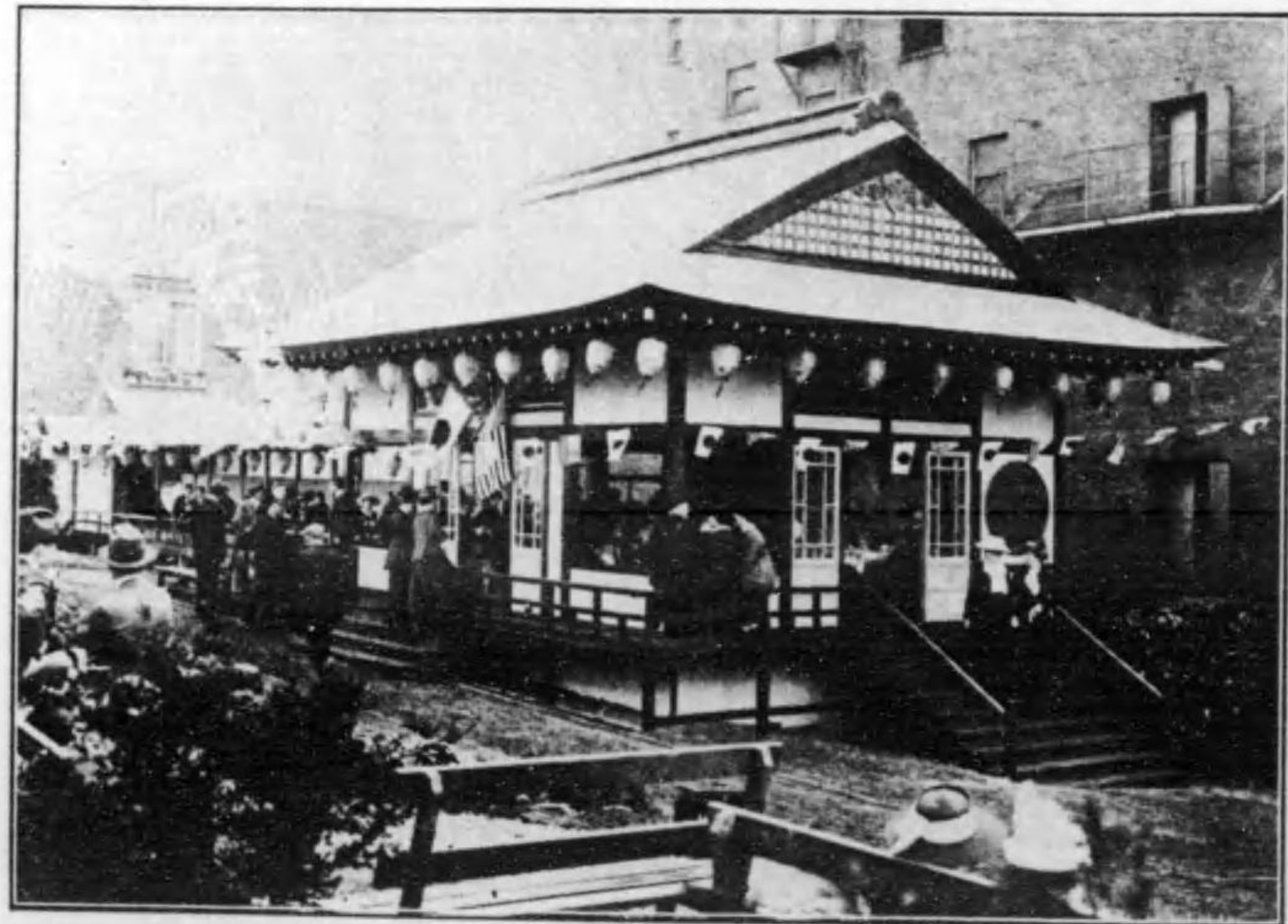
壽像除幕式當日之光景
(大正六年十一月五日)
相澤副委員長會開宣ス



同上
大谷會頭謝辭之速



賓來ノ日當式業開寮茶本市沙營直所本
(日八十月九年六正大)



景光ノ寮茶上同

第三十七回 (自大正五年至大正六年) 茶業報告

内地景況

○静岡出張所

(大正六年五月十三日報告)

静岡地方、目下製茶最盛期ニ相違シ四五日以前ヨリ鐵道ニテ静岡縣ニ搬入シ來ルモノ日々千五六百個ニ上リ猶追々増加ノ狀況ナリ當初一週日前ニ在リテ市中例年ニナキ安價ヲ唱ヘシモ昨今ニ至リテ内外人ノ再製所ニ於テ漸ク著手スルニ隨ヒ相當ノ價格ニ回復セシモノ、如シ

製茶市開始 當初、安價ナリシハ品柄ノ豫期セル程ニ良好ナラサルト米國航行汽船ノ船腹著シキ不足ヲ告ケシトノ事ヲ氣構ヘタルニ由リシモ目下品柄ノ善良ナルモノ、出廻ハレルト中央會ノ盡力ニ依リ船腹ノ如キモ相當ノ程度ニ成功スルモノトノ信頼ヨリ目下ノ價格ニ回復セシニ外ナラス

本年製茶品質ノ如何春來ノ寒氣ニテ發芽ニ障害アル者ト氣遣ヒ居リシニ晩春降雨ノ都合好順ナルト蓋シタル霜害ヲ被ラサルトニ依リ存外好良ニ發生シ摘採期ハ平年ニ比シ幾分遅レタルモ先ツ以テ良品多キ見込ナリ

本年諸種燃料價格ノ騰貴ハ器械使用者等ノ爲メニハ甚ダシキ打撃ナレトモ静岡附近ノ如キハ運轉用動力ハ電力ニ依ルヲ以テ幾分好都合ニシテ亦煤烟ノ幾分少キハ品質改良ノ點ニ於テ喜フヘキ事ニ屬ス

○静岡縣

(大正六年六月二十一日同縣茶業組合聯合會議所報告)

一番茶ノ景況 前年ニ比シ收量ハ約二割平年ニ比シ一割内外ノ減收ナリシカ故ニ縣下總收量ハ一百八十萬貫内外ナルヘシ其原
 因ハ各期種有ノ酷寒ナルノミナラス三月ニ入り四月ニ至ルモ例年ニ比シテ暖氣ヲ催フスコト遅カリシニヨリ茶園一般ニ寒害ノアリ
 シテ懸念シタルモ幸ヒ格別ノ事ナク却テ晩霜等ノ被害モナク四月中旬ヨリ氣候俄ニ暖氣ヲ催フシタルカ爲メ發芽狀態良好ニシテ相
 當ノ收量アルヘク見ラレタリ然ルニ五月ニ入り氣候恒ニ冷氣勝ニテ新芽ノ伸育鈍ク去リト例年ヨリ遅レタル摘採期ハ他ノ農作勞
 力ノ分配上此上遲延シ難ク不得止一般若芽ヲ摘採シテ製造シ之レカ爲メ遂ニ減收ノ結果ヲ見タリ製品ハ比較的優良ニシテ樹勢ヲ損
 スルコト尠カリシハ却テ喜フヘキ現象ナリトス唯比較的の優品多ク下等茶ノ少カリシハ市場ニ於ケル需給ノ權衡ヲ失シ上下品質ノ差
 ニヨル價格ヲ接近シ下等茶割合ニ高價ニシテ優品價格ノ之ニ伴ハサリシハ遺憾ナリシ○市況ハ消費國タル米加兩國ニ於ケル在荷拂
 底ノ報アルニ拘ラス市場開始ニ際シ船腹問題及課税問題等勃發シ外商ノ購買心挫折ノ兆アリ生産家ハ諸物價騰貴ニヨリテ生産費ノ
 増加ヲ來シ前年ヨリモ幾分高價ヲ期待スルノ氣味アリテ兎角商談圓滑ナラス從テ市場ハ常ニ閑散ヲ告ケタリ然ルニ五月下旬頃ヨリ
 一番茶ノ減收ハ市場ニ喧傳セラレ船腹問題モ亦解決ノ緒ニ就キタルカ爲メ買入ヲ躊躇セシ外商モ取引ヲ開始シ活氣ヲ觀ルニ至レリ
 然レトモ前記ノ如ク上品多ク下品荷薄ナリシ市場ハ不健全ナル市價ヲ喚起シ一貫目ニ付三圓以上ノ上品ハ前年ニ比シ一、二十錢ノ
 下位ニアリテ二圓以下ノ下物ハ却テ三十錢乃至五十錢ノ上値ニ賣行キ從テ下物不足ノ市場ハ一般ニ番茶待ノ傾向ニテ一番茶期ヲ終
 了ス

○静岡縣第二報 (大正六年十一月十日報告)

二番茶以下ノ景況 氣候ノ關係上一番茶減少セシニヨリ二番茶ハ増收ヲ豫想シタルニ摘採期前ニ於テ雨天勝ナリシカ爲メ各
 地ニ害虫發生シテ浮塵子又ハ葉蟬由ノ爲メ被害ヲ受ケタル地方アリ從テ豫期ノ收量ヲ得カカリシモ罷物ノ實行良好ナリシハ一般
 硬茶摘ノ傾向ヲ生シ被害地ヲ除クノ外ハ平作ヲ得テ縣下ヲ通シ約一割減ナリ之ニ反シテ三番茶以下ハ晴雨宜シキヲ得タルカ爲メ發
 芽良好ナルノミナラス下等茶ノ需用益々増加ノ市況ニテ生葉ノ價格近年末曾有ノ高値ヲ喚ビタルカ爲メ出ツレハ摘ミ出ツレハ摘ミ
 晩芽遅獲ノ狀態ナリシニヨリ思フニ一番茶二番茶ノ不足ヲ補フテ蓋シ餘リアリタルヘシ特ニ下等茶歡迎ノ市況ハ一般ノ粗製ヲ促カ
 シ生葉ノ大部ハ殆ント機械製茶業者ノ手ニ入り製造セラレ三番茶時期ニ於テ一貫目ノ生葉五十錢内外ヲ唱フルニ至リ甚シキハ番茶
 又ハ刈落シ茶ヲ本茶ニ擬製シ市場へ持出スモノアリ其結果ハ九月末ヨリ十月ニ入り市價瓦落ノ爲メ當業者中ノ或ル者ハ遂ニ多數
 ノ荷物ヲ殘留スルノ不幸ヲ見タリ市況ハ一番茶減收ノ後ヲ受ケテ二番茶モ亦減收ノ報アリ此ニ於テカ又々應分ノ注文ヲ受ケ居ル
 外商ハ漸ク買入レニ焦心スルノ狀態トナリ市場ハ活氣ヲ帶ヒ來リシモ引續キ下物歡迎ノ商況ハ縣内外ヨリ粗製品輸出シテ市價ヲ混
 亂セシメタリ而シテ三四番茶頃ヨリ大體外商モ注文額ヲ充テセシカ漸次買控ヘノ傾向ヲ生シ市價下落ヲ見テ沈靜ニ歸セリ

○岐阜縣 (大正六年五月二日同縣茶業組合聯合會議所報告)

昨冬來本春ニ涉リ三十年振ノ大雪アリシ爲ニ山間部ニ在リテハ茶樹ヲ害シ最寒ノ爲メ枯死スルモノ等被害激甚劇ヘ春來ノ氣候亦
 冷氣勝チニシテ非常ニ遲延セリ現下ノ狀況ニテハ發芽ハ約十日間ヲ遅レタリ縣下南部ニアリテハ普通一番製茶ヲ五月二三日頃ヨリ
 開始セルニ本年度ニテハ最早キ場所ニテ十日頃ヨリ開始スル趣ニテ他所ハ十八九日頃ヨリ開始スルナルヘシ收穫ハ約二割以上ヲ減
 セン

○長崎縣 (大正六年九月十四日同縣茶業組合聯合會議所報)

一番茶景況 一番茶ノ發芽ハ一二月頃例年ニナキ降雪烈シキ爲メ茶枯木同様トナリ加フルニ發芽ノ際雨量極メテ少キヲ以テ昨
 年ニ比シ半額乃至六七歩作ノ狀況ナリ
二番茶ハ相應發芽セシモ摘採時期ニ至リ霖雨打續キ摘採シ得サルヲ以テ昨年ニ比シ四歩作ニモ及ハサル狀況ナリ○一般茶況ハ例年
 ニ比シ大ニ好況ヲ呈シ一二番共二割乃至三割ノ高價ニシテ而モ賣行最モ良好ナル狀況ナリ

○奈良縣 (大正六年八月三十一日同縣茶業組合聯合會議所報告)

大正六年茶況

一番茶發芽及製造景況 昨冬來嚴寒引續キ茶樹ノ枯死セシメ晩霜ノ被害甚シク如何ナル程度マテ減收ヲ來スヘキヤト杞憂セラレシモ昨年ニ比シ一割半乃至二割ノ減收ニ過キサリシハ僥倖ト謂ヘシ而シテ昨年ハ異例ノ豐作ナリシヲ以テ減收歩合稍大ナルモ昨年ニ比スレハ九割内外ニ相當セリ、製茶季ハ一般ニ一週間ノ遅延ヲ來シ平坦部中最モ早キ場所ナル北葛城郡始メ添上磯城生駒諸郡ハ五月十一日製造ニ着手十三日頃ヨリ一般製造ヲナセリ山間部ノ早場ナル山邊郡波多野村、添上郡月瀬村ハ五月十九日頃着手ニシテ中山即チ柳生、大柳生、東山、狹川、東里、田原諸村、山邊郡豐原、東里、針ヶ別所、都介野、福住村宇陀郡三本松村ノ各地ハ廿五六日頃ヨリ着手セリ、霜害場所ニアリテハ六月一日頃ヨリ漸次製造ヲナシ同月廿四日頃終了トナレリ製品ハ概シテ良好ナリ

商取引ノ狀況

本年ノ製品ハ何處モ稍々上品ニシテ價從テ昨年ヨリ餘程高ク一貫目ニ付普通二圓三四十錢ヨリ三圓二三十錢位ノ間ヲ往來シテ縣下内地商人及山城伊賀商人ノ手ニテ取引セラレツ、アル狀況ナリ一般生産家ノ好感ヲ持セシ年柄ナルカ故ニ商人トノ取引纏リ早ク殆ト製造後直ニ賣渡シテナシ殘荷ノ如キハ殆ト之ナク多數商人ハ生産時期ノ順ヲ逐フテ場所ヲ移シタリ

二番茶製造及取引狀況

初茶ノ終季ニ入り中以下ノ賣行好況ナルニ伴ヒ平坦部ノ二番製造ハ六月廿五日頃ヨリ稍々硬茶ヲ摘採セリ中等品ノ製造ハ利益多シトノ觀念ヨリ一般ニ硬茶ヲ摘採シ早天續キ發芽不長從テ品質良好ナラザリシニ係ラス一貫目二圓四五十錢ニテ内地向トシテ賣買出來セラレ山間部ニ至リテハ更ニ硬茶ヲ製造スル摸樣アリシニ由リ本所ハ硬茶製造ノ不利ナル警告書ヲ發シ長茶製造ノ獎勵ニ改メシ結果稍々品質ノ改良ヲ見タリ加フルニ天候改マリ降雨適順收量平年ヨリ増收ノ箇所アルニ至リ大體平年作トナリ價格一貫目ニ付上等三圓四五十錢中等二圓八九十錢下等二圓二三十錢ヲ以テ縣内及山城伊賀商人ニ賣渡シ八月十五日六日ヲ以テ全部ノ終了ヲ告ケタリ

三番茶製造ノ狀況

二番茶ノ賣行好況ナルニ伴ヒ三番茶ノ製造ハ八月廿五日頃ヨリ着手何レモ製品ハ良好ニシテ取引ハ三圓内外ニ賣買出來シ生産家モ價格騰貴ノ爲メ確實ナル副業トシテ熱心從事セリ然ルニ一面豐業ノ隆盛ニ比シ茶業ノ不利ナルヲ唱道

シテ茶園ヲ桑園ニ變セシ向アリシモ結局產額平年ト大差ナシ、一二三番茶ノ製造品ハ通シテ内地向トシテ賣却セラレ貿易品ハ十分ノ二位ニ過キサリキ

製茶經濟

近年生産費用ノ騰貴率少カリシモ本年ハ何レモ摘採人夫薪炭共一割五分位ノ昂上ヲ見且一般不作ノ說傳ヘラレ經濟ハ面白カラサル傾向ナルヘシト想ハレタルモ事實ハ之ニ反シ製造ノ日數短縮シ製品上等ノミヲ產出シ而モ高價ニ賣行キシハ多少減收生産費騰貴等ノ影響ナキニ非サルモ結局純益多ク拙ナル經濟ノ人スラ相當ノ利益ヲ得タルコトナレリ地方ニ依リテハ他ノ農産物ノ騰貴ト相俟ツテ享福ノ年ナリト謂ヒ居レリ今賣先別數量概況ヲ元サンニ

神戸市場 約一萬五千貫餘 静岡市場 一萬貫餘 伊賀地方 二萬五千貫餘 山城方面 十六萬貫餘 大阪府下 二萬五千貫餘 其他十萬貫餘

奈良縣製茶產額一覽表

(大正五年十二月現在)

郡市別	製茶		番茶		合計		茶園反別	一反當	
	數量	價格	數量	價格	數量	價格		數量	價格
添上郡	111,326	1,848,864	11,000	5,200	122,326	1,854,064	3,911	5,495	
生駒郡	11,664	237,856	6,000	1,600	17,664	239,456	1,910	2,373	
山邊郡	13,870	356,670	3,700	7,400	17,570	364,070	4,900	6,588	
磯城郡	7,851	155,020	2,710	6,780	10,561	161,800	3,577	6,112	
宇陀郡	7,177	127,020	4,793	1,998	11,970	128,918	1,070	2,206	
高市郡	3,500	90,000	3,400	1,500	6,900	105,000	1,155	1,101	
北葛城郡	2,500	61,800	2,618	933	5,118	71,133	1,910	1,264	
南葛城郡	4	6	55	19	59	75	1,800	26,800	

字野郡	吉野郡	奈良市	計	大正四年	大正三年	大正二年	大正元年	明治四十四年
三三〇	四八七	四〇五	一二〇、〇五	三〇、一八八	二八、〇九五	二六、七三六	二四、四三三	二八、一九四
一、九三三	三、六二五	八五	五、一六三	一〇、八八六	九、〇一五	九、〇四七	九、〇四七	八、七一九
八九三	一一、四五	四〇	一二、四五	三〇、三三六	二五、〇五四	三三、〇六九	三三、三四七	二四、五九三
二、一五九	五、六五〇	三六〇	八、一七九	四一、〇七四	三七、二四六	三五、七四三	三五、八六五	三七、九三三
一、三九九	五、九二二	九七二	二、一五九	五、四九八	五、九七四	四、六六五	五、七二七	五、〇六一
五、一	一九二、〇	六〇	一九二、〇	一、二四、〇	一、一五、〇	一、一七、〇	一、四三、〇	一、四〇、〇
四、四	二七、四	五、八	三三、六	三、一	三、一	二、九、〇	二、七、〇	二、六、四
二七、一	二六、三	一五、五	六八、九	四、八、二	四、八、五	四、三、〇	四、〇、八	三、八、〇
九、七	七、七三	三五	一七、一八	一、五、三	一、五、三	一、五、三	一、五、三	一、三、八

大正五年奈良縣茶業經濟調查成績概要

一、調査戸數 本縣ノ主産地タル山邊郡三十三戸、添上郡三十戸、吉野郡八戸、宇陀、磯城、北葛城、生駒ノ四郡ハ各一戸、合計七十五戸ニ就キ調査セリ

一、栽植反別 合計二十六町五反二畝七步トス、而シテ一月ニシテ作付反別ノ最モ多キモノハ一町三畝步、最少ハ五畝步ニシテ一月當リ平均三反一畝步ニ當ル

一、栽植箇所 合計二百三十六ヶ所ニシテ一月當リ三箇所ニ分植シタル割合ナリ

一、製造法ノ種別 製茶上粗揉器ヲ應用シタルモノ五十三戸、純手揉製ニ據ルモノ二十二戸、即チ三分ノ二ハ粗揉器ヲ應用シテ製茶シタル者ノ調査ナリ

一、收支計算 收入總額參萬壹千貳百八拾參圓拾參錢（一月當四百拾七圓拾壹錢） 支出總額貳萬壹千九百八拾八圓七拾貳錢（同上貳百九拾參圓拾八錢） 差引金九千貳百九拾四圓四拾壹錢（同上百貳拾參圓九拾四錢純益）

更ニ之ヲ平均一反參ニ換算シテ細別スレハ左ノ如シ

一金百貳拾壹圓八拾錢 收入總額

種目	數量	金額	單價	總收入ニ對スル割合
一 番茶	二元	壹、一八〇	二、二五〇	五割三分六
二 番茶	二元	四、九八〇	一、二六〇	四割
粉茶	三	一、三六〇	四、五〇〇	
問作物	三	三、六八〇		
合計	七	一三、八〇〇		

備考 製茶一貫平均價貳圓餘 一金八拾七圓四拾六錢

支出總額

種目	數量	金額	總支出ニ對スル割合
肥料	見積	一、四九八	一割七分
草料	見積	五、四七〇	六割七分

粉	茶	茶	計
11,100	4,300	11,100	15,400
3	1	3	4

支出明細表

種目	金額	對製茶一貫多ニ スル生産費ニ	同ノモ ノ上	
			最 多	最 少
栽培費	16,000	貳拾五錢九厘	第六十五號 壹圓五拾壹錢七厘	
肥料	5,200	八錢五厘		
肥料	3,850	六錢貳厘	第七十一號 壹圓拾五錢貳厘ナ ル	
人夫賃	18,500	貳拾九錢九厘	モ玉露茶ヲ含ムニ依 リ除ク	
其他	2,750	四錢四厘	第五十九號 壹圓四錢九厘	第十號 參拾六錢五厘
小計	46,300	七拾四錢九厘		
製造費	2,850	參拾五錢貳厘	第六十五號 壹圓四拾壹錢參厘ナ ル	
人夫賃	5,300	八錢五厘		
其他	9,400	拾五錢貳厘	第三十七號 壹圓貳拾六錢六厘	第十號 參拾六錢
小計	17,550	七拾錢七厘		
公租	2,000	參錢參厘		
合計	65,850	壹圓四拾八錢八厘		

差引 金參拾六圓七拾四錢

純

益

如上製茶一貫多ノ生産費ヲ栽培及製造費目ニ付最多ト最少トヲ比較セハ實ニ格段ノ差アルヲ發見セリ
 之ヲ要スルニ製茶一貫多ノ生産スルニハ平均壹圓四拾八錢餘ニテ足ルコトヲ確メタルモヨリ茶業者ハ今後適當ノ方法ヲ講究シテ肥
 培并ニ製造上ニ就キ前記ノ生産費ヨリ一層低廉ナル費用ヲ以テ生産スルコトニ専心努力セハ其利益ハ更ニ裕福トナリテ第二十七號
 ノ如ク反當純益百五圓五拾九錢ヲ得ルコトハ至難ノ業ニアラサルヘシ加之茶業ハ農家ノ副業トシテ經營スルモノナルニヨリ勞動賃
 金及加工費ノ一部ヲ併セテ收得セラレ、ヲ以テ其粗收入(利益)ノ一層増加スルコトハ火ヲ晴ルヨリ明ナリ今在來農家ノ經營シツ
 、アル方法中生産費ニ於テ粗收入トナルヘキモノヲ擧ケレハ茶園費ニ於テハ金肥代ト摘賃ノ大部分ヲ除キタルモノ又製造費ニ在リ
 テハ人夫賃ノ七割雜費ノ五割ヲ除キタル殘餘ハ自家勞力ニヨリテ補給セルヲ以テ凡テ自己ノ收得トナル是等ノ自家勞力賃ヲ併合セ
 ハ茶園一反歩ヲ經營シタル爲メニ總收入金ノ七割ハ收益トナルニヨリ決シテ薄利ノ副業ニアラサルヤ明ナリ、惟フニ茶業ハ普通ノ
 農作物ト異ナリ特殊ノ樹性ヲ有シ其生産力ハ經營ノ巧拙ニヨリ著シキ差違ヲ來スモノナルニ依リ常ニ此點ニ注意シテ集約的ニ經營
 セハ失敗ナキ好個ノ副業ナリト信ス

○埼玉縣 (大正六年九月一日同縣茶業組合聯合會議所報告)

一番茶ノ景況 昨冬旱天ノ上寒氣烈シク茶樹ノ生理作用ヲ害シ凍害ヲ被リタルモノアリ三月以降降雨適順ナリシ爲メ生育稍々
 良好トナリタルモ五月十一日以降數回ノ晚霜被害ヲ受ケ前年ニ比シ約二三割ノ減收ナラン 二番茶ノ景況 一番茶ニ於テ晚霜
 被害アリタル爲メ自然ニ番茶ノ摘採期モ遲延シ七月六日ヨリ摘採ヲ開始シ同月三十日頃終了セリ氣候適順ニシテ殊ニ降雨時ニア
 リシタメ摘採ヲ見合セタルモノ多ク二番茶ノ收量前年ト大差ナカルヘシ、「商況」ニ二番茶共摘シテ夏好ニシテ上物一ノ目四圓中
 物三圓五六十錢並物三圓位ニシテ昨年ニ比シ二三十錢ノ高値ヲ示セリ

○兵庫縣 (大正六年九月五日同縣茶業組合會議所報告)

○一番茶ノ景況 前年冬期ニ於ケル寒氣凜烈ノ爲メ一番茶ノ發芽不長ニシテ平年ニ比シ約二割ノ減收ナリ 一番茶ノ景況
 二番茶ノ發芽ハ良好ニシテ一番ノ減收ヲ補足セリ而シテ製茶ニアリテハ近年物價騰貴ト職工ノ不足ニヨリ兎角上等茶ハ製造難ナリ
 ヘタリ之レ全ク養蠶ノ結果ニヨルモ終始上等茶製造家ハ收支償ハサルナリ職工本年下等茶ハ其實行盛ニシテ市場ヨリ粗製茶ノ注文
 ヌヨリ之ヲ獎勵セラレ始ト粗製ヲ停止スル能ハサル有様ナリ生産家ニテ茶商人ノ買收スル價格ハ本製上物一ノ目貳圓ヨリ貳圓四五
 十錢下等茶ハ壹圓貳拾錢ヨリ壹圓四五錢ニシテ下等茶ニヨリテハ製造家モ仲買商人モ相當ノ利益ヲ收得セリ

○熊本縣 (大正六年九月五日同縣茶業組合聯合會議所報告)

一番茶景況 春來寒氣烈シ引續キ餘寒ノ影響ヲ受ケ例年ニ比シ發芽宜シカラス凡ソ十日餘ノ遲延ヲ見テ生葉ノ生産亦約四割
 ノ減收ヲ見ルニ至レリ然レトモ山茶ノ豐富ナル本縣ニ於テハ例年多少山野ニ遺棄セラレタルモノアルヲ以テ製茶ノ分量ニ於テハ幾
 分ノ減收ハアルヘキモ例年ニ比シ大差ハナカルヘシ殊ニ改良製茶ニ於テ然リトス現在調査中ナルヲ以テ詳細ハ追テ報告スル處アル
 ヘシ○本縣ニ在リテハ特ニ貳番茶トシテ摘採スルモノ稀ナルモ本年ノ如キ茶況ノ好況ナル時ニ於テハ漸次二番茶製造ノ傾テ生シ殊
 ニ球磨郡ノ一部ニ在リテハ下物ノ製造ハ近年見サル盛況ナリトス○取引ハ良好ニシテ下物拂底ノ折柄小賣茶商ハ特ニ困難ヲ感シツ
 ツアリ○本組合ニ於テハ農家副業獎勵ノ意味ヲ以テ山茶ニ放棄セラル、モノヲ採收セシメ磚茶ノ原料ヲ製造獎勵シ縣ハ此意義ニ依
 リ縣費ノ補助ヲナシ之カ實行ニ勉メツ、アリ而シテ生産地ニハ各自小組合ヲ組織セシメ會社ト締結シテ安全ノ取引ヲナスコト、ナ
 セリ

○愛媛縣 (大正六年九月六日同縣茶業組合聯合會議所報告)

茶況報告 本年度一番茶ノ發芽ハ降雪嚴冬ノ爲メ成績不長平年ニ比シ約二週間遲レ爲メニ生葉ノ發育甚惡シク隨テ極上等製茶
 ヲ製スル能ハス中物及下物トナレリ其製品ハ平年ニ比シ三割減昨年ニ比シ四割強減シタリ○二番茶ハ發芽良好平年ニ比シテ大差ナ
 シ本縣ノ茶樹ハ全部天然生ニシテ肥料ナ施シ居ラサルト他ノ副産物多忙等ノ爲メ摘採スルモノ少ナシ
 製茶ノ實行ハ初期ヨリ漸次良好ノ方ト認ム而シテ改良極上等百斤ニ付五拾五六圓中等四拾圓下等三拾圓位ニシテ在來ノ出來物ハ上
 等品ニシテ三十五圓以下二十圓位ノ取引ヲ爲シタルモノ多シ

○高知縣 (大正六年九月十二日同縣茶業組合聯合會議所報告)

一番茶ノ景況 本年ハ早春以來氣候極メテ寒冷ニシテ屢々降雪等ノ爲メ發芽頗ル良好ナラス甚シキハ茶樹ノ枯死セルモノ等
 アリタルニ由リ例年ニ比シ著シク其ノ收穫ヲ減シタルノ狀況ナリ、製造着手ハ概シテ前年ト大差ナク早キハ四月下旬ヨリ遅キハ五
 月十日前後ニ着手シ何レモ二週間乃至三週間製造ニ從事シ漸次改良ノ實績ヲ舉グルニ至レリ○二番茶ハ本縣下ニハ極メテ少キヲ以
 テ之ヲ略ス○製茶取引ノ狀況 本年製茶ノ取引ハ頗ル順調ニシテ別ニ製品ノ停滯等ヲ見ス相當賣行キタル狀況ナリ就中本年
 ハ縣費ノ補助ニ依リ本縣農會事業トシテ神戸市ニ生産物販賣所ヲ設置シ各種生産業者ノ利便ヲ計リタルヲ以テ茶業者ニ於テモ各郡
 毎ニ代表的販賣者ヲ指定シ其ノ郡内ノ製品ヲ直接神戸ニ出荷シ商館又ハ商店等ニ直取引ヲ爲シ該販賣所ヲ利用セルヲ以テ從來ノ取
 引ヲ稍々一新スルノ傾向ヲ見ルニ至レリ○施設事業ノ成績 本年度ニ於テハ製茶教師檢定試驗ヲ施行シ技能適當ト認メタル
 モノ二十名ニ對シ檢定證書ヲ交付セリ○紅茶研究 縣下ニ於テ原料豐富ニシテ比較的紅茶ニ適當ト認ムル地方ニ於テ五日間紅
 茶ノ製造研究ヲ爲シ其ノ製品ハ目下審査依頼中ニ屬ス○製茶器具購入 本年度ニ於テ高熱式蒸釜ヲ購入スル製茶改良組合ニ
 對シ相當補助金ヲ交付スル事トシ各郡ニ於テ獎勵ノ結果大正式高熱式釜參個鶴鶴拾八個ヲ購入セリ○技術練習生 製茶技術
 者養成ノタメ相當補助金ヲ給シ靜岡縣へ三名四ヶ原へ二名ノ練習生ヲ派遣セリ○販路擴張 製茶販路ノ擴張ヲ圖リ併セテ取引商
 況ヲ觀察セシムル爲メ各郡ニ於テ製品販賣代表者ヲ指定セシメ補助金ヲ交付シ靜岡縣へ一名神戸市ニ八名ヲ出張セシメタリ
 製茶技術競技會 各郡ニ於テ製茶競技會ヲ開催スル場合ハ技術優秀者ニ對シ當所ヨリ副賞トシテ優旗又ハ賞金ヲ授與スルコト
 ・、シ一郡拾圓以內ヲ限度トシ五個所ニ於テ開催セシメ其成績尤モ良好ナリ○種子無償配付 茶種子七石ヲ限リ無償配付ノ計

畫ナルモ目下希望者出願中ナリ ○茶園設置 當所附屬模範茶園設置ノ計畫ナルモ目下土地擬定中ニ屬ス

○福岡縣 (大正六年十一月七日同縣聯合會議所報告)

本年ノ發芽ハ昨冬來寒氣凜烈ニシテ春ニ至ルマテ餘寒止マズ爲メニ茶樹ノ損傷甚シク發芽遲延スルノミナラス收葉量ニ割以上ヲ減セリ一番茶摘採當時ハ商人モ餘リ買進マサル狀態ナリシカ船腹問題解決ト共ニ製茶量ノ少キヨリ漸次取引行ハレ品買劣ルモ更ニ價格ニ異同ナキ狀況ナリシヲ以テ製産家ハ割合收得金多ク有利ノ年ナリシ○本縣ハ改良運マシテ進マサレトモ漸ク二割位ハ改善ノ方法ニ依ルコトトナレリ其他ノ大部分ハ從來ノ釜熬製ナリ而シテ之レカ販路ハ沖繩ヲ主トシ靜岡神戸大阪等ニモ多少輸送セリ然ルニ本年ハ銀塊相場ノ騰貴ニヨリ從來ノ例ヲ破リ沖繩へ輸入セラル、支那茶ハ全然不引合ノ狀態トナリ其補充トシテ輸送激増シ加フルニ清商ノ長崎港ニテ買取スルアリ旁々非常ノ好況ニ終レリ日下既ニ拂底ノ商況ヲ呈シ下等茶ハ益々上昇ノ傾向ナリ○紅茶ハ生産額甚々タルモノナルモ天候ノ關係上本年ハ其好ノ製品ヲ得殆ト均一ナル製品ヲ得タルハ幸ナリ

○滋賀縣 (大正六年十二月八日同縣茶業組合聯合會議所報告)

一番茶發芽ノ狀況 舊臘來ノ泛寒ハ茶樹ノ勢力ヲ弱メ加之四月中旬以來ノ少雨ハ發芽ヲ因難ナラシメ生育遲マシテ繁茂セス此ノ如キ氣候ノ不順ハ數年來絶ヘテナキトコロナリ霜ハ數回アリシモ概シテ甚シキニ至ラザリシカ獨リ甲賀郡ニ於ケル五月二十日ノ降霜ハ被害甚大ニシテ山間部高地部等ハ大抵傷害ヲ受ケ就中信樂地方ハ一層甚シク滋賀郡石山村栗太郡大石村之ニ次ケリ由害ハ尺蠖葉捲虫等發生シタルモ其害幸ニ多カラズ赤壁蠶ノ害最モ甚シク甲賀郡東部之レニ侵サレ信樂地方ノ如キモ害多大ナリシ由來赤壁蠶ハ降雨少ク北風多ク冷温ニシテ空氣乾燥セシ年柄ニ多ク發生ス其發生ハ次テ氣候ノ不順ナルヲ證スヘシ、二番茶期ニ於テハ一番茶以後ノ氣温ハ平年ヨリ高ク唯降雨稀ナリシニ因リ乾燥ニ過キ稔早害ニ罹レル箇所ナキニアラスト雖モ極メテ一小部分ニシテ大體ニ於テハ氣候適順虫害ナク近年ニ稀ナル無事ナル狀況ナリシ摘採期 一番茶ハ前記ノ狀況ニ依リ早場所ナル湖南地方モ平

年ニ比シ五六日ヲ遅レ五月十三日ヨリ晚キハ五月二十五日ヨリ着手シ甲賀郡ノ早キハ五月二十日頃晚キハ六月七八日頃ニ着手シ早場所五六日晩場所殊ニ信樂地方ハ十二三日遅延セリ蒲生神崎愛知三郡ハ何レモ一週間遅レニテ早キハ五月二十五日頃政所地方ノ如キ晩場所ハ六月五日頃ニ着手シ其他各郡何レモ遅レサルハナシ而シテ甲賀郡ノ霜虫害ノ甚大ナル少部分ハ一番茶ノ發生ヲ待タズシテ剪枝シ二番茶ヲ待ツ如キ狀況ナリシ

二番茶ニ於テハ一番茶ノ遅レタルニ拘ラス甲賀郡ノ如キハ殆ソド昨年ト同期ニシテ其他各郡モ三四日ヲ遅レタルノミナリ然ルニ何レモ一時ニ發芽ヲ促進シ爲メニ摘採ニ支障ヲ生シ茶葉多ク硬大ナラシメタル嫌アリ南部ハ六月二十八日又ハ七月一日ヨリ摘採ニ着手甲賀郡七月二三日頃、信樂地方ハ七月十八日、北部ハ七月一日政所地方ハ七月十五日頃ヨリ摘採セリ生葉ノ價格 圓賣ハ一反歩ニ付極上四十圓内外、上等三十五圓、中等二十五圓内外、最下二十圓以下ニシテ前年ニ比シ一割五分安ナリ買賣ハ(買手方持來減シ)極上四十圓以上ナルモ普通三十五圓以下ニシテ前年ニ比シ約一割安ニシテ信樂政所地方ハ一割高ナリ○木炭ハ前年ニ比シ三割高薪ハ七八分高ナリ○職工賃ハ前年ニ同シ

製造ノ狀況 發芽ノ景況ニ依リ生長遲緩徐々トシテ急速ナラス故ニ生産家ハ適當ナル時期ニ於テ之ヲ摘採スルヲ得何レモ生芽良好ナルヲ以テ製茶ノ品質亦佳良ニシテ下等物ハ少量ナリ機械製茶モ細心周到ノ注意ヲ爲シ最善ノ方法ヲ盡シ使用セシヲ以テ普通手採製ニ比シ遜色ナカラシムルニ至レリ二番茶ニ於テハ生芽硬大ナラシメタルヲ以テ一番茶ニ劣レルヲ見ル本年ハ縣下三十餘箇所ニ本所主催製茶講習所ヲ開設シタルヲ以テ多ク之レニ感化サレ手採製法ニ大ナル改良ヲ加ヘラレタルニ依リ本縣製茶ハ何レモ良好ナリシ

産額ハ昨年ニ比シ一番茶ニ於テ二割減少霜虫害地方ハ四割減ニシテ二番茶ハ昨年同等或ハ地方ニ依リ一割増加ノ箇所モアリ製茶ノ相場 荒茶百斤ニ付、純手採製最上五十五圓乃至六十五圓、上等四十八圓乃至五十四圓、中等四十五圓内外、半手採製最上五十圓内外、上等四十五圓内外、純器械製最上四十圓乃至四十五圓、上等三十五圓乃至四十圓、下等三十二圓乃至三十四圓、湖南地方信樂及政所地方ニ於テハ四十圓以下ノ品ハ更ニナシ何レモ昨年ニ比シ一割乃至一割五分高ニシテ製品ハ頗ル賣行ヨク、生産

家ニ手持品少シニ番茶ハ昨年ニ比シニ割高ノ狀況ナルモ粗大ナルモノハ一番茶ニ比シテ無論安價ナリシ

諮問案

大正六年二月十九日滋賀縣知事ヨリ諮問案ヲ提出セラレ本所定時會ニ於テ審議ノ上左記ノ通答申ス

諮問事項

一縣下ヲ通シテ綠茶製法ヲ統一スルノ可否若シ可トスレハ其ノ方法否トスルハ其ノ意見ヲ問フ

答申

縣下製茶方法ヲ統一シテ齊シク益改善ノ途ニ進マシムルハ時運ニ順應スル所以ニシテ一貫セサルヘカワサル方針ナリ而モ手操製器械製及半器械製ノ如キ種々ナル製法アリト雖モ要スルニ品質ノ向上ヲ圖ルト共ニ形狀ヲ完美ナラシメサル可カラス

理由

製茶ハ本邦中首タル清冷飲料タルハ論ナク是故ニ終始品質ノ改善ヲ努メサルヘカラス然ルニ所謂内地向製法貿易向製法ト云フカ如ク自然ナル需要ノ傾向ニ因リニ途ニ分カルトノ觀ナキニアラスト雖其歸着スルトコロニ於テハ何モ品質良好ナル佳品ヲ製出スルノ目的トセサルヘカラス假令ハ品質良好ナル手操製ハ之ヲ飲用スレハ爽涼甘美ノ快感ヲ與ヘ又之ヲ火入再製シテ貿易品トナセハ益其香氣ヲ芳烈シ其味ヲ強カラシメ一層其良好ナル本質ヲ發揮セシムルニ反シ專ラ形狀ノ完美ヲ主トスルモノニ至リテハ唯直ニ飲用シテ不快ノ感アルノミナラス之ヲ再製シテ貿易品トナセハ其香味ハ却テ減退スルヲ免レス只形狀ノ美ニシテ比較的再製上ノ減量ノ少ナキヲ見テ動モスレハ形狀水位ニ傾カントスルノ狀況アルハ痛歎スヘシ由來本縣ノ如キハ内地向キトシテハ東京ニ於テ所謂宇治信樂茶ト云フカ如キ榮稱ヲ受ケ又政所茶ノ如キモ古來銘産地トシテ喧傳セラレ其他ノ製産地方モ氣候風土ノ關係上佳品ヲ産出スル難キニアラスト信ス是レ倍々製法ノ改善ニ努メ而モ之ヲ爲スニ於テ統一の方針ヲ可トセサルヲ得サル所以ナリ若シ夫レ其方法ニ至リテハ首トシテ採切製法並ニ之ヲ本首トセル製法ヲ採用シ種々適切ナル方法ニ因リ之カ普及ヲ圖ラントス 以上

本會ノ施設 製茶講習會

由來本縣ハ優良茶ノ産地トシテ已ニ世ニ喧傳セラレツトアリト雖モ製法ハ未熟ニシテ粗製濫造ノ地方モ亦少ラカラス本所ハ逐年各地ニ製茶講習會ヲ開キ之レカ改良獎勵ニ努メツトアルモ未ダ一般ニ普及セシムルコト能ハス依テ現下ノ急務トシテハ本縣ノ製茶方法ヲ統一ナラシメ益々改善ノ途ニ進マシムルハ時運ニ適應スル所以ニシテ大正六年度ニ於テハ縣下適當ノ場所ヲ選擇シ數十ヶ所ノ製茶講習會ヲ開設シ最モ優秀ナル技術員ヲシテ改良手操製法ヲ教授シ技術ノ進歩品質ノ向上ヲ圖リ以テ價格ヲ上騰ナラシメ從テ農家ノ副業ヲ進セシメント欲ス而シテ之ヲ五ヶ年間繼續スルトキハ約一千名ノ修業者ヲ得之ヲ縣下各地ニ散在セシメ斯業ニ從事シ且ツ未熟者ニ之ヲ普及セシムルニ於テハ本縣製茶ニ大ナル變化ヲ來タシ本邦中統一の最モ優良ナル銘茶製産地トシテ稱讃セラル、ニ至ルハ論ヲ俟タス故ニ本所ハ則チ此計畫ヲ以テ茲ニ開設シタルモノナリ 製茶研究會 前記製茶講習會ヲ實施スルノ前提トシテ五月十三日本所ニ於テ技術員打合會ヲ開催シ五月十四五六ノ三日間大津市馬場ニ於テ改良手操製法研究會ヲ開設シ技術員十名各自實地ニ於テ之ヲ製造シ以テ技術ヲ統一ナラシメ指導上ニ關スル研究ヲ圖レリ講師トシテ本縣技術員中治郎松氏臨場シ本縣勸業課長農事試驗場技師各市郡技術員及其他有志者多數之ヲ參觀セラレタリ

製茶講習會ノ成績表

時期	開設月日	開設地	會場	主	擔任教師	日數	修業生數	製茶賣却價格
一番茶	自五月十二日	滋賀郡石山村	白水新之助	堀篤松	堀篤松	五日	五人	一貫二付 三・〇〇〇
同	同 五月十七日	野洲郡河西村	遠藤甚右衛門	本郷庄八	森二	五日	七人	三・〇〇〇
同	同 同	栗太郡下田上村	山本太三郎	左近	宮崎次郎	五日	八人	三・〇〇〇
同	同 同二十日	同 大石村	北出伊三郎	堀篤松	堀篤松	五日	七人	三・〇〇〇

ニ増設ナシ一般當業者ノ希望ニ添ハシムルコト、シタルヲ以テ通計三十五ヶ所トナレリ今其成績ノ概要ヲ見ルニ愛知、神崎、蒲生ノ各郡及甲賀、滋賀兩郡ノ一部ニ於テハ著シキ好果ヲ收メ當業者ノ意向ナ一變セシメ阪田、高島、兩郡ノ如キ從來製茶ニ不熱心ニシテ幼稚ナリシ地方モ大ニ其有利ナル事業ナルコトヲ認メ將來大ニ發展スヘキ端緒ヲ開キタル如ク斯業界ノ爲メ實ニ慶賀スヘキ所ニシテ就中本邦茶ノ銘産地タル政所茶ノ如キハ近時稍々世ノ嗜好ニ違サカリ、販路漸縮ノ傾向ヲ呈シツ、アリシカ今回ノ講習會ノ製品ハ色澤ノ鮮麗ニシテ佳味ヲ出シ山城宇治上等煎茶ノ右ニ出ツルノ好評ヲ得テ價格荒茶一貫目五圓五十錢ニ賣却シ甲賀郡山内村四圓六十五錢ニ賣却シタル等本縣普通煎茶トシテ新記録ヲ作りタリ、各講習所ハ何レモ郡町村長始メ吏員技術者地方青年團及各有志者等日々多數ノ參觀者アリテ一般ノ裨益鮮少ナラサリキ本會ノ成績ハ最モ良好ナル結果ヲ得タルモノトス

一 巡回指導 一番二番茶期ニ於テ左ノ技術員ヲシテ各地ヲ巡回セシメ改良手採法及製茶機械使用方法ヲ實地ニ就キ指導シ且ツ監督セシメツ、アリ。植田稔 岸村直吉 中村喜一郎 一荷票取締 検査員及視察係ヲ以テ製茶荷票取締ノ爲メ縣下一般ヲ巡視セシム一技師員縣外派遣 静岡ニ於ケル手採研究会及京都府木津町ニ於ケル機械調査會ニ技術員ヲ派遣ス一製茶講習會、滋賀縣奥中茶業技手ヲ囑托シテ各地ニ製茶講習會ヲ開催ス一今秋滋賀縣下ニ於テ特別大演習御舉行アラセラルニ付當聯合會講習所ヨリ朝宮煎茶五斤政所玉露五斤ヲ古式ニ倣ヒ最モ清淨ナル裝飾ヲナシテ献上セシニ幸ニ御嘉納ノ榮ヲ賜ハレリ一天覽茶出品 前記大滿習ニ際シ天覽ニ供スヘキ茶ノ出品方ヲ命セラレ縣下最モ優秀ナル經歷ヲ有スルモノ二十二名ヲ選拔シ當所ニ於テ取纏メ出品セリ出品ノ内左ノ五點御買上ノ光榮ニ浴シタリ 煎茶朝宮植田舉邦、同山本晴一郎、同政所白木喜三郎、白木安次郎、滋賀郡正田磯八、一第二回全國製茶品評會 前年ノ如ク當會講習所ヨリ出品者ニ相當ノ補助ヲ交付シ出品セシメタリ此出品數六十二點ニシテ内一等二名二等三名三等二十六名ノ授賞ヲ得全國中最モ良好ノ成績ヲ得タリ出品中指定價格ヲ以テ賣却セラレタル外競賣ニ付シタル内朝宮ノ最高一貫目十圓五十錢政所ノ最高十圓八十錢ニテ賣却シ其他何レモ比較的高價ヲ以テ賣行キタリ

○大正六年度製茶統計

- 一、製茶二十三萬〇五百二十五貫 價額金六十一萬三千二百三十一圓
- 一、番茶 八萬二千六百五十貫 價額金四萬四千五百二十五圓
- 計 三十一萬三千七百七十五貫 價額金六十五萬七千七百五十六圓

前年ニ比シ製茶四萬四百五十二貫減 價額金二萬三千六百三十四圓増
 番茶 二百三十三貫減 價額六千五百七十三圓増
 差引 (前年ニ比シ)産額四萬六千八百八十五貫減 價額三萬二百七圓増

輸出港製茶統計

○横濱港製茶輸出額

(自大正五年四月 至同 六年三月)

月次	仕向先	紐育及東部	市俄古及西部	桑港及太平洋沿	加奈陀	合 計
大正五年	四月	1,831,400	1,000,000	1,550,000	824,000	3,574,000
	五月	1,121,000	895,555	920,700	56,900	1,339,555
	六月	1,121,000	3,110,148	1,101,400	330,100	5,744,833
	七月	1,121,000	4,378,848	1,131,300	1,047,300	7,991,011
	八月	1,121,000	4,378,848	920,700	1,550,000	6,386,555
	九月	1,121,000	2,724,400	920,700	1,550,000	6,346,500
	十月	1,121,000	2,724,400	920,700	1,550,000	6,346,500
	十一月	1,121,000	2,724,400	920,700	1,550,000	6,346,500
	十二月	1,121,000	2,724,400	920,700	1,550,000	6,346,500
	計	11,711,000	51,011,111	51,011,111	21,550,000	215,111,111

大正六年	大正五年
計	計
一月	一月
二月	二月
三月	三月
一元,〇三三	一元,〇三三
八,〇〇〇	八,〇〇〇
三,〇〇〇	三,〇〇〇
六,五七二,八六五	六,五七二,八六五
三,五二八,八五〇	三,五二八,八五〇
三,〇〇〇	三,〇〇〇
二,五〇〇,七三〇	二,五〇〇,七三〇
一,七,六五五,〇五二	一,七,六五五,〇五二
七,七〇〇	七,七〇〇
一,五,五五〇	一,五,五五〇
三,〇〇〇	三,〇〇〇
五,三三〇,三三九	五,三三〇,三三九
六,〇〇〇,〇五〇	六,〇〇〇,〇五〇
四,八七五	四,八七五
六,三,六九五	六,三,六九五
二,一六〇	二,一六〇
三,九,三三五	三,九,三三五
三,五,九一九,三〇〇	三,五,九一九,三〇〇
四,三,四六七	四,三,四六七
四,四,三三五	四,四,三三五
三,九,三三五	三,九,三三五
三,五,九一九,三〇〇	三,五,九一九,三〇〇

○神戸港製茶輸出額 (自大正五年四月) (至同六年三月)

大正六年	大正五年
計	計
一月	一月
二月	二月
三月	三月
四月	四月
五月	五月
六月	六月
七月	七月
八月	八月
九月	九月
十月	十月
十一月	十一月
十二月	十二月
九二〇,〇五八	九二〇,〇五八
一,八〇〇,六四五	一,八〇〇,六四五
四,五,二九八	四,五,二九八
五,四二,五七	五,四二,五七
二,八〇〇	二,八〇〇
三,五,七三五	三,五,七三五
九,一,八三〇	九,一,八三〇
一,六,八七〇	一,六,八七〇
八,八七,六二八	八,八七,六二八
九七,八三五	九七,八三五
九七,八三五	九七,八三五
二四,五四〇	二四,五四〇
二五,八〇〇	二五,八〇〇
四,五,三三〇	四,五,三三〇
一,三三〇	一,三三〇
一,一三〇	一,一三〇
一,〇三六	一,〇三六
九,〇八〇	九,〇八〇
一四,八四〇	一四,八四〇
一八,〇〇〇	一八,〇〇〇
二,八〇〇	二,八〇〇
三,五,七三五	三,五,七三五
九,一,八三〇	九,一,八三〇
三〇,〇三五	三〇,〇三五
一,三,三三三	一,三,三三三
一八,九三五	一八,九三五
二四,五四〇	二四,五四〇
二五,八〇〇	二五,八〇〇
四,五,三三〇	四,五,三三〇
三,二九八,五九八	三,二九八,五九八

○兩港前年ニ對スル増減比較表

年度	仕向先	増減
大正五年	大正五年	大正五年
横濱	神戸	横濱
大正五年	大正五年	大正五年
増	減	増
減	増	減
一,四七〇,六六六	一,四七〇,六六六	一,四七〇,六六六
一,三,八七八	一,三,八七八	一,三,八七八
四九〇,七九九	四九〇,七九九	四九〇,七九九
二,一九〇	二,一九〇	二,一九〇
四八,一七四	四八,一七四	四八,一七四
三,三,三六八	三,三,三六八	三,三,三六八
九,六,三〇八	九,六,三〇八	九,六,三〇八
一,〇七,九三三	一,〇七,九三三	一,〇七,九三三
一四,〇一八	一四,〇一八	一四,〇一八

○大正五年度四日市及名古屋港輸出茶調 (右左………個數) (封度)

仕向先	大正五年	大正五年
月次	月次	月次
一月	一月	一月
二月	二月	二月
三月	三月	三月
四月	四月	四月
五月	五月	五月
六月	六月	六月
七月	七月	七月
八月	八月	八月
九月	九月	九月
十月	十月	十月
計	計	計
紐育	二,七五五	二,七五五
市俄古	四,七〇〇	四,七〇〇
太平洋沿岸	三,七〇〇	三,七〇〇
加奈陀	一,〇八八	一,〇八八
其他	一,〇〇〇	一,〇〇〇
計	一,〇七,九三三	一,〇七,九三三
紐育	一,四七〇,六六六	一,四七〇,六六六
市俄古	二,一九〇	二,一九〇
太平洋沿岸	三,三三〇	三,三三〇
加奈陀	三,〇〇〇	三,〇〇〇
其他	一,〇〇〇	一,〇〇〇
計	一四,〇一八	一四,〇一八

府縣別	橫濱		神戶		長崎		計
	噸	斤	噸	斤	噸	斤	
靜岡縣							
埼玉縣							
東京府							
大阪府							
滋賀縣							
京都府							
合計							

○大正五年自十二月 橫濱、神戶、長崎三港製茶入荷調表 左……斤量 右……商數

月次	大正五年		大正四年		大正三年	
	噸	斤	噸	斤	噸	斤
十月						
十一月						
十二月						
合計						

○橫濱神戶其他各港製茶輸出高並前二箇年對照表 (自大正五年四月 至同六年三月)

月次	大正五年		大正四年		大正三年	
	噸	斤	噸	斤	噸	斤
七月						
八月						
九月						
十月						
十一月						
十二月						
合計						

(大藏省主稅局外國貿易月表抄錄) 右……斤量, 左……價額(圓)

月次	大正五年		大正四年		大正三年	
	噸	斤	噸	斤	噸	斤
十月						
十一月						
十二月						
合計						

福岡縣	愛媛縣	高知縣	徳島縣	和歌山縣	山口縣	廣島縣	岡山縣	兵庫縣	福井縣	石川縣	岐阜縣	三重縣	奈良縣
11,760	9,085	7,310	7,000	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500
11,760	9,085	7,310	7,000	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500

二六

○直輸入製茶調

出荷縣別	入荷港	大分縣	熊本縣	宮崎縣	鹿兒島縣	長崎縣	佐賀縣	計	參考 大正四年 合計
靜岡	橫濱	11,760	9,085	7,310	7,000	1,500	1,500	1,500	11,760
三重	清水平	9,085	7,310	7,000	1,500	1,500	1,500	1,500	9,085
長崎	四日市	7,310	7,000	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	7,310
計	神戸	7,000	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	7,000
計	戸長崎	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500
計	計	11,760	9,085	7,310	7,000	1,500	1,500	1,500	11,760

左右……筒數
封度

二七

スーシテ	三、〇〇〇	アウロウ	二六、〇〇〇	マンタ	六、〇〇〇	ウキンド	二、七五〇
パイシテ	三、二〇〇	イスマダ	一五、五〇〇	バルチモ	五、二〇〇	スミスホ	二、〇〇〇
タコイン	三、〇〇〇	ウキツチ	二、七〇〇	ミルツス	五、〇〇〇	アルパ	二、〇〇〇
シット	三、〇〇〇	ポトヘン	二、〇〇〇	リサ	五、〇〇〇	ホイ	二、〇〇〇
ポト	三、〇〇〇	ポトスキ	一、〇〇〇	クエツ	四、〇〇〇	ヘイ	二、〇〇〇
アパ	三、〇〇〇	ノイン	八、〇〇〇	クエツ	四、〇〇〇	ハ	二、〇〇〇
ロサン	三、〇〇〇	スリ	七、五〇〇	エ	三、〇〇〇	イ	二、〇〇〇
ホノ	三、〇〇〇	マザ	六、〇〇〇	ニ	三、〇〇〇	ス	二、〇〇〇
ア	三、〇〇〇	レー	六、〇〇〇	ツ	二、九〇〇	計	二六、〇〇〇
デ	三、〇〇〇	キ	六、〇〇〇	フ	二、九〇〇		
ベ	三、〇〇〇	ミ	六、〇〇〇	イル	二、九〇〇		
ト	三、〇〇〇	ル	六、〇〇〇	ド	二、九〇〇		
ス	三、〇〇〇	ツ	六、〇〇〇				
キ	三、〇〇〇	ス	六、〇〇〇				
イ	三、〇〇〇						

○大正五年四日市及名古屋港輸出茶仕向先

組 市俄古及シカゴ、 育 イントラン ラット	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇	八、八〇〇 一、四〇〇 一、二〇〇	ボ ロ ゲ エ ス タ ー	五、〇〇 二、七〇	四、〇〇〇 二、〇〇〇	ク ラ ン ド ラ ビ ット	九、〇〇 六、〇〇	五、〇〇〇 五、〇〇〇
組 市俄古及シカゴ、 育 イントラン ラット	四、八五〇 三、三〇〇 二、九〇〇 二、五〇〇	三、九〇〇 二、九〇〇 二、五〇〇 二、一〇〇	テ ト ロ イ ト	二、五〇	一、七五〇 三、七五〇	ウ キ ク ト リ ヤ	一、〇〇〇 一、〇〇〇	一、〇〇〇 一、〇〇〇
組 市俄古及シカゴ、 育 イントラン ラット	三、〇〇〇 二、八〇〇 二、六〇〇 二、四〇〇	二、九〇〇 二、五〇〇 二、一〇〇 一、七〇〇	ボ ス ト ン	二、五〇	九、〇〇 八、〇〇	ウ キ ク ト リ ヤ	一、〇〇〇 一、〇〇〇	一、〇〇〇 一、〇〇〇
組 市俄古及シカゴ、 育 イントラン ラット	二、五〇〇 二、〇〇〇 一、五〇〇 一、〇〇〇	一、九〇〇 一、四〇〇 一、〇〇〇 〇、五〇〇	ボ ス ト ン	二、五〇	九、〇〇 八、〇〇	ウ キ ク ト リ ヤ	一、〇〇〇 一、〇〇〇	一、〇〇〇 一、〇〇〇

組 市俄古及シカゴ、 育 イントラン ラット	七、〇〇 四、五〇 二、三〇	五、八〇〇 二、八〇〇 一、九〇〇	ミ チ ソ タ	二、六五 三、八七	三、三〇〇 三、九〇〇 二、四〇〇	ラ ト ラ ン ド	一、九〇〇 五、八五〇 八、七五〇
組 市俄古及シカゴ、 育 イントラン ラット	五、二五 一、八〇	四、一五〇 一、八〇	ク リ ア ラ ン ド	四、二五	三、六〇〇 九、〇〇〇	シ ラ キ ユ ー ス	二、〇〇〇
組 市俄古及シカゴ、 育 イントラン ラット	三、〇〇 二、五〇 二、〇〇	二、六〇〇 二、二〇〇 一、八〇〇	シ ラ キ ユ ー ス	三、八七	三、三〇〇 三、九〇〇 二、四〇〇	ラ ト ラ ン ド	一、九〇〇 五、八五〇 八、七五〇
組 市俄古及シカゴ、 育 イントラン ラット	二、〇〇 一、五〇 一、〇〇	一、六〇〇 一、二〇〇 〇、八〇〇	シ ラ キ ユ ー ス	三、八七	三、三〇〇 三、九〇〇 二、四〇〇	ラ ト ラ ン ド	一、九〇〇 五、八五〇 八、七五〇

組 市俄古及シカゴ、 育 イントラン ラット	二、〇〇 一、六〇 一、二〇	一、六〇〇 一、二〇〇 〇、八〇〇	シ ラ キ ユ ー ス	二、六五 三、八七	三、三〇〇 三、九〇〇 二、四〇〇	ラ ト ラ ン ド	一、九〇〇 五、八五〇 八、七五〇
組 市俄古及シカゴ、 育 イントラン ラット	一、〇〇 〇、五〇 〇、〇〇	〇、六〇〇 〇、三〇〇 〇、〇〇〇	シ ラ キ ユ ー ス	二、六五 三、八七	三、三〇〇 三、九〇〇 二、四〇〇	ラ ト ラ ン ド	一、九〇〇 五、八五〇 八、七五〇
組 市俄古及シカゴ、 育 イントラン ラット	〇、五〇 〇、二五 〇、〇〇	〇、三〇〇 〇、一五〇 〇、〇〇〇	シ ラ キ ユ ー ス	二、六五 三、八七	三、三〇〇 三、九〇〇 二、四〇〇	ラ ト ラ ン ド	一、九〇〇 五、八五〇 八、七五〇
組 市俄古及シカゴ、 育 イントラン ラット	〇、二五 〇、〇〇 〇、〇〇	〇、一五〇 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇	シ ラ キ ユ ー ス	二、六五 三、八七	三、三〇〇 三、九〇〇 二、四〇〇	ラ ト ラ ン ド	一、九〇〇 五、八五〇 八、七五〇

○大正六年自五月至九月静岡市移入調

府	縣	別	五	六	七	八	九	計
栃	木	縣	五,四〇〇					五,四〇〇
福	島	縣	八,六〇〇					八,六〇〇
長	野	縣	八,六〇〇					八,六〇〇
和	歌	山	縣	二,八七〇				二,八七〇
佐	賀	縣	八,六〇〇					八,六〇〇
山	口	縣	八,六〇〇					八,六〇〇
山	梨	縣	八,六〇〇					八,六〇〇
岩	手	縣	八,六〇〇					八,六〇〇
群	馬	縣	八,六〇〇					八,六〇〇
秋	田	縣	八,六〇〇					八,六〇〇
青	森	縣	八,六〇〇					八,六〇〇
北	海	道	八,六〇〇					八,六〇〇
山	形	縣	八,六〇〇					八,六〇〇
宮	城	縣	八,六〇〇					八,六〇〇
三三								

府	縣	別	五	六	七	八	九	計
靜	岡	縣	四,七〇〇	三,八〇〇	四,一〇〇	三,九〇〇	三,五〇〇	二,一〇〇
三	重	縣	五,〇〇〇	四,八〇〇	四,六〇〇	四,四〇〇	四,二〇〇	三,〇〇〇
兵	庫	縣	七,五〇〇	七,三〇〇	七,一〇〇	六,九〇〇	六,七〇〇	五,五〇〇
岐	阜	縣	三,七〇〇	三,六〇〇	三,五〇〇	三,四〇〇	三,三〇〇	二,二〇〇
熊	木	縣	一,二〇〇	一,一〇〇	一,〇〇〇	九〇〇	八〇〇	七〇〇
京	都	府	四,〇〇〇	三,九〇〇	三,八〇〇	三,七〇〇	三,六〇〇	二,五〇〇
愛	知	縣	七,八〇〇	七,六〇〇	七,四〇〇	七,二〇〇	七,〇〇〇	五,九〇〇
滋	賀	縣	六,七〇〇	六,五〇〇	六,三〇〇	六,一〇〇	五,九〇〇	四,八〇〇
神	奈	川	縣	五,五〇〇	五,三〇〇	五,一〇〇	四,九〇〇	三,八〇〇
大	阪	府	三,六〇〇	三,五〇〇	三,四〇〇	三,三〇〇	三,二〇〇	二,一〇〇
東	京	府	三,五〇〇	三,四〇〇	三,三〇〇	三,二〇〇	三,一〇〇	二,〇〇〇
福	岡	縣	二,九〇〇	二,八〇〇	二,七〇〇	二,六〇〇	二,五〇〇	一,四〇〇
茨	城	縣	三,五〇〇	三,四〇〇	三,三〇〇	三,二〇〇	三,一〇〇	二,〇〇〇
三二								

入荷先	月次		大正五年		大正六年		計			
	四月	五月	六月	七月	八月	九月		十月	十一月	十二月
三南	二,九八八	三,六八〇	五,八〇〇	三,五〇〇	二,一五〇	二,八〇〇	一,五〇〇	六,五〇〇	八,五〇〇	五,一七三
重北	三,九〇〇	二,五〇〇	一,一〇〇	二,七〇〇	二,〇〇〇	一,八〇〇	一,五〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	八,七八〇
伊賀	二,一〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	五,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	七,一〇〇
京都	四,五〇〇	三,〇〇〇	九,〇〇〇	一,〇〇〇	五,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	七,八〇〇
滋賀	三,九〇〇	三,〇〇〇	五,〇〇〇	五,〇〇〇	五,〇〇〇	五,〇〇〇	五,〇〇〇	五,〇〇〇	五,〇〇〇	四〇,〇〇〇
岐阜	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三〇,〇〇〇
静岡	六,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三〇,〇〇〇
兵庫	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三〇,〇〇〇
熊本	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三〇,〇〇〇
神戶	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三〇,〇〇〇
合計	五,一九五	七,〇七五	九,〇七五	六,〇〇〇	五,六六九	八,七〇七	三,四二六	三,七三三	三,七三三	三,四九〇

○大正五年度四日市驛製茶入荷調

(右……個數 左……斤量)

合計	月次		大正五年		大正六年		計			
	四月	五月	六月	七月	八月	九月		十月	十一月	十二月
石川縣	二,八〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三〇,〇〇〇
埼玉縣	六,〇〇〇	六,〇〇〇	六,〇〇〇	六,〇〇〇	六,〇〇〇	六,〇〇〇	六,〇〇〇	六,〇〇〇	六,〇〇〇	六〇,〇〇〇
福井縣	七,〇〇〇	七,〇〇〇	七,〇〇〇	七,〇〇〇	七,〇〇〇	七,〇〇〇	七,〇〇〇	七,〇〇〇	七,〇〇〇	七〇,〇〇〇
奈良縣	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三〇,〇〇〇
千葉縣	五,〇〇〇	五,〇〇〇	五,〇〇〇	五,〇〇〇	五,〇〇〇	五,〇〇〇	五,〇〇〇	五,〇〇〇	五,〇〇〇	五〇,〇〇〇
宮城縣	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一〇,〇〇〇
朝鮮	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一〇,〇〇〇
滿洲	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一〇,〇〇〇
廣島縣	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一〇,〇〇〇
岡山縣	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一〇,〇〇〇
新潟縣	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一〇,〇〇〇
長野縣	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一〇,〇〇〇
佐賀縣	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一〇,〇〇〇
鹿兒島縣	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一〇,〇〇〇
合計	三,四九〇	三,七三三	三,七三三	三,四二六	三,七〇七	八,七〇七	三,四二六	三,七三三	三,七三三	三,四九〇

比	前	臺	較	年	計	灣	入荷先月次															
							一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計			
(+)	二,七〇〇	三,〇〇〇	九,一〇〇		一,〇〇〇																	
(-)	一,三〇〇	四,九〇〇	九,三〇〇		二,三〇〇																	
(+)	三,一〇〇	四,九〇〇	九,一〇〇		一,〇〇〇																	
(+)	一,九〇〇	三,〇〇〇	五,九〇〇		三,〇〇〇																	
(-)	一,〇〇〇	四,九〇〇	九,三〇〇		二,三〇〇																	
(+)	二,七〇〇	三,〇〇〇	五,九〇〇		三,〇〇〇																	
(-)	一,〇〇〇	四,九〇〇	九,三〇〇		二,三〇〇																	
(+)	三,一〇〇	四,九〇〇	九,一〇〇		一,〇〇〇																	
(-)	一,〇〇〇	四,九〇〇	九,三〇〇		二,三〇〇																	
(+)	二,七〇〇	三,〇〇〇	五,九〇〇		三,〇〇〇																	
(+)	一,九〇〇	三,〇〇〇	五,九〇〇		三,〇〇〇																	
(+)	一,〇〇〇	四,九〇〇	九,三〇〇		二,三〇〇																	
(+)	三,一〇〇	四,九〇〇	九,一〇〇		一,〇〇〇																	
(-)	一,〇〇〇	四,九〇〇	九,三〇〇		二,三〇〇																	
(+)	二,七〇〇	三,〇〇〇	五,九〇〇		三,〇〇〇																	
(+)	一,九〇〇	三,〇〇〇	五,九〇〇		三,〇〇〇																	
(+)	一,〇〇〇	四,九〇〇	九,三〇〇		二,三〇〇																	
(+)	三,一〇〇	四,九〇〇	九,一〇〇		一,〇〇〇																	
(-)	一,〇〇〇	四,九〇〇	九,三〇〇		二,三〇〇																	
(+)	二,七〇〇	三,〇〇〇	五,九〇〇		三,〇〇〇																	
(+)	一,九〇〇	三,〇〇〇	五,九〇〇		三,〇〇〇																	
(+)	一,〇〇〇	四,九〇〇	九,三〇〇		二,三〇〇																	
(+)	三,一〇〇	四,九〇〇	九,一〇〇		一,〇〇〇																	
(-)	一,〇〇〇	四,九〇〇	九,三〇〇		二,三〇〇																	
(+)	二,七〇〇	三,〇〇〇	五,九〇〇		三,〇〇〇																	
(+)	一,九〇〇	三,〇〇〇	五,九〇〇		三,〇〇〇																	
(+)	一,〇〇〇	四,九〇〇	九,三〇〇		二,三〇〇																	
(+)	三,一〇〇	四,九〇〇	九,一〇〇		一,〇〇〇																	

○大正五年東京市製茶入荷個數調

入荷先月次	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計
靜岡	一,七四〇	一,八四〇	七六六	一五九	二七七	六七七	六八四	四,〇九〇	三,〇一四	二七三	三三九	一,八五六	三,〇八二
京都	七三三	七二一	五二一	七三三	九	六二一	一,一九九	一,二四一	一,四六七	一,五〇九	一,三三二	一,〇三三	一〇,四〇八
三重	四〇〇	四四三	四三	一	一五	二五三	二七三	一八	六	一〇四	二八八	一四	一,五九九
滋賀	五五五	一四三	四三	一	二〇	一一五	二七三	二九	二七五	三六	二四	一四	一,三三四
奈良	一七	一五	三三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一八
埼玉	一七	一五	三三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一六九
茨城	四七	〇	三〇	一〇	一	一	一	一	一	一	一	一	一六九
千葉	一七	一五	三三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一六九
神戶	一七	一五	三三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一六九
東京府	一七	一五	三三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一六九
東京府	一七	一五	三三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一六九
東京府	一七	一五	三三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一六九
東京府	一七	一五	三三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一六九
東京府	一七	一五	三三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一六九
東京府	一七	一五	三三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一六九
東京府	一七	一五	三三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一六九
東京府	一七	一五	三三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一六九
東京府	一七	一五	三三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一六九
東京府	一七	一五	三三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一六九
東京府	一七	一五	三三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一六九
東京府	一七	一五	三三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一六九
東京府	一七	一五	三三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一六九
東京府	一七	一五	三三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一六九
東京府	一七	一五	三三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一六九
東京府	一七	一五	三三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一六九
東京府	一七	一五	三三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一六九

年次	栃木				岐阜				大井				福井				計			
	一	二	三	計	一	二	三	計	一	二	三	計	一	二	三	計	一	二	三	計
明治三十九年	九,九四〇	七,五二八	四,九四〇	二七,四〇八	八,八三三	五,一八九	二,三八七	一〇,九二〇	二,二四九	二,九二二	二,三六八	七,五三九	二,八八六	二,八八六	二,八八六	八,六六八	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	六,〇〇〇
四十年	九,九四〇	七,五二八	四,九四〇	二七,四〇八	八,八三三	五,一八九	二,三八七	一〇,九二〇	二,二四九	二,九二二	二,三六八	七,五三九	二,八八六	二,八八六	二,八八六	八,六六八	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	六,〇〇〇
四十一年	八,四三二	六,九九三	四,九四〇	一九,三六五	七,〇〇一	四,九四〇	二,三八七	一〇,九二〇	二,二四九	二,九二二	二,三六八	七,五三九	二,八八六	二,八八六	二,八八六	八,六六八	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	六,〇〇〇
四十二年	一〇,〇〇一	七,七五三	五,三五四	二二,一〇九	一〇,〇〇一	七,七五三	五,三五四	二二,一〇九	一〇,〇〇一	七,七五三	五,三五四	二二,一〇九	一〇,〇〇一	七,七五三	五,三五四	二二,一〇九	一〇,〇〇一	七,七五三	五,三五四	二二,一〇九
四十三年	一〇,〇〇一	七,七五三	五,三五四	二二,一〇九	一〇,〇〇一	七,七五三	五,三五四	二二,一〇九	一〇,〇〇一	七,七五三	五,三五四	二二,一〇九	一〇,〇〇一	七,七五三	五,三五四	二二,一〇九	一〇,〇〇一	七,七五三	五,三五四	二二,一〇九
四十四年	二二,九九六	七,八四四	五,八六七	三六,七〇七	一〇,〇〇一	七,七五三	五,三五四	二二,一〇九	一〇,〇〇一	七,七五三	五,三五四	二二,一〇九	一〇,〇〇一	七,七五三	五,三五四	二二,一〇九	一〇,〇〇一	七,七五三	五,三五四	二二,一〇九
大正元年	三三,六一四	八,四三七	六,二七七	四八,一七八	一〇,〇〇一	七,七五三	五,三五四	二二,一〇九	一〇,〇〇一	七,七五三	五,三五四	二二,一〇九	一〇,〇〇一	七,七五三	五,三五四	二二,一〇九	一〇,〇〇一	七,七五三	五,三五四	二二,一〇九
二年	一一,八四八	八,四三七	五,九一五	二六,一七三	七,三五四	七,三五四	七,三五四	二二,一〇九	一〇,〇〇一	七,七五三	五,三五四	二二,一〇九	一〇,〇〇一	七,七五三	五,三五四	二二,一〇九	一〇,〇〇一	七,七五三	五,三五四	二二,一〇九
三年	一一,八四八	八,四三七	五,九一五	二六,一七三	七,三五四	七,三五四	七,三五四	二二,一〇九	一〇,〇〇一	七,七五三	五,三五四	二二,一〇九	一〇,〇〇一	七,七五三	五,三五四	二二,一〇九	一〇,〇〇一	七,七五三	五,三五四	二二,一〇九
四年	一九,五〇四	七,五七三	六,四三三	三三,五〇〇	九,二七八	七,三五四	七,三五四	二二,一〇九	一〇,〇〇一	七,七五三	五,三五四	二二,一〇九	一〇,〇〇一	七,七五三	五,三五四	二二,一〇九	一〇,〇〇一	七,七五三	五,三五四	二二,一〇九

○製茶累年比較統計表 (大正六年三月 農商務省刊行)

年次	碾茶				煎茶				紅茶				烏龍茶				其他				計
	一	二	三	計	一	二	三	計	一	二	三	計	一	二	三	計	一	二	三	計	
明治三十九年	九,九四〇	七,五二八	四,九四〇	二七,四〇八	八,八三三	五,一八九	二,三八七	一〇,九二〇	二,二四九	二,九二二	二,三六八	七,五三九	二,八八六	二,八八六	二,八八六	八,六六八	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	六,〇〇〇	
四十年	九,九四〇	七,五二八	四,九四〇	二七,四〇八	八,八三三	五,一八九	二,三八七	一〇,九二〇	二,二四九	二,九二二	二,三六八	七,五三九	二,八八六	二,八八六	二,八八六	八,六六八	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	六,〇〇〇	
四十一年	八,四三二	六,九九三	四,九四〇	一九,三六五	七,〇〇一	四,九四〇	二,三八七	一〇,九二〇	二,二四九	二,九二二	二,三六八	七,五三九	二,八八六	二,八八六	二,八八六	八,六六八	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	六,〇〇〇	
四十二年	一〇,〇〇一	七,七五三	五,三五四	二二,一〇九	一〇,〇〇一	七,七五三	五,三五四	二二,一〇九	一〇,〇〇一	七,七五三	五,三五四	二二,一〇九	一〇,〇〇一	七,七五三	五,三五四	二二,一〇九	一〇,〇〇一	七,七五三	五,三五四	二二,一〇九	
四十三年	一〇,〇〇一	七,七五三	五,三五四	二二,一〇九	一〇,〇〇一	七,七五三	五,三五四	二二,一〇九	一〇,〇〇一	七,七五三	五,三五四	二二,一〇九	一〇,〇〇一	七,七五三	五,三五四	二二,一〇九	一〇,〇〇一	七,七五三	五,三五四	二二,一〇九	
四十四年	二二,九九六	七,八四四	五,八六七	三六,七〇七	一〇,〇〇一	七,七五三	五,三五四	二二,一〇九													

○製茶產額及輸出累年比較 (同前)

年次	內國產額		外國輸出		產出ト輸出トノ差	百分比例		外國輸出	
	數量	價額	數量	價額		內國存留	外國輸出	價額	百斤價格
明治三十九年	四、一五、四九四	三、〇三、二八八	一、〇七、二六六	三、〇三、二八八	一、〇七、二六六	三、〇三、二八八	一、〇七、二六六	三、〇三、二八八	三、〇三、二八八
同 四十年	四、〇四九、九九	三、〇六、四七三	一、五、六五、四四七	三、〇六、四七三	一、五、六五、四四七	三、〇六、四七三	一、五、六五、四四七	三、〇六、四七三	三、〇六、四七三
同 四十一年	四、三三、三三八	三、六、六、九七	一九、六四九、三六七	三、六、六、九七	一九、六四九、三六七	三、六、六、九七	一九、六四九、三六七	三、六、六、九七	三、六、六、九七
同 四十二年	四、九四、一五六	三、七、四、五〇	一九、一九八、五八六	三、七、四、五〇	一九、一九八、五八六	三、七、四、五〇	一九、一九八、五八六	三、七、四、五〇	三、七、四、五〇
同 四十三年	五、一四、一八八	三、九、四、四七	一九、一、九、八七一	三、九、四、四七	一九、一、九、八七一	三、九、四、四七	一九、一、九、八七一	三、九、四、四七	三、九、四、四七
同 四十四年	五、二五、三三八	三、一、八、五九四	三、〇六、九、五四四	三、一、八、五九四	三、〇六、九、五四四	三、一、八、五九四	三、〇六、九、五四四	三、一、八、五九四	三、一、八、五九四
大正元年	五、一、四、三三	二、九、八、八、五〇	二、六、一、五、五〇	二、九、八、八、五〇	二、六、一、五、五〇	二、九、八、八、五〇	二、六、一、五、五〇	二、九、八、八、五〇	二、六、一、五、五〇
同 二年	五、四、七、〇〇	二、五、五、三、〇〇	二、九、三、五、四、七五	二、五、五、三、〇〇	二、九、三、五、四、七五	二、五、五、三、〇〇	二、九、三、五、四、七五	二、五、五、三、〇〇	二、九、三、五、四、七五
同 三年	五、四、一、八、六九	二、九、六、〇、五〇	二、四、五、六、〇九九	二、九、六、〇、五〇	二、四、五、六、〇九九	二、九、六、〇、五〇	二、四、五、六、〇九九	二、九、六、〇、五〇	二、四、五、六、〇九九
同 四年	五、七、一、〇〇、八二	三、九、九、七、六三	三、三、三、三、二四八	三、九、九、七、六三	三、三、三、三、二四八	三、九、九、七、六三	三、三、三、三、二四八	三、九、九、七、六三	三、三、三、三、二四八

○製茶產額種別明細表 (大正六年三月 農商務省刊行)

地方	製造戶數	玉露		煎茶		茶葉	
		數量	價額	數量	價額	數量	價額
東京	三、六、六	一、〇〇七	七、三、二六	七、七	六、八、八四四	一六八、八四四	二、七
神戶	七、七	三、三	一、七、四四	五、四〇	一、九、五五〇	三八、七九八	一、九八
大阪	四、五七	三、三	一、七、四四	四、四三	一、七、六三九	五八、五二二	三、三
京都	一、三、九〇	七	三	四、〇〇	一、〇、〇九七	二、四二	〇、七〇
奈良	四、九、三二	二	一〇	五、〇〇	一、〇、〇九七	二、四二	〇、七〇
和歌山	二、八、二五	七	七、七	三、九、三七一	九、六、六〇七	二、四二	〇、七〇
新加坡	一、七、七	一、五、〇〇	八、六、四、五	五、六五	二、三、〇四九	二、九	〇、二九
長崎	一、七、七	一、五、〇〇	八、六、四、五	五、六五	二、三、〇四九	二、九	〇、二九
兵衛	三、三、四〇	三、六	二、二、七	六、九	二、二、〇四九	二、七	〇、二七
新加坡	三、三、四〇	三、六	二、二、七	六、九	二、二、〇四九	二、七	〇、二七
群馬	三、〇、五三	一、八	二、九	七、七	二、四、五〇四	二、六	〇、二六
茨城	三、〇、五三	一、八	二、九	七、七	二、四、五〇四	二、六	〇、二六
栃木	三、〇、五三	一、八	二、九	七、七	二、四、五〇四	二、六	〇、二六
愛知	三、〇、五三	一、八	二、九	七、七	二、四、五〇四	二、六	〇、二六
三重	一、五、九三	一、四、四八	八、〇、〇三	五、五	二、四、四九一	二、〇〇	〇、二〇
靜岡	一、五、九三	一、四、四八	八、〇、〇三	五、五	二、四、四九一	二、〇〇	〇、二〇
山梨	二、七、六〇	三、三六	一、九、八、八	五、九七	一、三、九、四三	二、二	〇、二二
滋賀	二、七、六〇	三、三六	一、九、八、八	五、九七	一、三、九、四三	二、二	〇、二二
岐阜	五、四、九	一、九六	八、九、三	五、三六	一、五、一〇九	二、四	〇、二四
長崎	五、四、九	一、九六	八、九、三	五、三六	一、五、一〇九	二、四	〇、二四
宮崎	一、七、三二	一、三三	七、四、九	五、六七	二、〇、九〇三	二、五	〇、二五
福岡	一、七、三二	一、三三	七、四、九	五、六七	二、〇、九〇三	二、五	〇、二五
熊本	三、三、九	二、四七	一、七、五	七、七	二、六、六八四	一、九八	〇、一九
鹿兒島	三、三、九	二、四七	一、七、五	七、七	二、六、六八四	一、九八	〇、一九
神戶	六、〇、四	一、九	一、二、八	三、三	三、三、八四	三、〇〇	〇、三〇
手島	一、九、五	一、九	一、二、八	三、三	三、三、八四	三、〇〇	〇、三〇

地方	製造戶數	數量	價額	數量	價額	數量	價額
東京	三、六、六	一、〇〇七	七、三、二六	七、七	六、八、八四四	一六八、八四四	二、七
神戶	七、七	三、三	一、七、四四	五、四〇	一、九、五五〇	三八、七九八	一、九八
大阪	四、五七	三、三	一、七、四四	四、四三	一、七、六三九	五八、五二二	三、三
京都	一、三、九〇	七	三	四、〇〇	一、〇、〇九七	二、四二	〇、七〇
奈良	四、九、三二	二	一〇	五、〇〇	一、〇、〇九七	二、四二	〇、七〇
和歌山	二、八、二五	七	七、七	三、九、三七一	九、六、六〇七	二、四二	〇、七〇
新加坡	一、七、七	一、五、〇〇	八、六、四、五	五、六五	二、三、〇四九	二、九	〇、二九
長崎	一、七、七	一、五、〇〇	八、六、四、五	五、六五	二、三、〇四九	二、九	〇、二九
兵衛	三、三、四〇	三、六	二、二、七	六、九	二、二、〇四九	二、七	〇、二七
新加坡	三、三、四〇	三、六	二、二、七	六、九	二、二、〇四九	二、七	〇、二七
群馬	三、〇、五三	一、八	二、九	七、七	二、四、五〇四	二、六	〇、二六
茨城	三、〇、五三	一、八	二、九	七、七	二、四、五〇四	二、六	〇、二六
栃木	三、〇、五三	一、八	二、九	七、七	二、四、五〇四	二、六	〇、二六
愛知	一、五、九三	一、四、四八	八、〇、〇三	五、五	二、四、四九一	二、〇〇	〇、二〇
靜岡	一、五、九三	一、四、四八	八、〇、〇三	五、五	二、四、四九一	二、〇〇	〇、二〇
山梨	二、七、六〇	三、三六	一、九、八、八	五、九七	一、三、九、四三	二、二	〇、二二
滋賀	二、七、六〇	三、三六	一、九、八、八	五、九七	一、三、九、四三	二、二	〇、二二
岐阜	五、四、九	一、九六	八、九、三	五、三六	一、五、一〇九	二、四	〇、二四
長崎	五、四、九	一、九六	八、九、三	五、三六	一、五、一〇九	二、四	〇、二四
宮崎	一、七、三二	一、三三	七、四、九	五、六七	二、〇、九〇三	二、五	〇、二五
福岡	一、七、三二	一、三三	七、四、九	五、六七	二、〇、九〇三	二、五	〇、二五
熊本	三、三、九	二、四七	一、七、五	七、七	二、六、六八四	一、九八	〇、一九
鹿兒島	三、三、九	二、四七	一、七、五	七、七	二、六、六八四	一、九八	〇、一九
神戶	六、〇、四	一、九	一、二、八	三、三	三、三、八四	三、〇〇	〇、三〇
手島	一、九、五	一、九	一、二、八	三、三	三、三、八四	三、〇〇	〇、三〇

東 京	大 阪	神 戶	兵 庫	長 崎	新 潟	埼 島	群 馬	茨 城	栃 木	奈 良	愛 知	靜 岡	山 梨	滋 賀	岐 阜	地 方	
																野 田	京 都
110.30	100.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00
110.30	100.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00
110.30	100.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00
110.30	100.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00

山 形	秋 田	福 石	宮 城	石 川	富 山	鳥 取	島 根	廣 島	山 口	德 島	香 川	高 知	愛 媛	大 分	佐 賀	熊 本	宮 崎	鹿 兒 島	沖 計	
																				115.00
115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00
115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00
115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00	115.00

四 一

四 〇

宮城	手形	山田	秋田	福島	石川	富山	島根	山口	島山	廣島	岡山	德島	香川	愛媛	高松	福澤	大分	佐賀	熊本	鹿兒	沖繩	
二,一九三	一,五三三	四二二	六四三	二,一五三	二,六三六	一,〇三〇	二,四二二	二,三〇七	二,〇三三	二,〇八三	〇,八三三	二,二一三	三,三九一	二,三三三	二,四九二	二,〇二〇	二,一六六	一,九一七	二,一五七	二,五二二	二,六二二	二,九七三
三,八五三	二,六三六	六六九	一,五三〇	八〇〇	一,五三〇	一,〇三〇	二,〇八三	二,〇二〇	二,〇八三	二,〇二〇	二,〇二〇	二,〇二〇	二,〇二〇	二,〇二〇	二,〇二〇	二,〇二〇	二,〇二〇	二,〇二〇	二,〇二〇	二,〇二〇	二,〇二〇	二,〇二〇
二,二九三	一,五三三	四二二	六四三	二,一五三	二,六三六	一,〇三〇	二,四二二	二,三〇七	二,〇三三	二,〇八三	〇,八三三	二,二一三	三,三九一	二,三三三	二,四九二	二,〇二〇	二,一六六	一,九一七	二,一五七	二,五二二	二,六二二	二,九七三
二,二九三	一,五三三	四二二	六四三	二,一五三	二,六三六	一,〇三〇	二,四二二	二,三〇七	二,〇三三	二,〇八三	〇,八三三	二,二一三	三,三九一	二,三三三	二,四九二	二,〇二〇	二,一六六	一,九一七	二,一五七	二,五二二	二,六二二	二,九七三
二,二九三	一,五三三	四二二	六四三	二,一五三	二,六三六	一,〇三〇	二,四二二	二,三〇七	二,〇三三	二,〇八三	〇,八三三	二,二一三	三,三九一	二,三三三	二,四九二	二,〇二〇	二,一六六	一,九一七	二,一五七	二,五二二	二,六二二	二,九七三

四二

其二

東京	京都	大阪	神戸	兵衛	長崎	新潟	群馬	千葉	茨城	栃木	群馬	愛知	三重	山梨	静岡
二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
〇・五〇	〇・五〇	〇・五〇	〇・五〇	〇・五〇	〇・五〇	〇・五〇	〇・五〇	〇・五〇	〇・五〇	〇・五〇	〇・五〇	〇・五〇	〇・五〇	〇・五〇	〇・五〇
二,五〇〇	二,五〇〇	二,五〇〇	二,五〇〇	二,五〇〇	二,五〇〇	二,五〇〇	二,五〇〇	二,五〇〇	二,五〇〇	二,五〇〇	二,五〇〇	二,五〇〇	二,五〇〇	二,五〇〇	二,五〇〇
三,五〇〇	三,五〇〇	三,五〇〇	三,五〇〇	三,五〇〇	三,五〇〇	三,五〇〇	三,五〇〇	三,五〇〇	三,五〇〇	三,五〇〇	三,五〇〇	三,五〇〇	三,五〇〇	三,五〇〇	三,五〇〇
二,五〇〇	二,五〇〇	二,五〇〇	二,五〇〇	二,五〇〇	二,五〇〇	二,五〇〇	二,五〇〇	二,五〇〇	二,五〇〇	二,五〇〇	二,五〇〇	二,五〇〇	二,五〇〇	二,五〇〇	二,五〇〇
三,五〇〇	三,五〇〇	三,五〇〇	三,五〇〇	三,五〇〇	三,五〇〇	三,五〇〇	三,五〇〇	三,五〇〇	三,五〇〇	三,五〇〇	三,五〇〇	三,五〇〇	三,五〇〇	三,五〇〇	三,五〇〇
三,五〇〇	三,五〇〇	三,五〇〇	三,五〇〇	三,五〇〇	三,五〇〇	三,五〇〇	三,五〇〇	三,五〇〇	三,五〇〇	三,五〇〇	三,五〇〇	三,五〇〇	三,五〇〇	三,五〇〇	三,五〇〇

四三

府	縣	摘要	金額
滋賀	野上	製茶補助	1,100.000
岐阜	長野	製茶補助	1,100.000
宮城	宮城	製茶補助	1,100.000
福井	福井	製茶補助	1,100.000
石川	石川	製茶補助	1,100.000
富山	富山	製茶補助	1,100.000
島根	島根	製茶補助	1,100.000
岡山	岡山	製茶補助	1,100.000
廣島	廣島	製茶補助	1,100.000
山口	山口	製茶補助	1,100.000
和歌山	和歌山	製茶補助	1,100.000
徳島	徳島	製茶補助	1,100.000
香川	香川	製茶補助	1,100.000
愛媛	愛媛	製茶補助	1,100.000
高知	高知	製茶補助	1,100.000
福岡	福岡	製茶補助	1,100.000

府	縣	摘要	金額
大分	大分	製茶補助	1,100.000
佐賀	佐賀	製茶補助	1,100.000
熊本	熊本	製茶補助	1,100.000
鹿兒	鹿兒	製茶補助	1,100.000
沖繩	沖繩	製茶補助	1,100.000

○大正五年度府縣稅茶業費豫算表

府	縣	摘要	金額
東京	東京	製茶補助	1,100.000
京都	京都	製茶補助	1,100.000
大阪	大阪	製茶補助	1,100.000
奈良	奈良	製茶補助	1,100.000
神戶	神戶	製茶補助	1,100.000
兵庫	兵庫	製茶補助	1,100.000
長崎	長崎	製茶補助	1,100.000
新潟	新潟	製茶補助	1,100.000
埼玉	埼玉	製茶補助	1,100.000
群馬	群馬	製茶補助	1,100.000
千葉	千葉	製茶補助	1,100.000

四五

縣名	茶業組合聯合會補助	茶業改良	茶業獎勵	茶業補助	茶業講習所
靜岡縣	5,000.000				1,200.000
山梨縣	816.000				
滋賀縣					
岐阜縣					
長野縣					
宮城縣					
福島縣					
青森縣					
山形縣					
秋田縣					
石川縣					
富山縣					
島根縣					
鳥取縣					
岡山縣					
廣島縣					
山口縣					
同縣	956.000				36,150.000
北計					
沖繩縣	2,000.000				
鹿兒島縣	500.000				
同縣					
同縣					
宮崎縣	700.000				
同縣					
同縣					
熊本縣					
佐賀縣					
大分縣					
福岡縣					
高知縣					
愛媛縣					
香川縣					
德島縣					
和歌山縣					
山口縣					

○綠 茶 (大正五年大藏省外國貿易概覽抄出)

本年本品ノ輸出ハ二千八百二十五萬七千七百六斤、壹千貳百三十八萬叁千四百五拾九圓ニシテ前年ニ比シ數量ニ於テ四十一萬三千三百十二斤チ増加シ價額百壹萬七千四百拾七圓チ減少セリ其仕向地別左ノ如シ

國名	大正五年計		大正四年計	
	數量	價額	數量	價額
支那	50,771斤	1,338,824	45,499斤	2,632,110
關東州	4,276斤	117,744	8,278斤	33,664
英吉利	6斤	109	188斤	150
英領海峽殖民地	27,656斤	101,966	109,025斤	48,655
北米合衆國	15,866,831斤	7,099,366	3,562,966斤	11,502,428
英領亞米利加	4,451,668斤	1,652,755	4,677,471斤	3,880,770
布哇	28,807斤	15,977	165,907斤	83,623
其他諸國	2,339斤	1,198	15,343斤	8,911
大正四年中計	32,550,360斤	10,399,584	27,847,394斤	13,400,876

又本年ノ輸出ヲ月別ニ表示スレハ左ノ如シ

月次	北米合衆國	英領亞米利加	其他	大正五年計	大正四年計
一月	17,993斤	13,566斤	37,721斤	69,150斤	101,436斤

二	月	五,三一九	二,六五五	六〇,三五三	七三,八三三
三	月	六三,〇三五	二二,二五三	三五,〇六四	七六,六六一
四	月	四,二〇〇	八八六	五,六六七	四四,三九九
五	月	九三,四一〇	四二,七六五	三〇,九七七	一,〇〇七,八八四
六	月	四,四九七	二,三七六	七〇,七七七	四,八〇五,六五〇
七	月	五,八三三	一,六一七	五八,五九二	七,〇四三,七〇一
八	月	三,八七三	一,四四五	四七,四七七	五,三八五,九二六
九	月	三,五五〇	一,〇七〇	四二,〇〇四	四,六五九,七三四
十	月	二,五三三	五九二	一五,三八八	三,一九五,五二四
十一	月	八七五	一,三三三	六五,一八一	一,六七,九五二
十二	月	五,六四一	一,三〇八	三三,七四三	七三,一九五
計		三,五七三	四,六六七	七,七二七	二六,五七七
大正四年中計		三,五七三	三,八〇七	三九,九三六	二七,八四七

四八

本年ノ出増ハ本年本品ノ價格概シテ割安ナリシト印度茶出廻ノ船腹運賃等ノ關係ヨリ從前ノ如クナラサリシニ依ルモノニシテ輸出價額ノ上ニ於テハ本年相場ノ低廉ナリシト下物ノ輸出多カリシト依リ前記ノ如ク却テ幾分ノ減退ヲ示スコト、ナレリ

本年ハ早春以來氣候不順ニシテ殊ニ晩春ノ寒氣強カリシト前年晩期ニ於テ下物ノ好況ニ連レ茶葉ノ濫摘ヲナセル爲メ新芽ノ發育ニ影響スル所アリテ本年一番茶ノ出廻ハ前年ヨリ三四日遲延シ五月十日頃ヲ以テ市場ノ開始ヲ見タリ然ルニ新茶ハ一般ニ品質良好ト稱シ難キリシモ輸出業者ハ此新茶ノ初期以外ニハ入手スル能ハサル品ニ向ヒ何レモ買進ミタル爲メ價額ハ前年ニ比シ壹圓乃至貳圓高ナリシ商狀頗ル手堅ク持合タルモ六月上旬ニ至リ茶葉粗硬トナルト共ニ製品著シク粗惡トナリタル爲メ買手進マス市場ノ在荷ハ日ニ増加シテ爲メニ價額ハ著シク低落シテ殆ント停止スル處ヲ知ラス前年ニ比スレハ四五圓方ノ安値ヲ唱フルニ至リ例年二三番期ニ於テ充タ

スヘキ註文品モ一番茶ヲ以テ充當シ得ルノ景況トナリ六月下旬ニ番期ニ入り其ノ出廻品カ一般ニ品落ち示シ粗硬ノ度日ヲ逐フテ益々甚シカラントスルノ傾向アルニ見テ二番待ノ態度ニ在リタル輸出商モ已ムナク適當品ニ對シテ商談ヲ開始セルヨリ市況稍々回復シタルモ尙ホ前年ニ比シ相場ハ五分方低位ニ在リシカ此安價ハ却テ買氣ヲ刺戟スルコト、ナリ海外ヨリ思惑的註文モ多數入込ミ互ニ値傾ノ品ヲ求ムルニ汲々タル有様ヲ呈スルコト、ナリタル爲メ延テ下等品モ活躍シ來リテ相場モ同一品ニテ一割若クハ其レ以上騰貴ヲ告ケ一時堆積セル在荷モ茲ニ一掃セラレテ殆ト餘ス所ナキニ至リ好況裡ニ本年ノ輸出ヲ終了シタリ

本品ハ米國市場ニ於ケル實買ニ自ラ制限アリテ上等品ノ輸出ハ望ミ難キ事情ニ在リ隨テ輸出セラル、モノハ中以下ノ品ニ限リ其ノ價額ハ例年大差ナク本年ノ標準價額ハ百斤拾六圓見當ニ在リタリ

近年輸出盛ナルニ伴ヒ各産地ニ於テハ製造ニ急ナルノ結果手揉ニ代フルニ器械ヲ以テ操作スル者増加シ爲メニ輸出品ノ品質ハ漸次粗惡トナルノ傾向アルカ如シ今ヤ輸出ノ好機ニ關シ一層深ク製造ニ注意シ販路ノ擴張ヲ圖ルノ要アルハ言ヲ俟タス當業者ノ細心注意ヲ要スル所ナリ

○紅 茶 (同前)

本品本年ノ輸出ハ六百九萬四千二百十二斤、參百五萬七千七百六拾八圓ニシテ前年ニ比シ二百九十萬四千九百四十一斤、百四拾貳萬六千八百參拾七圓ヲ増加シタリ其ノ仕向地別左ノ如シ

支那	國名	大正五年		大正四年	
		數量	價額	數量	價額
支那		一四,一五六斤	一,四一〇,一四七圓	一〇,一〇〇斤	一,一〇〇,〇〇〇圓
北美		五,五七三斤	一,〇〇七,八八四圓	二,一七七斤	一,一〇〇,〇〇〇圓
合衆國		一〇,一〇〇斤	一,〇〇七,八八四圓	一〇,一〇〇斤	一,〇〇七,八八四圓

四九

英領亞米利加	1,068,666	1,370,666	3,590	150
濠太刺利	95,351	1,401,999	110,639	86,065
英吉利	1,511,028	1,121,668	214,305	109,593
佛蘭西	1,114,000	1,019,000	307,999	13,977
其他諸國	91,350	45,666	8,427	4,074
計	6,094,211	3,077,768	3,189,071	1,600,933

本品中眞正ノ紅茶ハ靜岡臺灣產ヲ合シ稍ク四十五萬斤程ニシテ他ハ皆大抵臺灣烏龍茶ナルカ本年ハ船舶拂底ニテ臺灣寄航船缺乏ノ結果此等臺灣産ノ内地經由ニテ輸出セルタメ右ノ如キ出増ヲ見ルニ至リシモノナリ

本年臺灣ニ於ケル烏龍茶ノ産額ハ約千五百萬斤ニシテ前年ト大差ナク紅茶モ五十二萬封度ニシテ前年ニ比シ僅ニ二三萬封度ノ増加ニ過キス而シテ紅茶ハ從來重ニ英國ニ烏龍茶ハ米國ヘ仕向ケラレシカ本年ハ英國ニ於テ二回程關稅ノ引上ケ行ハレ爲メニ多少人氣ヲ損セシ傾向アルニ船腹ノ不足ニテ積出遲延シ秋季以後ノ約定品ハ皆次年ヘ繰越サルノ狀態トナリ加之着荷不確實等ノタメ勢ヒ取引ヲ滯滞セシメ延テ輸出ノ減少ヲ致セリ然レハ一部ノ紅茶ハ倫敦行仕向ヲ變シ比較的船腹潤澤ニテ市況可哀ナル米國向ニ充テラレ烏龍茶ノ實行キ多キト共ニ相俟ツテ米國向輸出ノ増進ヲ助ケタリ

南米向紅茶取引ノ漸ク發展シ來レルコトハ本年注目スヘキ一事象ナリ是レ一ニハ東洋汽船會社カ制安ナル運賃ヲ以テ此ノ航路ノ輸送ニ當レルニモ因レト大體ハ本品集散地ナル倫敦ヨリノ供給時局以來不知意トナリ本邦ヨリ代リテ供給スルニ至リシタメナリ

本年ハ原料高等ノタメ本品相場モ高ク例年烏龍茶ハ最低貳拾八圓ヨリ高値四拾八圓位ノモノ多ク實行キシニ本年ハ最低ニテモ參拾圓ヲ下ラス其レヨリ以上四拾八圓乃至五拾圓位ノモノ實行キ又紅茶ハ貳拾五圓乃至參拾五圓位ノモノ重ニ取引セラレタリ

○粉 茶 (同前)

本年本品ノ輸出ハ三百三十六萬二千四百七十七斤、四拾六萬九千六百七拾五圓ニシテ前年ニ比シ七十萬二千八百三十斤、拾八萬百五拾圓ヲ増加シタリ其ノ仕向地別左ノ如シ

國名	大正五年		大正四年	
	數量	價額	數量	價額
支那	二七二,八〇〇斤	三,九九三	二五三,〇五斤	二六,二七
關東州	四,七九五	一,二九四	四,〇六一	九六七
比律賓諸島	五五,七四三	一〇,一三四	一五六	一一
英吉利	二,五九九,七四四	三三,一六七	七三,九九六	一一,七八三
北米合衆國	七六四,〇〇八	九二,三五〇	一,八七七,〇六	二〇九,四一九
英領亞米利加	四,九四八	九四一	四四七,〇九九	四〇,九九八
濠太刺利	三,三二一,〇四七	四六,六七五	三,〇六四	二二〇
其他諸國			二,五九九,二二七	二八九,五五
計				

本品ハ普通本茶ニ附隨シテ輸出セラル、テ常トシ輸出品ニハ飲料ニ供セラル、モノト茶葉製造ノ原料ニ供セラル、モノトアリ本年ノ輸出増加ハ本茶ノ輸出好況ナリシニ伴ヒ飲料用ノ輸出多カリシニ依ルモ又茶葉ノ原料トシテ輸出セラレタルモノモ相當之アリシカ如シ

近年粉茶ハ内地ニ於テモ茶葉製造工場ノ各地ニ起リタル結果需要ヲ増加シ外國品ノ輸入ヲ計畫スルノ狀態ナルヲ以テ全然飲料ニ適セサル梁粉、ほこり等ト稱セラル、塵埃混交ノモノスラ本年ハ前年ヨリモ騰貴シ一貫目六拾五錢ヲ唱フルノ有様ニシテ隨テ普通粉茶モ前年百斤ニ付十三圓見當ナリシモノ本年ハ壹貳圓高ヲ示セリ

粉茶ハ内地ニ茶素ノ生産ナカリシ時ニ於テハ普通ノモノニテ百斤八九圓ハコリニテ一貫目拾錢乃至貳拾錢ニ過キサリシモノニシテ當時ニ比スレハ其ノ價額ノ騰貴頗ル著シキモノアリ是レ畢竟戰亂ノ爲メニ茶素ノ輸入杜絶シ其ノ價額騰貴ノ爲メニ内地ニ於ケル生産ヲ促ガスニ至レル結果ニシテ静岡ニ於ケル中村工場、富士合資會社、伊勢ニ於ケル伊藤製茶部、關西製茶會社ノ如キハ目下ニ於ケル茶素製造工場ノ主タルモノナリ

○自明治元年至大正五年製茶輸出表

(本表中三十七年迄合計年度ヲ以テ調ヘ以下ハ曆年ノ調ニ依ル)

年別	斤	元	年別	斤	元
明治元	10,155,593	3,581,678.95	一三	3,377,656	7,497,865.94
二	8,595,450	2,100,400.00	一四	2,862,821	7,031,592.80
三	3,334,033	4,511,666.00	一五	6,101,234	7,099,781.10
四	14,066,853	4,717,761.36	一六	7,686,186	6,106,495.67
五	14,744,661	4,361,076.68	一七	2,853,470	5,819,695.30
六	3,330,000	4,659,791.69	一八	3,934,033	6,854,130.60
七	19,290,000	7,253,405.00	一九	5,666,666	7,733,300.70
八	2,788,633	6,622,855.00	二〇	5,666,666	7,033,333.17
九	2,336,400	5,453,900.00	二一	3,166,756	6,124,862.00
一〇	2,781,666	4,755,740.95	二二	3,336,544	6,156,788.80
一一	2,777,666	4,123,694.80	二三	7,553,333	6,336,820.80
一二	6,610,000	7,455,588.50	二四	9,933,999	7,000,000.00

○大正五年度各港別製茶輸出表

(大藏省編纂 外國貿易年表ニ據ル)

二五	7,518,103	7,525,366.00	三八	2,155,333	10,584,333.50
二六	5,442,555	7,702,088.00	三九	3,011,788	10,767,090.00
二七	7,552,587	7,930,286.93	四〇	3,684,433	11,261,344.00
二八	8,799,188	8,879,240.54	四一	5,633,971	11,152,370.00
二九	8,674,588	8,497,733.00	四二	3,717,500	11,152,370.00
三〇	3,339,555	7,861,688.00	四三	3,934,033	11,540,333.00
三一	3,167,995	8,366,755.00	四四	3,177,594	11,779,260.00
三二	3,167,995	8,366,755.00	四五	2,988,550	11,463,800.00
三三	3,167,995	8,366,755.00	本	2,988,550	11,463,800.00
三四	3,167,995	8,366,755.00	一	2,988,550	11,463,800.00
三五	3,167,995	8,366,755.00	二	2,988,550	11,463,800.00
三六	3,167,995	8,366,755.00	三	2,988,550	11,463,800.00
三七	3,167,995	8,366,755.00	四	2,988,550	11,463,800.00

茶別	横濱	神戸	戸大	阪長	崎清	水	四月	市	其	他	計
綠茶	2,477,670	1,951,008	7,334,000	5,830,000	1,480,000	1,076,690	230,321	30,405,454	20,405,454	78,331,253	
焙茶	1,122,333	872,444	2,333,000	2,333,000	6,333,000	336,788	34,930	8,757,581	8,757,581	37,518,878	
焙藍	3,061,326	4,048,000	1,589,000	1,589,000	1,589,000	6,220	17,298	37,518,878	37,518,878	147,888,000	

門 函 清 四 下 殿 敦 名 三 伏 新 若 鹿 小

司 館 水 市 關 原 賀 屋 角 木 鴻 松 見 權

門	函	清	四	下	殿	敦	名	三	伏	新	若	鹿	小
1,234	5,678	9,012	3,456	7,890	1,234	5,678	9,012	3,456	7,890	1,234	5,678	9,012	3,456

司	館	水	市	關	原	賀	屋	角	木	鴻	松	見	權
1,234	5,678	9,012	3,456	7,890	1,234	5,678	9,012	3,456	7,890	1,234	5,678	9,012	3,456

司	館	水	市	關	原	賀	屋	角	木	鴻	松	見	權
1,234	5,678	9,012	3,456	7,890	1,234	5,678	9,012	3,456	7,890	1,234	5,678	9,012	3,456

司	館	水	市	關	原	賀	屋	角	木	鴻	松	見	權
1,234	5,678	9,012	3,456	7,890	1,234	5,678	9,012	3,456	7,890	1,234	5,678	9,012	3,456

司	館	水	市	關	原	賀	屋	角	木	鴻	松	見	權
1,234	5,678	9,012	3,456	7,890	1,234	5,678	9,012	3,456	7,890	1,234	5,678	9,012	3,456

五五

○最近五箇年各港製茶輸出統計表

(左………斤量 右………價格)

各港	年	明 治 四 十 五 年	大 正 二 年	同 三 年	同 四 年	同 五 年
橫濱	7,080,022斤	5,392,004斤	4,996,006斤	5,021,581斤	5,801,743斤	
神戶	3,332,754斤	2,352,770斤	2,300,959斤	2,533,674斤	2,767,954斤	
大阪	4,044,545斤	3,428,733斤	4,242,307斤	5,846,866斤	8,081,182斤	
長崎	1,977,700斤	1,280,066斤	1,600,470斤	2,833,033斤	3,932,784斤	
合計	17,434,021斤	14,453,573斤	13,167,742斤	16,203,054斤	20,718,693斤	

茶	玉	番	紅	磚	粉
1,812,366	5,336	1,812,366	4,955	1,812,366	4,955
2,386	2,386	2,386	2,386	2,386	2,386
2,991,592	2,991,592	2,991,592	2,991,592	2,991,592	2,991,592
5,955,537	5,955,537	5,955,537	5,955,537	5,955,537	5,955,537
4,949	4,949	4,949	4,949	4,949	4,949
2,675	2,675	2,675	2,675	2,675	2,675
2,377	2,377	2,377	2,377	2,377	2,377
2,377	2,377	2,377	2,377	2,377	2,377
3,333	3,333	3,333	3,333	3,333	3,333
7,033	7,033	7,033	7,033	7,033	7,033
5,565	5,565	5,565	5,565	5,565	5,565
9,933	9,933	9,933	9,933	9,933	9,933
1,108,322	1,108,322	1,108,322	1,108,322	1,108,322	1,108,322
1,479,794	1,479,794	1,479,794	1,479,794	1,479,794	1,479,794
2,091,200	2,091,200	2,091,200	2,091,200	2,091,200	2,091,200
1,528,868	1,528,868	1,528,868	1,528,868	1,528,868	1,528,868
2,270	2,270	2,270	2,270	2,270	2,270
1,092	1,092	1,092	1,092	1,092	1,092
1,832,454	1,832,454	1,832,454	1,832,454	1,832,454	1,832,454
2,300,200	2,300,200	2,300,200	2,300,200	2,300,200	2,300,200
3,937	3,937	3,937	3,937	3,937	3,937
3,937	3,937	3,937	3,937	3,937	3,937
9,528	9,528	9,528	9,528	9,528	9,528
3,937	3,937	3,937	3,937	3,937	3,937
5,812	5,812	5,812	5,812	5,812	5,812
1,579,766	1,579,766	1,579,766	1,579,766	1,579,766	1,579,766
3,937	3,937	3,937	3,937	3,937	3,937
2,862,997	2,862,997	2,862,997	2,862,997	2,862,997	2,862,997
9,088,666	9,088,666	9,088,666	9,088,666	9,088,666	9,088,666
3,937	3,937	3,937	3,937	3,937	3,937
6,999,222	6,999,222	6,999,222	6,999,222	6,999,222	6,999,222
3,057,768	3,057,768	3,057,768	3,057,768	3,057,768	3,057,768
6,779,999	6,779,999	6,779,999	6,779,999	6,779,999	6,779,999
2,384,222	2,384,222	2,384,222	2,384,222	2,384,222	2,384,222
3,362,047	3,362,047	3,362,047	3,362,047	3,362,047	3,362,047
4,949,675	4,949,675	4,949,675	4,949,675	4,949,675	4,949,675

五四

	合	境	唐	宮	佐	濱	博	藤
					須			
計		津	津	奈	田	多	崎	
	二元、八六、五〇							
	三、四〇、八六八							
	二五、五三、〇二							
	一〇、〇五、六三							
	一元、六六、五〇							
	二、七九、九五							
	三、九七、六三							
	一五、四〇、〇三							
	三六、三三、四七							
	一六、〇八、九七							

外報

○在シアトル本所直營喫茶店事業經過報告

大正六年度、販路擴張事業ノ一トシテ、シアトル市ニ直營喫茶店ヲ新設スルコトナリ、本年七月來、恰好ノ場所ヲ得ルコトニ焦慮

シタル所、幸、市第五街トユニヴァーシティ街トノ角ニ、私有公園地(前通七十呎奥行百五十呎)ヲ見出し、此處ヲ借入ル、ト同時ニ豫メ茶店營業上ノ便、殊ニ冬期間、營業上ノ便ヲ慮リ隣接地ノ女子大學俱樂部ノ地下室ヲ借受ケタリ。借、愈々茶室ノ建築ニ着手スルニ當リ、當市ノ規定上、鐵骨煉石ニアラサレハ、許可ナリ難カリシヲ種々運動ノ結果、一定ノ期間毎、繼續ノ都合ニテ木造建築ヲ許容セラレ七月三十一日ヨリ工事ニ着手スル事トナリ九月十七日ニ至リ、略ホ落成ヲ見タルヲ以テ十八日開業式(寫眞參照)ヲ舉行シ、當市官民約六百名ノ來客アリタリ。二十日、開業ノ當初ヨリ十一月上旬期ニ至ル該茶店ノ景況ヲ摘録スレハ、

月 日	曜	來客數	收入高	天 候	月 日	曜	來客數	收入高	天 候
九月十八日	火曜	〇	〇	晴、開業式舉行	九月廿六日	水曜	八七	一〇、〇〇	曇
同 十九日	水曜	〇	〇	晴	同 廿七日	木曜	一八三	一五、〇〇	曇、後、雨ナリシモ
同 二十日	木曜	二七〇	二五、五〇	晴	同 廿八日	金曜	七五	一〇、九〇	稍暖
同 廿一日	金曜	二五八	二五、〇〇	曇	同 廿九日	土曜	二五〇	一五、〇〇	朝晴、午後ヨリ曇
同 廿二日	土曜	二四八	二二、二五	同	同 三十日	日曜	〇	〇	曇、後晴
同 廿三日	日曜	六〇	五、二五	晴	計		一、五二	一四、四〇	晴、以後毎日曜ハ特別ノ事ナクレハ休業ト定ム
同 廿四日	月曜	六六	六、七〇	晴、後、曇	開業式後		一五〇	一四、九四	
同 廿五日	火曜	一六三	一四、三五	曇、稍冷氣ヲ覺ユ	月末迄		一五〇	一四、九四	

九月中景況 當九月ハ開業早々ノコト、云ヒ、且ツ臺所、給仕女(給仕女ハ總テ日本人ニテ、衣服ハ總テ純日本式)等ノ、未ダ不慣ノ爲メ接待上マコソキタルコトノミ多カリシモ來客ヨリ不平ノ聲ヲ聞カフ却ツテ英語ヲ充分解セサルト、純日本風トハ殊ニ珍ラシク受取ラレタルカ如シ。來客ハ殆婦人ニテ男子ハ極メテ少シ、又來客ハ主ニ中流以上ノ人士ナルヨリ諸事高尙ニシテ食物ノ如キモ上等ノモノ多ク賣レ行ク有様ナリ。

月	日	曜	來客數	收入高	天	候	月	日	曜	來客數	收入高	天	候
十月	一日	月曜	一四	一六、五	晴	同	十月	十日	水曜	二〇	一七、五	曇	同
同	二日	火曜	一五	二、三	同	同	同	十一日	木曜	一八	二、五	同	同
同	三日	水曜	三六	二〇、〇	同	同	同	十二日	金曜	一六	九、五	晴	同
同	四日	木曜	一七	一四、五	晴、冷	同	同	十三日	土曜	一〇	一八、五	同	同
同	五日	金曜	二九	二、五	曇、冷	同	同	十四日	日曜	〇	〇	晴、休業	同
同	六日	土曜	二四	七、五	曇、冷	同	同	十五日	月曜	七	八、五	曇、夜ニ入、降雨	同
同	七日	日曜	〇	〇	休業	同	同	上半期計		一、六九	一八、六		
同	八日	月曜	二六	一四、〇	晴、夜ニ入、霧深シ	同	同	十月自十一日平均		一、三九	一三、六		
同	九日	火曜	二四	一八、〇	晴	同	同	上半期至十五日平均		二、三九			

十月上半期景況 本月ニ入りテ晴ノ日多カリシモ朝夕ノ冷氣漸増シ來リタル爲カ來客思ハシカラス、寒中ノ營業設備トシテ豫テ借受ケアル女子大學俱樂部ノ地下室ニ目下茶ルームヲ設クルコト、ナリ居ルヲ以テ、冬期ノ來客ヲ此處ニ入ル、方針ナリ、當地ハ怡モ芝居季節ニアリ隣地「メトロポリタン」座モ開演中ニテ、當茶店ノ廣告上並ニ客ノ吸收上好都合ナリ。

月	日	曜	來客數	收入高	天	候	月	日	曜	來客數	收入高	天	候
十月	十六日	火曜	八五	八、〇	晴、後曇冷	同	十月	廿一日	日曜	〇	〇	晴、休業	同
同	十七日	水曜	一一	二、五	同	同	同	廿二日	月曜	六	六、四	晴	同
同	十八日	木曜	一〇	三、〇	晴、後曇	同	同	廿三日	火曜	七	七、四	同	同
同	十九日	金曜	九	九、五	同	同	同	廿四日	水曜	七	七、五	同	同
同	二十日	土曜	二九	二五、八	晴、稍暖	同	同	廿五日	木曜	七	八、〇	同	同

月	日	曜	來客數	收入高	天	候	月	日	曜	來客數	收入高	天	候
同	廿六日	金曜	五三	五、六	曇、夜ニ入南風強シ	同	十月	卅一日	水曜	四	四、〇	晴、天長節祝日ニ當リテ午後六時ヨリ奉祝ノ爲休業、店員一同晚餐ヲ共ニセリ	同
同	廿七日	土曜	一〇	一、三	晴	同	同	十月下半期計		一、三〇	一三、五		
同	廿八日	日曜	〇	〇	同	同	同	十月自十六日平均		八、八	八、四		
同	廿九日	月曜	三	三、八	曇	同	同	下半期十五日平均		六、九	一〇、八		
同	三十日	火曜	一五	一三、五	同	同	同	十月中一日平均		六、九	一〇、八		

十月下半期景況 當月下半期ハ天候晴、曇相半シ、且ツ例年ノ如ク漸ク雨季ニ向ヒ、從ツテ冷氣ヲ催フシタル爲メ、一般ニ外出者ノ減少ハ延イテ本寮ヘノ入場者ノ減退ヲ來シタリ、本寮ハ經費ノ許ス限リ廣告ニ努メ、假令雨季ニ入り寒氣嚴シクモ、防寒設備ヲ施シテ來客ヲ招致スル方法ヲ講シツ、アレハ、其ノ設備ノ完成スル上ハ或ハ來客ノ増加ヲ見ルニ至ラムカ。

月	日	曜	來客數	收入高	天	候	月	日	曜	來客數	收入高	天	候
十一月	一日	木曜	一〇六	一四、九	曇	同	十一月	十日	土曜	八	八、〇	同	同
同	二日	金曜	九	七、三	雨	同	同	十一日	日曜	〇	〇	同	同
同	三日	土曜	五	九、三	同	同	同	十二日	月曜	九	五、三	曇、後雨	同
同	四日	日曜	〇	〇	晴、後曇	同	同	十三日	火曜	六	六、〇	半晴、半曇	同
同	五日	月曜	五	四、四	同	同	同	十四日	水曜	五	八、一	曇	同
同	六日	火曜	五	五、七	曇	同	同	十五日	木曜	五	五、八	晴	同
同	七日	水曜	三	二、〇	同	同	同	上半期計		七、九	八、三		
同	八日	木曜	四	五、二	同	同	同	十一月自十一日平均		五、三	五、九		
同	九日	金曜	三	六、五	晴	同	同	上半期至十五日平均		五、三	五、九		

十一月上半期景況 本月ニ入りテヨリ益々冷氣ヲ覺エ來リ、外出者ノ減少ニ伴ヒテ本寮ヘノ入場者モ、常連ノ顧客及ヒ其ノ顧客隨伴

ノ客位ニ止リ、爲ニ當月上半期平均數ノ減シタルハ又不得已コトナカラ、其ノ一因ハ未ダ防寒設備ノ不完全ナルト廣告ノ洽カラサルトニ歸スヘキモノナルヲ以テ、此ノ際其ノ設備ヲ急クト共ニ巧ニ廣告ヲ利用スルノ必要ヲ倍々感シツアリ。

月	日	曜	來客數	收入高	天	候
十一月	十六日	金曜	五、八	五、八〇	晴	同
同	十七日	土曜	六、八	八、五〇	同	同
同	十八日	日曜	〇	〇	同	同
同	十九日	月曜	六、三	九、三〇	曇、夜ニ入雨	同
同	二十日	火曜	四、五〇	四、五〇	同	同
同	廿一日	水曜	一、五	一、五〇	晴、後曇、暖	同
同	廿二日	木曜	七	八、三〇	曇、冷	同
同	廿三日	金曜	七、〇〇	七、〇〇	同	同
同	廿四日	土曜	七、五	七、五〇	曇、夜ニ入雨	同
十一月	廿五日	日曜	〇	〇	曇、後晴	同
同	廿六日	月曜	九、〇	一〇、〇〇	曇、後晴	同
同	廿七日	火曜	五、九	五、九〇	曇、後晴	同
同	廿八日	水曜	六、七	六、七〇	曇、後晴	同
同	廿九日	木曜	三	三、〇〇	曇、後晴	同
同	三十日	金曜	七	七、〇〇	曇、後晴	同
十一月	中	計	五、九	五、九〇	曇、後晴	同
十一月	中	一日平均	六、二	六、二〇	曇、後晴	同
九月	廿日	營業開始後	六、二	六、二〇	曇、後晴	同
七月	末	日ニ至ル通計	六、二	六、二〇	曇、後晴	同

十一月下半期景況 當月下半期ハ上半期ニ比シ、來客數、幾分ノ増加ヲ見タルモ、前月ニ比シ、其ノ平均ニ於テ減少ヲ來セシハ、一ハ尙ホ未ダ廣告ノ洽カラサルニモ因レド、氣候ノ寒冷ニ伴フ外出者ノ減退カ其ノ主因ナルヘシ。冬季間ノ營業上、充分ノ防寒設備ヲ施スノ要アレド、經賣ノ都合上已ムナク、一時、間ニ合ノ設備ヲ急キツツアリ。カクテモ冬季ハ豫定ノ收入ヲ得ル事、頗ル難事ニ屬ス。

○米加兩國ニ於ケル日本茶市況

(大正六年三月十五日紐約市古谷西村商會報告)

前報(兩國ニ於ケル客年十二月十三日付)ニ於テ獨逸兩帝國突然平和提議アリシ爲メ市場氣運ノ姿ニアリシコトヲ報導シタルカ爾來時

局ハ急轉シテ米獨逸兩國斷絶トナリ當分平和ノ曙光サヘ見ルコト能ハサルニ到リ一般經濟界ハ多大ノ動搖アリ日本茶市場モ是ト相關聯シテ相應ノ好況ヲ呈シ居レリ

大正五年度ニ於ケル米加兩國日本茶總輸入量ハ大正四年度ニ於テ多大ノ輸入アリシニ係ラス約四千萬英斤ニ達シタリ逐年輸入量ノ増加シツ、アルコト斯業ノ爲同慶ニ堪ヘサレトモ其主因ハ日本茶カ一時のニ支那茶ノ代品トシテ使用セラル、ニアリトス蓋先年來銀爲替相場ノ騰貴ハ支那茶ノ値段ヲ引上ケ甚格高トナリ到底從來ノ値段ヲ以テ仕入レ難キ事態ニアリ爲ニ其不足ヲ充タサ△メ日本茶ヲ代用スルノ傾向ヲ生シタリ、免ニ角日本茶ニ取リテ需要増加ノ好機ニ遭遇セルモノナリト云フモ過言ニアラサルナリ輸入量ノ増加ハ慶賀スヘキコトナレトモ此間米國買手側ヨリ日本茶ノ品質ハ年ト共ニ粗惡劣等トナリツ、アリトノ苦情ハ屢々聞キ込所日本茶需要増加ノ好機會ヲ捕捉シツ、アル一面加是不詳ノ惡評ヲ聞クハ斯業ノ爲メ甚遺憾ニ堪ヘス品質ノ撰擇改善並ニ器械製下茶輸出ノ制限ヲ唱導且警戒スルニ今日ヲ措テ又此ヲ他日ニ求ム可カラサルナリ

一般生産家當局者ハ此際熱慮シ日本茶品質ノ改良ヲ實行シ米國買手ヲシテ又品質劣惡ナリトノ酷評ヲ挾ム餘地ナカラシメンカ此一時的現象ヲ永久的ニ變化セシムルヲ得ルヤ明ナリ

千九百十五年度印度錫蘭茶ノ英國輸入量ハ三億九百萬英斤ナリシカ千九百十六年度ハ減シテ二億六千九百萬英斤トナレリ其主因ハ運輸船ノ減少制限ニアルモノナルカ米國ニ於ケル印度錫蘭茶市場ハ已ニ再三報告シタルカ如ク逐年相當ノ輸入アリ寧ろ増加ノ傾アリシカ時局ノ變調ニ伴ヒ將來ノ輸入困難ヲ氣構ヘ今ヤ米國標準品三十二仙ト謂フ突飛ナル相場ヲ現シツ、アリ但シ目下英國ヨリノ輸入ハ非常ニ困難ニシテ殆ント途絶ノ姿ナルヲ以テ市場在荷自然拂底ヲ免レヌ

日本紅茶生産ノ獎勵モ亦甚肝要ナレトモ米國需要ニ應スルニハ尙多々改良ヲ要スヘク殊ニ香氣ニ於テ然リトス米國目下一般製茶市場ハ運輸ノ不便ニ伴ヒ強含ミナルハ前述ノ如クナレトモ現在市場ノ趨勢ト日本茶將來ノ氣運ニ鑑ミ昨年度ト略ホ同様ノ相場ヲ以テ開始セラレンコトハ冀望ニ堪エサル處ナリ、當店主各地巡回ノ結果一般注文主ノ意向ハ昨年同様ノ價格ニ非レハ特ニ日本茶ノミヲ先約スルノ必要ナシト唱ヘ居ル有様ナリ

加之爲替相場ノ異動運賃並ニ荷造費ノ騰貴ハ尙更製茶仕入原價ニ影響ヲ及ホスヘキヲ以テ出來得ル限り品質ノ改善ト共ニ原價ノ低廉ヲ計ルコトハ日本茶擴張ノ爲最モ必要ナリト思惟ス

殊ニ最近英國ニ於ケル支那茶ノ禁輸印錫茶輸入制限ノ結果ハ少ナクトモ從來英國へ輸出セラレタル年額三億英斤ノ支那茶ハ米國ニ販路ヲ求ムヘク從テ銀相場及運賃騰貴ノ如何ニ關ラス支那茶ノ米國輸出増大ハ免レサルヘキヲ以テ若シ現今ノ如キ一時的ノ盛況ニ眩惑シテ溢リニ相場ノ釣上ケヲナシ不相應ナル呼値ヲナスカ如キ事アランカ偶然日本茶需要増加ノ傾向ヲ生シツ、アル現在ノ狀態ヲ挫折シ取引多大ノ頓挫ヲ來スナキヲ保セス生産家一般ノ猛省ヲ乞フ處ナリ

○米加兩國ニ於ケル日本茶市況

(大正六年六月二十七日紐育市古谷西村商會報告)

前報第九號(四月二十九日付)ニ於テ新茶季節前米加兩國日本茶市場ノ概況ヲ報告シタルカ新茶開市ノ初電ハ昨年度ト略ホ同様五月初旬ニ到着シ見本追々市場ニ提供セラレツ、アリ

今日迄ニ接手シタル見本ヲ拜見スルニ品質大約昨年度新茶品質ト同様ナルカ籠茶形狀ハ聊カ見劣リセラル、ヤノ感アリ生産費運賃等ノ騰貴ニ基キ自然加是結果ヲ生シツ、アルヤモ測ラレサレトモ今一層生産家ニ對シ品質形狀ノ改善ニ留意セラレム事ヲ希望スル處ナリ

開市入電後間モ無ク一番茶生産ニ割減少ノ報アリ一般市場ハ此警報ニ因テ如何ニ影響シツ、アルヤ米國買手ノ印象ハ如何ナルヤ未タ具體的ニ之ヲ把握スルコト能ハス蓋シ米國政府五仙課稅問題ト船腹不足及運賃騰貴ノ三條件ハ實ニ新業ノ將來ニ關シ重要ナル問題ニシテ太平洋運賃容積噸十八弗ト決定シタルタメ從來ノ定率ヨリ一英斤ニ付キ一仙七五ノ騰貴トナリ忽茶原價ニ影響シツ、アレトモ一般買手ハ刻下四周ノ情態ニ準シテ運賃騰貴ハ到底避クルコト能ハスト斷念シ運賃騰貴ニ原因スル茶元價ノ騰貴ハ認容スルモノ、如シ然レトモ五仙課稅問題ハ果シテ輸入稅トシテ課セラル、ヤ將タ消費稅トシテ課セラル、ヤ或ハ課稅ハ全然中止サレ從來通り無稅ノ儘

ニ據置カル、ヤ、今尙實施委員會ノ研究懸案トシテ解決サレヌ爲メニ一般買手ハ確然タル見込ヲ立ツルコト能ハス始終仕入ニ逡巡躊躇シ單ニ小口買ニノミ從事セムトスルハ數ノ免カレサル處從テ市場未甚シク振ハス取引口ノ輕少ナルハ遺憾トスル所ナリ

臺灣烏龍茶春茶見本モ已ニ到着シ品質昨年度春茶ヨリ聊甚好ナリトノ公評アレトモ日本茶同様運賃騰貴ト船腹不足ノ結果ハ相場ヲ釣上ケ、課稅問題ノ未決ハ取引滯滯ノ動機トナリ居レリ支那茶及印度錫蘭茶ノ輸入ハ日本茶及臺灣烏龍茶ノ輸入ニ比較シテ尙一層困難ノ情態ニアルコト明白ナルカ日本茶及臺灣烏龍茶ノ米加兩國ニ於ケル消費増加ト販路擴張ニハ天與ノ好機ニ接シツ、アルコト屢々報告シタル處此千載一遇ノ好機ヲ利用スルト否トハ生産家其他當業者一般ノ雙肩ニ掛レル責任ナリト云フモ過言ニ非ス課稅問題ニシテ左右決定スル時來ラハ必ス新業市場ニ多少ノ活氣ヲ呈シ取引分量ノ増加アルヘシト想像サル瓜哇紅茶ノ米國需要量ハ千九百十四年度ハ約三十萬英斤千九百十五年度ハ約六十萬英斤千九百十四年度ハ約四十萬英斤ニシテ極メテ微々タルモノナレトモ時局ノ影響ト瓜哇政廳ト生産家ノ努力ハ着々需要増加ヲ計畫シ本年度ハバタビヤ茶業局ノ代表者ハロルド、セイ、エドワード氏ヲ米國ニ派遣シ本據ヲ紐育ニ置キ販路ノ研究ニ從事セシメツ、アリ、瓜哇紅茶ノ品質ハ年ト共ニ改良サレ錫蘭及印度紅茶ノ代用品トシテ恰當ナリトノ評アリ

○米加兩國ニ於ケル日本茶況

(大正六年十月二十日紐育市古谷西村商會報告)

前報以降米加兩回ニ於ケル日本茶市場ハ依然相場高ク各種標準茶ハ何レモ未曾有ノ珍值ヲ示シツ、アレトモ今ヤ茶及咖啡ハ無稅ニ決定セルヲ以テ買手側ノ見込ミモ異ホ相立チ早晚相當ノ市況ヲ呈スヘキ筈ナルモ何分市價非常ニ昂騰セルタメ逡巡躊躇シテ敢テ買進マズ取引ハ依然小口商内ニ止マルカ故ニ自然市場ノ沈靜ヲ免カレズ然レトモ相場ハ至テ手堅ク維持セラレツ、アリ生産額ノ減少、生産費ノ増加、運賃ノ騰貴、船腹不足等諸原因相錯綜シテ現今ノ如キ高相場ヲ示シツ、アルモノナルカ此際溢リニ持荷ヲ放棄シ直段ヲ切リ下ケ市場ヲ崩落スルカ如キ者現ハレズ故ニ市場沈靜ナルニ不拘相場ハ能ク維持サレツ、アル次第ナリ

銀爲替相場ト海上運賃ノ騰貴ハ支那茶市場ニ多大ノ影響ヲ與ヘ相場非常ニ高ク品拂底ナルコトハ前後ノ通り印度錫蘭茶同様市場ノ取

引渡滞来タシツ、アルモ日本茶及臺灣烏龍茶ハ經濟上好位置ヲ占メ支那及印度錫蘭茶ト全然異リタル事情ノ下ニ在テ米加兩國ニ於ケル需要ノ増進ト販路ノ擴張ヲ誘致スヘキ好機會ニアルコト新業ノ爲メ甚慶賀ス可キ事ナレトモ、本年年度輸入品ノ成績ヲ見ルニ中以下品ハ前年方更ニ形狀ノ粗惡ヲ來タシ平葉、黃葉又葉莖等ノ混入多キ爲メ當國買手ヲシテ多大ノ失望ヲ來サシメ居レハ製造家ハ今後可成長目ニ業並ヲ揃ヘ粉スマザル様ニ製造スル事最肝要ノ事柄ナラム、要スルニ此好機會ニ乘シ價格アル製品ヲ以テ顧客ノ満足ヲ買ヒ時々ノ嗜好ニ適合セシメテ彼我相利スルノ商策ヲ維持スルコト本業ノ爲切望ニ堪ヘス、支那茶及印度錫蘭茶ノ困難ナル情態ニアルニ乘シテ瓜哇茶及スマタラ茶カ大ヒニ新販路ノ擴張ニ熱注シ米國市場ニ重要ナル位置ヲ占メムト務メツ、アルハ已報ノ如クナルカ我々當業者トシテ輕々看過ス可ラサル新傾向ナリトス

參考トシテ昨年七月一日ヨリ本年六月三十日迄一年間米國輸入各國茶數量ヲ左ニ列記スヘシ、表ハ合衆國製茶協會ノ調製ニ據レル

種類	地名	青	ポストン	桑	港	シ	カ	ゴ	其他
臺灣	烏龍	三、四二〇、四九三	二、二八〇、〇三三	四八、五八三	一、六四二、七五三	一、六九七、九四七			
福建	夫州	一、〇九二、二五三							
工	度	四、〇八〇、五九九	三三三、八九九	一、三五五、八五五	一、三五五、五三三	一、三三七、三四六			
印	蘭	七、三二八、〇六九	九六六、八三三	二、三七、三六〇	一、六九、三九八	二九六、二九四			
錫蘭	ブレント	八、三〇六、〇八四	三、七三三、二八五	一、四九、八三五	一、四七四、八四一	七三三、〇〇六			
錫蘭	アレント	三、七九四、一三六							
同	綠	三、四七、七五一	一、四、八四四						
瓜哇	茶	五五五、五三一		一、四五四、二七九	二、五、三九六	七、〇七五			
平	水	一、四八三、四四七	九四、七三〇	一、三三二、三三〇	三、五三六、三三三	一、七二五、八二二			
支那	綠	一七〇、三三七	二八、二四五	四九八、二二六	七二九、〇九四	一一、五五七			

種類	地名	青	ポストン	桑	港	シ	カ	ゴ	其他
日本	粉	一、〇三六、二五八	六七八、八九五	五、五四、七三三	五、九一九、三八八	一八、〇六九、九七一			
日本	茶	三三、九〇〇	五、〇七〇	一七、七四〇	六〇四、四一〇	二、一〇四、九二二			
センテッド	ベコ	三、九〇〇	四、三九九	一六、九三三	四〇〇	五、五五五			
センテッド	カント		一一、五八六	二七、一八〇		一、四〇、九三三			
廣	東	二、五六、九六三	七、六四二	四、〇〇九	五、〇九六	九、〇三三			
松制	(ケーパース)	二、〇〇〇	二、四四九						
計		三、一五五、七九	八、一三四、九三九	二、一八五、四九三	一五、五八二、五三三	四、八一九、七八			

備考 (其他) ハヒエザル、セントポール、布哇ヲ包括ス
 下記表ハ毎年七月一日ヨリ翌年六月三十日ニ終ル一年間ニ於ケル各國輸入茶ノ消長ヲ示ス

種類	年	一九一六年	一九一五年	一九一四年
臺灣	烏龍	一九、三〇三、七六八	一七、八四六、三九七	一五、四三三、二八四
福建	夫州	一、〇九二、二五三	七、四七、七五九	一、三三六、四六一
工	度	八、四三三、七三三	六、七八五、一九四	六、五九三、三七六
印	蘭	八、九七五、九五四	一〇、四七四、〇四四	六、五九三、三七六
錫蘭	ブレント	一、五七二、〇五二	一〇、六七三、一六七	二、七、四四三、六八三
錫蘭	アレント	三、七九四、〇四四	三、八四四、四一一	一、六六、四四七
錫蘭	茶	一、四九、六五一	三、七、一九七	一、六六、四四七
瓜哇	水	二、一四〇、六一	五七八、五三三	三七四、四二四
平	水	八、一八一、七三三	八、八四四、六六六	一〇、五四四、四六五
支那	綠	一、五五七、四九	三、〇四四、一七四	三、二四八、三八五

日本	三、七九、二四四	三、四〇、三五六	二五、九二、三四二
日本粉	三、〇七、八二二	二、〇〇、一五九	二、五三、六八五
日	二六、三七	四六、二六七	一〇〇、一一四
セシテツド	四四、三三九	五九、七三八	四四、八四八
廣	三三、七〇二	三八、四一一	三七、五〇六
廣	四、四四九	一六、四〇五	三、八四三
松	一〇五、〇六、六五五	一〇七、七六、九四七	九四、三三、〇三三
計			

○東部加奈陀ニ於ケル本邦製茶商況 (通商公報第三八五號抄録)

▽綠茶 加奈陀へノ輸出品中第一位ヲ占ム千九百十六年度ニハ五百六十餘萬封度百萬弗餘ニ上レリ之レ各種茶ニ對スル需要増加ニ因ルコト勿論ナルモ千九百十四年來日本茶廣告ニ努力シタル效果ノ顯ハレ來レルモノト見ルハシ一層努力セハ或程度迄驅逐シ得ヘシ一最近三年間輸入紅綠茶統計表

▲綠茶

日本ヨリ加奈陀へノ輸出品中綠茶ハ依然トシテ第一位ヲ占ム千九百十六年三月ニ終ル一ケ年ニ於ケル輸入額五百六十八萬九千封度、價格百萬七千七百弗ニシテ之レ前年三月ニ終ル一ケ年四百二十三萬八千封度、價額七十一萬九千餘弗及前々年三月ニ終ル一箇年三百五十萬四千封度、價額五十六萬四千四百弗ニ比シ顯著ナル増進ト謂ハサルヘカラス而シテ是レ一ハ加奈陀ノ各種茶ニ對スル需要ノ増加ニ因ルコト勿論ナリ其需要ノ増加ハ左表ノ示スカ如シ (單位弗)	
一九一一年	五、六五四、八八三
一九一二年	六、七〇六、五七五
一九一三年	六、八四三、六二〇
一九一四年	六、六四九、七一六
一九一五年	七、三六四、二五〇
一九一六年	八、二七一、九〇〇

然レトモ需要ノ増加ハ最近六年間其百分率ニ於テ到底我綠茶ノ輸入増加ト比較スヘクモノアラサルニ鑑ミ我靜岡縣製茶業組合及中央茶業組合ニ於テ千九百十四年以來加奈陀ニ於ケル日本茶廣告ニ努力シタル效果力漸ク顯レ來リタルモノト見テ差支ナキト同時ニ今後益々廣告ニ努ムルニ於テハ更ニ一層本邦綠茶ノ需要ヲ促進シ或ル程度マテ紅茶ノ範圍ヲ蠶食スルコトモ不可能ニアラサルヘク既ニ東部ニ於テハ我綠茶ノ用途稍々普及ナルニ反シ西部平原州地方ニ於テハ尙日本茶ノ用途ヲ知ルモノ少ナク開拓ノ餘地十分ナルニモ拘ハラス更ニ本邦當業者ニ於テ其廣告ニ努ムルノ形跡ナキハ遺憾ノ至リナレバ今後西部加奈陀ニ於テ當業者ノ今一段ノ奮勵ヲ切望セサルヲ得ス千九百十六年三月以後ノ輸入日本茶ニ付テハ七月ニ至ルマテ四ケ月ノ外未タ統計ヲ得サルモ右七月ニ終ル四ケ月ノ日本茶輸入額ヲ前年同期ニ比スレハ左表ノ如シ

一九一七年度四ケ月	四四五、〇〇〇	價	八〇、三六七
一九一六年度同期	二六〇、三四七	同	六一、九二八

即チ數量ニ於テ十八萬封度價額ニ於テ約一萬九千弗ノ増加ヲ見ルカ故ニ千九百十六年ノ茶市場モ樂觀的ナリト謂フチ妨ケス (註) 製茶輸入期節ハ毎年五月ニ始マリ七八九月頃ヨリ十一月頃マテテ最モ盛ナル期間トス
今在ニ最近三年間並ニ千九百十七年及前年度四ケ月ニ於ケル加奈陀輸入紅茶及綠茶ノ統計表ヲ掲ケテ(一)加奈陀ノ紅茶及綠茶ノ各生産國別ニ依ル輸入各年總額(二)綠茶ト紅茶トノ相對的勢力(三)本邦綠茶ノ最近ニ於ケル需要増加ノ趨勢(四)本邦綠茶ノ他競爭國綠茶ニ對スル地位(五)千九百十七年ノ見込輸入額等ヲ研究スルモノ、タメ資料ヲ供セントス蓋シ左表ヲ一見スレハ前記諸問題ハ忽チ瞭然トシテ自ラ解釋セラルベクナレバナリ唯東部地方ト西部地方トノ需要額ヲ比較スルノ材料ヲ得ル途ナクテトモ西部ニ於ケル日本綠茶ノ需要ハ實ニ微々タルモノニシテ到底東部ノ比ニアラサルコト前ニモ陳ヘタル所ノ如ク各市重ナル食品商ニ就テ調査シタル所ヲ綜合スルニマニトバ州並ニ同州以西太平洋洋岸ニ至ル各州ノ綠茶需要額ハ同州ヲ界トスル東部諸州ノ需要額ノ十分一二ニモ足ラサルハ蓋ナリ而シテ今後加奈陀人口ノ最モ急速ニ増加スヘキハ東部ニアラスシテ西部諸州ニ在ルノ事實ニ鑑ミ余ハ茲ニ再ヒ本邦茶業者力其廣告戰ヲ東部ニ持續スルト同時ニ西ニ向ヒテ展開センコトヲ提言スルモノナリ

○最近三年間加奈陀輸入紅綠茶統計表 (單位數量封度、價額弗)

茶種	一九一四年度			一九一五年度			一九一六年度		
	數量	價額	數量	價額	數量	價額			
紅茶									
錫蘭	1,433,545	2,790,103	1,522,477	2,999,434	1,644,633	2,744,443			
支那	1,101,001	1,651,107	2,006,949	2,691,526	1,444,871	2,181,926			
印度	14,888,899	2,410,176	15,388,334	2,696,792	16,857,076	3,353,421			
其他	6,849,655	110,569	633,688	151,190	1,019,359	107,258			
計	30,397,600	5,366,504	33,171,443	6,070,899	31,048,399	6,568,936			
錫蘭	2,392,855	4,519,455	1,449,079	2,851,444	2,126,890	4,431,950			
支那	6,552,855	844,035	1,110,447	1,433,569	1,133,555	1,647,388			
印度	29,886,666	544,399	29,149,999	544,794	13,186,666	2,512,366			
其他	3,567,874	544,455	4,277,917	791,774	5,668,996	1,007,739			
計	68,511,333	1,186,604	77,075,377	1,103,780	9,006,666	1,733,659			
綠茶									
日本	3,567,874	544,455	4,277,917	791,774	5,668,996	1,007,739			
其他	1	1	6,551	1,097	1	1			
計	3,567,874	544,455	4,277,917	791,774	5,668,996	1,007,739			
茶輸入總計	77,075,377	6,568,996	81,353,294	7,874,679	14,675,666	7,741,398			

○漢口ニ於ケル磚茶ノ輸出及生産 (通商公報第三八六號抄録)

▽磚茶ノ輸出高、仕向地別、種類、數量、價額▽磚茶製造業者及生産額▽輸出徑路及運賃率▽磚茶ノ輸出ニ
 備考 前表年度ハ其各年三月三十一日ニ終ル一ケ年ヲ意味スルモノナリ

要スル課税ノ種類及税率▽磚茶製造方法▽壓搾器ノ種類▽製函ノ種類及價格▽各種磚茶ノ製造費及荷造費▽磚茶原料產地別數量價
 格▽製造工場ニ於ケル磚茶原料購入方法 (大正五年十二月十九日附在漢口帝國總領事瀧川淺之進報告)
 磚茶の輸出高、仕向地別、種類、數量、價格、左表の如し

仕向地	大正二年		大正三年	
	數量	價額	數量	價額
紅磚茶	3,744	1,996	6,449	1,633
綠磚茶	1,133	1,133	1,633	1,633
小京磚茶	1,133	1,133	1,633	1,633
ニカラエウスグ	1,133	1,133	1,633	1,633
オコシグ	1,133	1,133	1,633	1,633
ストレチエンスグ	1,133	1,133	1,633	1,633
浦潮	1,133	1,133	1,633	1,633
牛莊	1,133	1,133	1,633	1,633
天津	1,133	1,133	1,633	1,633
上海	1,133	1,133	1,633	1,633
アヤ	1,133	1,133	1,633	1,633
土耳古	1,133	1,133	1,633	1,633
計	29,030	1,533	7,661	2,733
價	5,858,834	1,434,261	5,533,666	1,630,666

大正四年ニ於ケル磚茶仕向地別ハ不明ナルモ總額ニ於テ紅磚茶數量三十三萬九千八百二十一擔、價額八百七十七萬六千九百四兩、綠磚茶
 數量十九萬六千二百二十五擔、價額二百六十一萬五千六百七十九兩、小京磚茶數量二萬三千九百四十三擔、價額五十八萬五千八百七十
 九兩ナリ

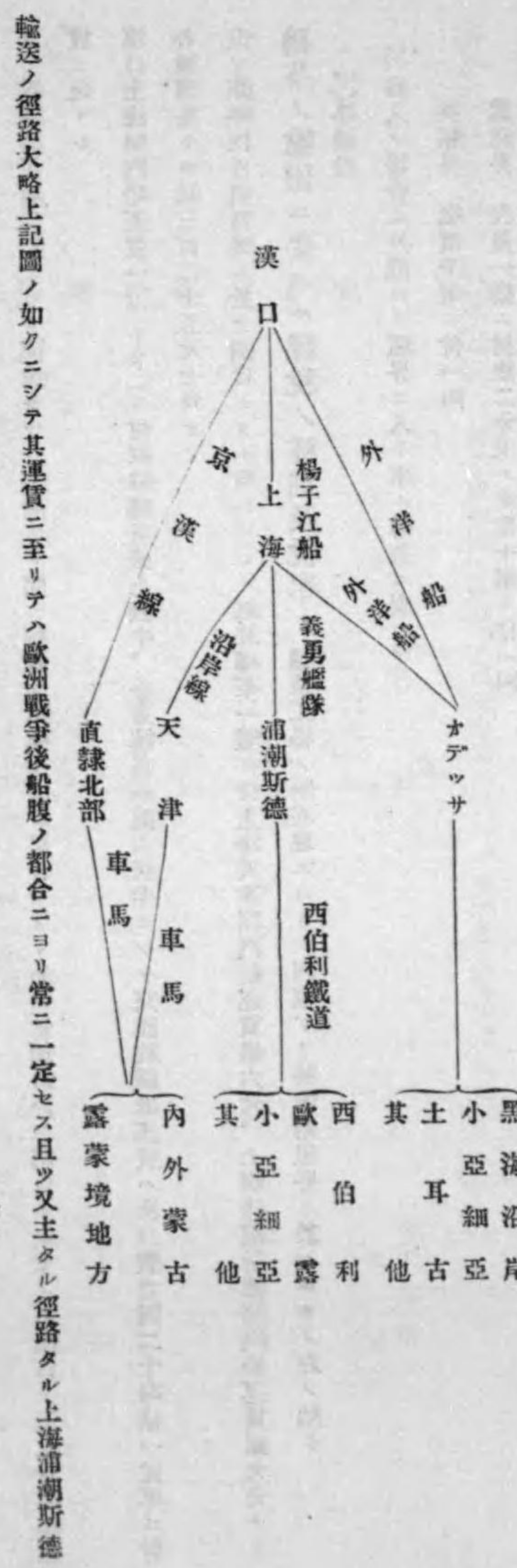
磚茶製造輸出ノ趨勢 磚茶製造ノ趨勢ハ當年ニ於ケル當地方產茶業ノ出來榮、價格ノ高低並ニ當年ノ暑氣關係ニヨル工場作業期間ノ長短等ニ因リ相違アリ隨テ其輸出數量モ亦多少ノ消長アリト雖概シテ各種磚茶製造增加ノ年ハ當年輸出茶葉少ク茶葉輸出多キ年ハ磚茶ノ輸出少ナキハ當然ノコトニ屬ス今參考ノ爲メ最近十五年間ニ於ケル各種磚茶輸出數量ヲ表記セハ左ノ如シ(單位擔)

年	紅磚茶	綠磚茶	小京磚茶
一九〇一年	一八〇、七三	一三、三六一	—
一九〇二年	二二六、八七四	二四、〇八〇	—
一九〇三年	三〇〇、一〇八	二六、七〇一	—
一九〇四年	一三三、五九九	二六、七〇六	—
一九〇五年	二二一、三六七	二〇、〇三四	五、六九九
一九〇六年	三二七、八二〇	三三、八四一	七、六四一
一九〇七年	二九四、九〇五	三三、三〇九	七、三三三
一九〇八年	二七六、三三四	二六、八六四	四、四三三
一九〇九年	二七九、〇一〇	二七、九九九	七、九九九
一九一〇年	三三三、三三五	二八、八四〇	七、五三四
一九一一年	二〇六、四一一	三三、七七一	三、六九九
一九一二年	二九四、六二八	一四、六六八	六、三九五
一九一三年	二九〇、三六〇	一五、三三三	七、六六一
一九一四年	三三三、四三三	一六、九二五	二、三三三
一九一五年	三三三、九一八	一九、六三三	三、七九九

因ニ右表中千九百十一年ニ於テ各種磚茶トモ著ルシキ減少ヲ示セルハ漢口一磚茶工場ノ失火アリシニ因ル
磚茶製造工場ノ名稱、位置、經營者及生産額左ノ如シ

工場名	位置	經營者	每年生産概數	壓搾機數
順豐洋行 (Litvinoff & Co.)	英租界	リトワイノフ	二〇—二四萬	七臺
新泰洋行 (Trading Co.)	露租界		一一—一三	七
阜昌洋行 (Molchanoff Pechanoff & Co.)	英租界	モルチヤーフ(漢口) ピチヤトノフ(莫斯科)	一四—一七	四
興商洋行	礪口	唐雲山(廣東人)	七—一〇	三

但各工場トモ壓搾機中ノ一臺ハ小形磚茶製造用ノモノナリ又壓搾機一臺ニハ大約八百個ノ型圖ヲ配布シ居レリ
輸出徑路及運賃率 左ノ如シ



間ハ露國義勇艦隊船ニヨリ運送セラレ茶商トノ間ニ特殊ノ關係ナリ居ルモノ、如ク當地ニ於テ明白ナルモノハ漢口上海及京漢線運賃ニ止マル

漢口上海間汽船運賃「ブード」ニ付紅綠磚茶銀七錢半、小京磚茶一兩六錢半ニシテ京漢線鐵道運賃ハ漢口豐台間二十噸積一貨車ニ付各種磚茶トモ銀三百二十五元七角ナリ

但シ昨年四月頃當地ニ於テ調査シタル所ニヨレ、紅綠磚茶一噸ニ付上海天津間汽船運賃銀六元、上海浦潮斯德間汽船運賃銀九元ナリ
磚茶ノ輸出ニ要スル課税ノ種別及稅率 磚茶工場ノ所在地ニヨリテ相違アリ英露兩租界ニ於ケルモノ左ノ如シ

(一)埠頭稅
輸入ノ場合(外部ヨリ租界ニ入り來ル磚茶ニ對シ)

英租界 從價千兩ニ付一兩
露租界 從量一擔ニ付銀二分又ハ從價千兩ニ付一兩

輸出ノ場合(租界ヨリ外部ヘ出ルモノ及租界ヲ通過スル磚茶ニ對シ)
英租界 從量一擔ニ付銀一分
露租界 從量一擔ニ付銀一分但シ通過ノモノハ銀五厘

(二)海關ノ輸出稅
内地向移出外國輸出共ニ一擔ニ付銀六錢

此他製造輸出ニ對シテハ直接ノ稅金ナシト雖若シ各租界ニ於テ一工場ヲ經營セハ地租家屋所有稅、水道稅等ヲ納付スヘク又埠頭ヲ使用スル場合ニハ埠頭使用料ヲ仕拂ハサル可カラス此等諸稅ノ率ハ各租界トモ多少ノ差異アリ

磚茶製造方法 製造方法ハ茶葉ヲ粉碎器ニ掛ケ粉トナシ之レヲ小サナ麻袋ニ容レ蒸氣ヲ通シテ蒸シ次ニ型函ニ入レ壓搾器ニ送り壓搾シ二、三分ヲ經過シタル後型函ヲ取り開キ磚茶ヲ取り出シ秤量シテ目方ヲ一定シテ荷造リスルモノト普通綠磚茶ノ場合ハ老

茶ト稱スル時季運レノ品質長カラサルモノヲ用ヒ又紅磚茶ノ場合ニハ調味配合ノ必要上五割乃至六割ノ錫蘭又ハ瓜哇等ヨリ輸入セシ粉茶ヲ支那茶ニ配合ス

壓搾器ノ種類 壓搾器ハ普通ノ豆粕製造工場ニ備付ケ居ルモノニ同シク上下壓ナルモ其製作所及價格ニ就テハ當地各磚茶工場ハ變覽ヲ許サ、ルヲ以テ查明シ難シ

型函ノ種類及價格 型函ノ製造所ハ各磚茶工場ニ專屬シ他ニ之レヲ製造發賣スルモノナク其重量大凡四十五封度價格大凡九元乃至十元ナリ若シ強テ之レヲ必要トスル場合ニハ曾テ其工場ニ勤務セシ職人ニ依頼シテ製造スルヨリ他ニ途ナシ

各種磚茶ノ製造費及荷造費 營業者ノ言ニヨレハ磚茶一枚ノ製造費ハ銀六仙ニシテ之レニ一擔ノ紅磚茶原料價格十三、四兩ヲ加算シ普通磚茶一簍百十斤乃至百二十五斤ノ價格約十八兩餘ニシテ綠磚茶ノ場合ハ一簍ノ價格約十二、三兩ナリト云フ一簍ノ枚數ハ四十五枚、三十六枚、二十四枚入ノ三種アリ荷造ニハ内包紙竹籠鐵帶等ヲ要シ一簍ノ荷造費約一元ナリ

磚茶原料產地別數量價格 磚茶原料即チ紅茶ノ當地方面ニ於ケル產地名及產額左ノ如シ

湖 南 省	數 量	每擔ノ價格
安 化	二一七、八一二	一〇一四五
湘 潭	四五、八一八	一六一〇八
高 橋	三三、七五一	一〇一三〇
湘 陰	一一、三六八	一〇一三〇
瀏 陽	一九、九八三	八一一一
寧 鄉	三、一一六	一〇一三〇
醴 陵	一三、一八四	九一一六

平	江	三二、二二八	一〇一三
長	街	二七、〇七六	一一二六
雲	溪	九、三四三	九一九
桃	源	一六、二九九	一一二八
石	門	一一、〇九七	一〇二〇
聶	布	三五、六三九	八一一九
湖	計	四七七、七一四	
崇	陽	二四、八七九	一〇一二五
通	山	七、八八五	一〇一二一
成	寧	一〇、二二九	一〇一二二
宜	昌	五、九〇一	二五二六九
羊	洞	二〇、三四四	一〇一二五
羊	司	四、〇一六	八一二〇
湖	計	七三、二五四	
江西		九七、〇七四	一五二七五
安徽		一〇三、〇七〇	二五二八〇
總	計	七五一、一一二	

但シ一箱ノ重量四十五斤乃至四十八斤トス而シテ右數量ハ同地方ニ生産スル紅茶ノ全數ニシテ磚茶製造ニハ其中幾分ヲ用フルニ過キ

サルハ言ヲ俟タス其數量價格等ハ年々相違アリテ前記ノモノハ大體ノ見當ヲ示シタルモノトス(茶業公所調査千九百十年度分其後ノ統計未詳)尙當地輸出磚茶ノ原料タル粉茶ハ錫蘭瓜哇等ヨリ輸入セラル、モノ少ナカラス最近三年間ニ於ケル此等粉茶ノ數量ヲ查スルニ左ノ如シ(單位擔)

錫蘭粉茶	大正二年	六〇、五五六	大正三年	四九、七三六	大正四年	四九、七三六
印度粉茶	六、七五五	四、九〇六	五、四七八			
瓜哇粉茶	六、五五九	三、三三五	二、八六五			
計	一五、七三〇	二六、四八六	一三、八二九			

此等ノ粉茶ハ後日磚茶トシテ製造輸出セラレタル場合ニハ輸入税ヲ拂戻サル、モノトス
原料綠茶ノ產地ハ紅茶產地ニ等シキモ其數量價格等詳カナラス
製造工場ニ於ケル磚茶原料購入方法 毎年五月十日前後新茶見本ノ上市セラルトヤ各茶問屋ハ其組合取引所タル茶業公所ニ集合シ見本ヲ陳列スルヲ以テ各工場ニ於テハ右見本ニ就キ價格ヲ定メ問屋ノ手ヲ經テ取引スルモノニシテ各工場ノ經營者ハ兼テ茶業ノ輸出ヲ兼營ス
其他磚茶工場ハ上述ノ如ク縦覽ヲ許サ、ルヲ以テ之レカ調査ヲ遂クルコト極メテ難ク殊ニ原料調製配合等ニ至リテハ各工場職人ニ就テモ尙明白ナラサルモノアルハ遺憾ナリ

○印度茶業概況 大正四年度 (大正五年十一月十八日附在カル) (カツタ帝國總領事信天淳平報告)

△茶園面積 六十三萬六千噶、前年度ヨリ二割増▽耕地數及面積 耕地數四千四百餘、アツサム州ニ最モ多ク一耕地平均面積ハベ
ソゴール・アツサム二州ニ大ナリ▽紅茶及綠茶產額 合計三億七千六百九十九萬封度▽產額及耕地面積増減▽緬甸產茶 紅茶及綠茶

四千七百封度、レットハット五十六萬三千五百封度▽噠平均產額 各地大差アレトモ平均六百三十七封度▽作柄及品質 產出ハ多額アリシモ品質ハ良好ナラス▽綠茶產額 三百四萬三千封度▽印度茶輸出額 三億三千四百萬封度、英本國チ第一トシ約七割三分ヲ占ム之レニ次クチ露國トス▽英本國ニ於ケル印度茶再輸出 二千四百五十萬封度▽輸出額別比例▽茶輸出港 カルカッタ、チタゴン南部印度諸港孟買、カラチ等▽茶三大供給國輸出額 過去二十年間ニ於ケル印度茶輸出増加十二割六分、錫蘭茶九割五分増シ、支那茶ハ一分減ナリ▽英本國消費額 三億千七百萬封度其五割七分ハ印度茶ナリ▽印度ニ於ケル外國茶 輸入額千八百八十九萬封度ニシテ前年度ニ比シ二百十萬封度増加セリ ▽印度ニ於ケル茶消費 逐年増加ノ傾向アリ▽茶取引場ニ於ケル賣上高 九十五萬九千箱▽茶運賃率 昂騰シ一噸ニ付二磅七志六斤ナリ▽茶園労働者數及供給 六十九萬八千餘人ニシテ前年度ヨリ二萬二百人増加セリ一勞力供給方法▽セス積立金 四十四萬四千留比ニ達シ前年度ヨリ五萬留比増加一輸出稅ハ百封度ニ付一留八安▽茶關稅輸入稅率ハ露國最高ナリ▽茶業投資額及配當 三億二千六百萬留比ナリ配當ハ好況ニシテ株式相場ハ高値ヲ維持セリ△茶業近況 英本國ニ於ケル輸入稅率ノ増加、印度ニ於ケル輸出稅賦課セラルトニモ拘ハラズ好況ナリ

茶園面積 千九百十六年三月ニ終ル既往一年間ニ於ケル印度茶業概況ヲ見ルニ栽培總面積ハ前年度ニ比シ二分増即チ六十三萬六千二百噠ニシテ植付ヲ廢止シタル土地ノ面積ハ五千八百噠ナリ而シテ新ニ植付ケラレタル面積ハ(前年度既ニ植付ヲ廢止セラレタル所ニ再植付チナシタル分ヲ含ム)一萬七千五百噠ニ達セリ同年度ニ於テ地方廳ノ調査ヲ經タルハベンゴール州ニ於テ總耕地三百中一筆、アツサム州ニ於テ七百七十九耕地中二十九筆、南部印度地方ニ於テ二百六十八耕地中四十四筆ナリ又同年度中ニ於ケル茶栽培總面積(地方廳調査分ヲ含ム)ハ次表ノ如シ

地方名	面積(單位噠)	一九一四年ニ比シ面積増(+)/減(-)率
ア ツ サ ム	三八三、八〇〇	(+) 二・〇%
ベンゴール	一六一、三〇〇	(+) 一・三%

南部印度	北部印度	ロハール及オリッサ	緬甸
六八、三〇〇	一七、八〇〇	二、二〇〇	二、八〇〇
(+)	(-)	(-)	(-)
三・八	〇・四	一	五・四

印度ニ於ケル茶栽培區域ハ重ニ雨量多キ濕潤ニシテ氣候變化ナキ所ナリ蓋シ雨量多ク濕氣アリ加フルニ氣候ノ變化ナキ所ハ茶ノ發育ニ適シ栽培ニ便ナレハナリ印度茶栽培全面積ノ八割五分ハアツサム州ノ占ムル所(アルマプートラ及サルマ兩谿谷中)而シテダールシヨ及ジャルバイア二州ハ共ニ地ヲ接シテ北部ベンゴールニ於ケル產地ニシテ南部印度地方マラバル海岸ノ高地即チトラヴァンコール蕃邦、マラバル・ニルギリス・コインパトールハ全面積ノ一割強ヲ占ム既ニ耕作者ヨリ報告アリ又ハ地方廳ニテ調査濟ノ全面積六十三萬六千二百噠中五十八萬四千九百噠ハ採取ヲ了セリ残り五萬三千三百噠ハ茶樹成熟セスシテ採摘未了ノ狀態ニアリ

耕地數及面積 千九百十五年度ニ於ケル耕地數ハ四千四百三十七、前年度ニ於テハ四千四百五ナリ但シ緬甸ニ於ケル茶樹ハ村落處ニ生育スルヲ以テ各村村落ニ付テ茶樹生育スル地域ヲ假ニ一耕地トシテ計算セリ茶栽培面積ヲ比較セハ各州ニヨリテ甚ダシキ差異アリアツサム州ニ於テハ千九百十五年ニ於ケル茶栽培耕地數七百七十九、其總面積三十八萬三千八百二十一噠即チ一耕地平均四百九十三噠ナリベンゴール州ニ於テハ耕地數三百此平均五百三十八噠、トラヴァンコール蕃邦ニテハ九十八耕地、平均一耕地四百十五噠ナリマドラス・合併州及ロハール、オリッサニ於ケル平均面積ハ是等ニ比シ甚ダ小ニシテ平均一耕地面積ハ夫々六百六十三噠、百三十噠、九十八噠ナリ而シテ茶栽培ニ付テハ其規模極メテ小ナルバンジャ地方ノ平均一耕地面積ハ三噠ナリ

紅茶及綠茶ノ產額 千九百十五年度印度ニ於ケル紅茶及綠茶生產額ハ(緬甸ヲ除キ)三億七千六百六十九萬千封度ニ達ス其各州別ハ次表ノ如シ(單位千封度)

地方	一九一四年度	一九一五年度
ア ツ サ ム	二〇八、二二七	二四五、三八六
地方	一九一四年度	一九一五年度
七	七	七

ベンゴール	七五、三七三	八九、五二六
南部印度	二四、六一八	三一、六一〇
北部印度	四、三二一	四、八七六
ビハール及オリッサ	二八二	二九三
計	三二二、八二一	三七一、六九一

上記表中紅茶ノミノ産額三億六千八百六十四萬八千封度ヲ占ム即チ前年度ヨリ増加スルコト五千九百萬封度、紅茶ノミニシア一割九分ノ増額ナリ

産額及耕地面積増減 是等數字ハ素ヨリ其概算ニシテ正確ナラズ次表ハ過去十年間ノ産額及耕地面積ノ増減ヲ示ス(但シ一九〇一年ヨリ一九一〇年ニ至ル十ヶ年平均一〇〇トス)

年 度	面積	産額	年 度	面積	産額
一九〇六年度	九九	一〇五	一九一一年度	一〇七	一一八
一九〇七年度	一〇〇	一〇七	一九一二年度	一一〇	一二〇
一九〇八年度	一〇二	一〇八	一九一三年度	一一三	一二四
一九〇九年度	一〇三	一一三	一九一四年度	一一六	一三七
一九一〇年度	一〇五	一一五	一九一五年度	一一九	一六三

即チ過去十年間ニ耕地ノ増大ハ二割ナルニ産額ノ増加ハ五割五分ナルハ特ニ注目ニ値スヘシ
 緬甸産茶 レットベット(Letpet)ト稱スル漬物ニ製造サル、チ以テ茲ニハ計算ヨリ全ク除外シタリ即チ同國千九百十五年度産出額紅茶及綠茶ハ僅々四千七百封度ナルニ對シレットベットノ産出ハ五十六萬三千五百封度ニ達セリ
 一噠平均産額 各地間ニ非常ノ相違アリ千九百十五年度各地方一噠平均産額表ヲ示セハ左ノ如シ

地 方 名	平均一噠産額	地 方 名	平均一噠産額
ダ ラ ン グ	七九八	チ ャ タ ゴ ン	四六一
ラ キ ン プ ァ ー ル	七六八	カ ム ラ ツ プ	四四八
シ ャ ル バ イ グ リ	七一〇	ゴ ア ル バ ラ	四四一
シ プ サ ガ ル	六八六	ダ ー シ リ ン	三九二
シ レ エ ト	六六二	チ ャ タ ゴ ン 丘 地 域	二一八
ノ ー ゴ ン	六五五	カ ン グ ラ	二〇〇
トラグアンコイル	六一二	ラ ン チ	一四二
コインパトール	五六五	ア ル モ ラ	一二二
ニルガリス	五四三	チ ン ネ ム リ	一〇〇
マ ラ バ ル	五四一	ハ ザ リ バ ー グ	八一
カツチャール	五二八	ガ ル ワ	六三
デアラダン	五一六		

右表ニヨリテ明カナル如ク千九百十五年度最高産地ハアッサム州ダラングニシテ一噠平均七百九十八封度、最小額産地ハ合併州ガルワルニシテ平均一噠六十三封度ナリ緬甸ヲ除キタル印度全體ノ平均産額千九百十四年度ハ五百五十四封度ナレトモ千九百十五年度ハ六百三十七封度ナリ

作柄及品質 千九百十五年六月ハ雨多クシテ稍寒ク七月ニハアッサム・カンサル・シレエツ地方アラブ・トラノ大氾濫アリシモ直ニ減水ヲ見而シテ秋季ハ稀有ノ天候續キニシテ豐富ナル産額ヲ見ルニ至レリ殊ニ年末ニ至ルマテ暖氣繼續セルハ收穫時期ヲ長カラシメタルモ豐饒ノ一原因ナリキ斯ク莫大ノ産出アリタルヲ以テ各工場共多忙ヲ極メ其結果粗製ノ弊ヲ醸シ爲ニ倫敦市場ニ於ケル市價

ナシテ稍下落セシメタリアツサム地方ニ於テハ優良ナル二番茶ヲ生シ既ニ六月中ニ優良ナル茶ノ産出ヲ見タリキカチヤール及シレエトニ於テハ千九百十四年度ニ大ニ改良セラレ千九百十五年度モ亦實ノ降下ヲ見ス其標準ヲ維持セリシヤルバイアリニ於テハ年度初メニ其茶ノ産出ヲ見タレトモ次第ニ其實ノ低落ヲ見タリダリシリンニ於テハ標準ヲ下ルコトナカリシモ二番茶ノ産出ヲ見サリキ而シテテライ地方(テエラダンカンケラ其他ノ地方)ニテハ一番茶ヲ除キテハ大概其結果惡シク殆ト失望トモ云フヘキ有様ナリ

綠茶産額 既記生産額ニ關スル數字ハ紅茶及綠茶ヲ含ム而シテ兩者性質ノ差異ハ作り方即チ醗酵ノ程度ニヨリテ生ス最近三年間ノ綠茶産額ヲ掲ケレハ千九百十三年度、三百二十七萬二千封度、千九百十四年度三百五萬封度、千九百十五年度、三百四萬三千封度ナリ各地方別最近二年間産出額ヲ示セハ左ノ如シ(單位封度)

地 名	一九一四年度	一九一五年度
北 部 印 度	一、八一四、三五六	一、八三八、一〇五
南 部 印 度	七六七、八四九	九八七、〇四一
サ ー ル マ	二一四、五二三	一
ベンゴール、ビハール及オリッサ	二五三、五六二	二一八、二三五
計	三、〇五〇、二九〇	三、〇四三、三八一

千九百十五年度全産額ノ三分二ハパンジャブ地方カンケラニテ製産サレタリ千九百九年迄セス積立金法實施セラレ製茶獎勵方法アモシモ爾來之レカ廢止ヲ見爲ニ産額次第ニ減少シ來レリ

印度茶輸出額 最近五年間ノ輸出總額ハ左ノ如シ(單位千封度)

年 度	海面輸出	陸面輸出
一九一〇—一二年度	二六〇、八六二	二、六五三
一九一一年—一三年度	二七八、六〇一	三、二一四

一九一三—一四年度 二八九、五一九
 一九一四—一五年度 三〇〇、七七一
 一九一五—一六年度 三三八、四九〇

海面輸出ノ増加ハ殊ニ著シク千九百十五年度ハ千九百十四年度ニ比シ三千八百萬封度即チ一割二分五厘ノ増加ナリ英本國(仕向ケラレタルモノ)ハ印度茶輸出總額ノ七割三分ヲ占メ前年度ヨリ増加セシコト千二百九十八萬六千封度即チ五分五厘ニシテ歐洲ニ於ケル印度茶ノ第二ノ得意市場露國(前年度ニ比シ千七百萬封度ナリ)之レニ反シ佛國、伊國輸出ハ三十七萬八千封度及六萬七千封度ノ夫々減少ヲ見敵國タル獨逸(前年度ハ全然杜絶シタリ)亞米利加方面(前年度ハ輸出ハ概シテ増加シ殊ニ著ルシキ)ハケイブ植民地及埃及ニシテ前者ハ三十五萬千封度、後者ハ三十三萬九千封度ノ輸出ヲ見タリ北米ニ付テ云ハハ合衆國ハ千九百十四—十五年度ヨリ多キコト七十二萬四千封度、智利ハ七十二萬四千封度ナリ然ルニ加奈陀ハ百十八萬八千封度ノ減少ヲ見タリ亞細亞諸國ニ於ケル印度茶需要國ハ支那、錫蘭、波斯及亞細亞土耳其等ニシテ是等諸國(前年度ハ輸出百五十六萬六千封度、百一萬四千封度、四百八十二萬六千封度及百九萬七千封度)ノ夫々増額ヲ示セリ支那トノ貿易ハ漢口ニ向ケ輸出サレ粉茶カ其重ナルモノニシテソハ露國市場向キ磚茶ノ材料タルヘキモノナリ波斯ヘハ直接輸出セラル、外ニ尙鐵路孟買ヘ輸送シ同所ヨリ廻送セラル、額モ亦尠ナカラス亞細亞諸國(前年度ヨリ超過スルコト正ニ九百五十九萬四千封度ナリ)濠洲、ニューシラランド及フィジー諸島ヘノ輸出ハ前年度ヨリ總額ニ於テ百四十萬封度ノ減少ヲ見タリ陸地ニヨル輸出ハ十五萬七千封度前年ニ比シ九分ノ増額ナリ而シテ是等ハ皆印度西北境ヲ經アフガニスタン其他ノ國々ヘ仕向ラル今水陸兩方面ノ輸出全體ヨリ見レハ千九百十五年度ニ於テ殆ト三千八百萬封度即チ一割二分五厘ノ増額ナリ收穫期ノ遲レタルト運輸ノ困難(戰爭ノ影響ニヨル)トハ年度末ニ於テ多量ノ殘荷ヲ示セリ

英本國ニ於ケル印度茶再輸出 印度ヨリ英本國ニ輸出シタル茶ハ全部同國ニ於テ消費セラル、ニアラスシテ大部ハ他國ヘ再輸出サル、モノナリ即チ左表ノ如シ(單位千封度)

年 度	英國ニ於ケル再輸出	年 度	英國ニ於ケル再輸出
一九一一年度	二七、九七	一九一四年度	三〇、三九
一九一二年度	一九、三八	一九一五年度	二四、五三
一九一三年度	三、八三		

即チ千九百十五年度ハ前年ニ比シ五百八十五萬八千封度即チ一割九分ノ減少ヲ示セリ之ヲ國別ニ分類セハ丁抹第一位ヲ占メ四百七十五萬三千封度(前年度二百一萬四千封度)ニシテ次ハ加奈陀ノ四百四十三萬二千封度(前年度四百二十七萬九千封度)、和蘭ノ三百四十二萬六千封度(前年度千二百三十二萬五千封度)、北米合衆國ノ二百六十五萬六千封度(前年度三百一萬六千封度)、露國ノ七十九萬八千封度(前年度百七十七萬八千封度)等ナリ

千九百十五年印度茶及錫蘭茶ノ外國再輸出ヲ比較セハ次ノ如シ(單位千封度)

國 名	印 度 茶	錫 蘭 茶
露 西 亞	三九、〇二八	二五、七三九
其他歐洲諸國	一一、四二四	七、六六〇
北 米 合 衆 國	五、五二三	一五、三〇八
加 奈 陀	一三、七六一	一一、一七五
濠 洲	九、三一五	二一、九四四
其他ノ諸國	三三、〇〇六	二九、四二三

輸出額國別比較 千九百十四年度露國市場ニ於テハ錫蘭茶ニ壓倒サレタル印度茶ハ千九百十五年ニ於テハ漸次其地歩ヲ回復セリ北米合衆國及濠洲ハ概ネ錫蘭茶ノ賣行良好ナレトモ加奈陀ハ兩者ニ於テ何等ノ差異ヲ見ス前年ニ比シ輸出ノ減少ヲ見タルノミナリ過去二年間ニ於ケル水陸兩方面ヨリノ印度茶輸出比例ヲ示サン

國 名	一九四一—一五年度	一九一五—一六年度
海面 英 本 國	七八・四	七三・五
同 其他歐洲諸國	六・八	一〇・八
同 亞 細 亞	五・五	七・七
同 亞 米 利 加	四・六	三・九
同 濠 洲	三・六	二・八
同 亞 弗 利 加	〇・五	〇・七
陸面	〇・六	〇・六

千九百十四—十五年度ニ於ケル印度茶英本國輸出ノ百分率ハ増進ヲ示シタレト千九百十五—十六年度ニ於テハ降下ヲ示セリ然ルニ歐洲他國ハ全然反對ノ傾向ヲ呈シ亞細亞、亞弗利加ハ増進シ其他ノ大陸ハ降下セリ

茶輸出額港別 次ニ千九百十五—十六年度諸港ヨリノ輸出ヲ示セハ左ノ如シ(單位千封度)

港 名	輸 出 額	港 名	輸 出 額
カルカッタ	二四八、三五	孟買及カラチ	一一、三三
チッタゴン	五、一〇八	緬甸諸港	六
南印度諸港	二五、八九		

前年度ニ比スレハカルカッタ港ヨリノ輸出ハ二千二百萬封度即チ一割、チッタゴンヨリノ輸出ハ五百萬封度即一割二分ノ増進ヲ呈セリ

茶三大供給國の輸出額 世界市場ニ於ケル茶ノ三大供給國タル印度、錫蘭及支那ノ輸出額ノ比較ヲ試ムルモ亦興味アル問題ナリ即チ最近二年間ノ數字ヲ左ニ示サン(單位千封度)

國名

輸出

額

八四

一九一四—一五年度 一九一五—一六年度
 三〇二、五五七 三四〇、四三三
 一九一、八三九 二二四、九〇〇
 一九八、四五三 二二七、四三九

支那茶ノ内譯ヲ示セハ紅茶及綠茶ノ千九百十四—十五年度ニ於テ一億千七百三十三萬八千封度、千九百十五—十六年度ニ於テ一億四千三百六十六萬二千封度、其餘ハ磚茶、粉茶等ナリ印度及錫蘭ヨリノ輸出ハ過去二十ヶ年間ニ非常ノ増進ヲ示セリ即チ印度ヨリノハ十二割六分、錫蘭ヨリハ九割五分増進シ支那ヨリノ輸出ハ約一分ノ減少ヲ見タリ

千九百十五—十六年度海陸兩面ヨリノ印度紅茶輸出總額ハ百七十四萬五千封度之レテ前年度ノ二百六萬五千封度、前々年度ノ二百四十八萬千封度ニ比較セハ甚ダシキ減少ナリ、其原因ハ需要減少ノ爲メ製造制限ヲ來シタル爲ナリ之レテ最近二ヶ年ノ數字ニヨルモ明カナリ即チ千九百十四—十五年度カルカッタ及チッタゴンヨリノ輸出ハ十六萬五千八百二十四封度ナリシモ千九百十五—十六年度ニハ十二萬七千四百九十九封度、南部印度諸港ヨリノ輸出ハ三十八萬千七百二十六封度ナリシモ六萬四千五百五十封度、緬甸ヨリハ五百六十六封度ヨリ全ク皆無ノ状態ニ至レリ

層茶 (Waste tea) ノ貿易モ亦可ナリノ盛況ニシテ其輸出三百萬ヨリ三百七十萬ニ達セリ而シテ珈琲涅 (Coffein) 製造材料トシテ北米合衆國及英本國ヘ輸出セラレタリ

英本國茶消費額 單ニ英本國消費ノ目的ヲテセル茶ノ最近三年間英國輸入額ヲ示セハ左ノ如シ (單位封度)

種別	一九一三年	一九一四年	一九一五年
印度茶	一七三、八四四	一八四、八八五	一八二、一四三
錫蘭茶	九一、五二八	〇七、七二七	九三、七七〇

支那茶 九、六八三 一三、〇〇三 一三、七三三
 其他ノ茶 三、六六三 二九、〇一八 二九、七四四
 計 三〇五、九六一 三七、六六三 三七、四八七

千九百十五年英本國消費額ノ五割七分ハ印度茶、約三割ハ錫蘭茶ニシテ支那ハ僅々四分ニ過キス英本國ニ於ケル消費ハ人口一人ニ付年額六封度四分三、此ノ中三封度十分九ハ印度茶ナリ最近三ヶ年各年末ニ於ケル各種茶ノ保稅倉庫ノ保管ニ係ルモノ左ノ如シ (單位千封度)

種類別	一九一三年	一九一四年	一九一五年
印度茶	101,141	86,074	99,126
錫蘭茶	11,717	9,875	16,583
支那茶	13,644	10,918	18,103
其他ノ茶	8,455	10,981	17,957
計	135,004	117,848	152,773

即チ千九百十四年度ト千九百十五年度ト比較セハ後年ニ於テハ保稅倉庫ニ保管セラルモノ約三千五百萬封度以上ナルヲ知ルヘシ、千九百十五年九月二十一日ヨリ一封度ニ付一志ノ關稅引上ヲ見而モ此引上ケ稅率タルヤ千八百六十四年以來未ダ嘗テ見サル最高稅率タリシナリ而シテ此ノ關稅引上ハ同年度英本國內消費ニ尙其影響ヲ見ス何トナレハ前々表ニヨリテモ明カナルカ如ク千九百十四年度及十五年度消費額ヲ比較スルニ其差ハ極メテ少ナシ而シテ其減額セサル一ノ理由トシテハ軍需品トシテ契約セラルモノ多キニヨルヘシト雖製造工業ノ繁榮ハ非常ニシテ此方面ノ消費モ亦少ナカラサルナリ

英本國ノ茶供給國ハ印度、錫蘭、支那ノ外重ナルハ瓜哇、日本、臺灣等トス最近三年間ニ於ケル是等諸國ヨリノ輸入ハ左ノ如シ (單位千封度)

八五

國名	一九一三年度	一九一四年度	一九一五年度
瓜哇	三、九三九	七、三三三	101,635
日本	三、九六四	三、八一八	四、八六〇
臺灣	三、三三二	三、九三六	三、一五〇

瓜哇ハ最近其産額著ルシク増加シ而モ其質優良ニシテ漸次名聲ヲ博セルハ注意スヘシ

印度ニ於ケル外國茶 印度ニ於ケル外國茶ハ錫蘭、支那等ヨリ輸入サル、モノナリ千九百十五—十六年度ノ統計ニヨレハ錫蘭ヨリ二百四十三萬二千封度、支那ヨリ二百七十八萬四千封度其他ノ國ヨリ六百六十七萬四千封度合計千八百八十九萬封度ニシテ前年度ヨリ多キコト二百十萬封度ナリ此中約六分一(百九十八萬千封度)ハ概ネ波斯、亞細亞土耳其、マスカット・ペーリオン諸島及アフガニスタン等へ再輸出セラレ其残り九百九十九萬九千封度ハ印度ニテ消費セラレタリ勿論此中一部ハ印度茶ニ混入セラル而シテ其混入シタルモノ、輸出セラル、場合ニハ稅關申告書ニハ印度産トシテ取扱ハレタルハ疑ナシ

印度ニ於ケル茶消費額 千九百十五—十六年度ニ於ケル茶消費額ハ產出額三億七千八百八十三萬七千封度ヨリ輸出額三億三千五十二萬五千封度ヲ控除シタル四千三百三十一萬二千封度ト見ルヲ得ヘシ此殘額ハ全部印度ニテ消費サル、モノニアラス其一部分ハ翌年度積出シニ保留サレタルモノナルヘシ而シテ最近五年間ニ於ケル此殘額平均二千四百萬封度ナリキ之レヲ要スルニ印度ニ於ケル茶ノ消費額ハ漸次上進ノ傾向アルハ疑ナシ緬甸ニ於テハ葉茶ノ外約千八百萬封度ノレットベツトヲ年々消費サル而シテ人口一人ニ付キレットベツトノ消費ハ約一・四封度ナリト云フ

茶取引場ニ於ケル賣上高及相場 千九百十五—十六年度茶取引場(Auction)ニ於ケル茶賣上高ハ九十五萬九千箱、前年度ハ六十八萬箱ナリ(此中九萬六千箱ハ個人ノ手ニヨリテ賣捌カレタルモノ)其内譯チ各所産ニ付テ示セハ左ノ如シ(單位箱)

產地名	一九一四—一五年度	一九一五—一六年度
アッサム	一六六、三五一	二七八、七六六

種類	一九一四—一五年度	一九一五—一六年度
カツチャール	八六、七一七	一二三、三一五
シレエト	八五、六二〇	一一九、八八八
シャルバイグ	一三七、一五九	二六三、六四六
グーリ	九六、八〇九	一四一、九六二
其他	一一、〇〇二	二一、七二三
計	五八三、六五八	九五九、三〇〇

各地茶相場 最近二年度取引所ニ於ケル各種茶ノ相場ヲ示セハ左ノ如シ

種類	一九一四—一五年度	一九一五—一六年度
Broken Pekoe	七・一〇	九・〇一
Pekoe	七・〇八	八・〇六
Pekoe Souchong	六・一一	七・一〇

而シテ千九百十四—十五年度稅關申告書記載平均値段ハ八安三杯、千九百十五—十六年度ハ九安三杯ナリ兩年度ニ於ケル平均値段ノ比較ヲ見ルニ前年度ニ於テハ七安七杯、後年度ニ於テハ八安十一杯ナリ賣買ハ運輸狀態ノ影響ヲ蒙ルコト大ニシテ相場ノ變動ハ時ニ激甚ナリキ七月初ニハ普通(Pekoe Souchong)ノ相場九安六杯ニ寄付キ相場ハ急激ニ昂騰シテ十安六杯ニ達セリ而シテ收穫ノ豐饒ト運賃低落ノ反動ハ相場ノ崩落ヲ來シ九月下旬ニハ普通茶六安六杯ヲ示セリ然ルニ賣行ニ於ケル相場調節委員新ニ置カレテ販路ニ制限ヲ加フルニ至ルヤ其好果顯ハレ再ヒ相場ノ上進ヲ來シ十月末ニ於テハ七安三杯ヲ告ケルニ至レリ而シテ收穫季節ノ將ニ終リテ告ケルノ時ニ再ヒ相場下落シ十二月下旬ニハ普通茶ノ相場ハ五安ナリキサレト Pekoe 漸次昂騰ノ傾向ヲ生シ一月下旬ニハ九安迄上昇セリ

マー、ウィルソン、ヘンズ、スタントン商會 (Messrs. Gow, Wilson & Stanton) の報告ニヨルハ千九百十五年七月一日ヨリ千九百十六年六月十六日ニ至ル迄ノ印度茶ノ倫敦市場ニ於ケル茶園渡シ賣高ハ百九十九萬四千七十八箱、前年度即チ千九百十四年七月ヨリ千九百十五年ニ至ル賣高ハ百八十一萬九千二百六十一箱ナリ而シテ千九百十五—十六年度ニ於ケル平均一封度値段ハ一〇・八七片、千九百十四—十五年度ハ九・八片ナリ

茶運賃率 カルカッタヨリ倫敦迄ノ茶運賃率ハ千九百七年迄ハ年々非常ナル變化アリキ而シテ其最高率一噸ニ付(五十立方呎)二磅一志三片(一八九九年)最低率一噸ニ付一磅三志九片(一八九六年)ナリキ千九百八年ヨリ千九百十一年ニ至ル賃率ニハ變化ナク一磅三志六片ナリキ千九百十二年ニハ茶輸出業者ト汽船會社トノ間ニ運賃協定成リ同年四月一日ヨリ五年間ニ渡ル賃率ヲ定メタリ而シテ三年間變化ナキ賃率一磅十志ナリシモ戰争勃發ノ結果千九百十四年八月十日ニ至リ、カルカッタ船主同盟會ハ協定率即一磅十志ニ二割五分増收ノ要求ヲナシタリ而シテ爾來同年九月十四日迄ノ賃率ハ一磅十志ニ二割五分ナリシモ船主側ト輸出者側トノ議論ノ一致ヲ見ヌ久シク相争ヒシモ結局千九百十四—十五年茶收穫季節ノ一時ニ限り協定率ニ變更ヲ加フルニ止メ而モ變更率ハ協定率ニ加フルニ國定保險率ヲ超ユルコトナシトノ妥協ヲ見ルニ至レリ此妥協ノ結果輸出者側ノ苦痛ハ稍々輕減セラレ九月中旬ニハ賃率一磅十七志六片カ十二月十七日迄ニハ一磅十志外追加率五志ニ下降シ次々年未迄ハ追加率三志九片トナレリ千九百十五—十六年度ノ季節初メニ二磅七志六片ニ増額セラレ而モ此賃率ハ戰争繼續中ハ維持セラレヘキモノナリ船主同盟會ハ叙上ノ増加率ニ引キ上ケル爲ニ他ニ備船セラル、ヲ避ケ事ヲ船腹ノ供給ヲ潤澤ナラシムル様アフル努力ヲ試ミタリ而シテ各船積載量ニ付テ大體ノ標準ヲ定メラレタリ

ア	地 名	常 時 備 人	臨 時 備 人
ツ	サ	四三七、二八九	四三、四九二

茶業従事者及労働者數及供給 製茶業ニ従事セシ労働者總數ハ千九百十五年度六十九萬八千三百二十五人内常時雇六十萬八千五百五人、臨時雇九萬二千二百二十人ナリ前年度ニ比較シテ常時雇ニ於テ二萬二百七人、臨時雇ニ於テ千六百十八人ノ増加ヲ見タリ今各産地ニ村テ千九百十五年度ニ於ケル勞力供給者ノ數ヲ示セハ左ノ如シ

ア	地 名	常 時 備 人	臨 時 備 人
ン	ゴ ー ル	一〇六、六七一	二六、六七〇
ビ	ハ ー ル 及 オ リ ッ サ	一九七	九七〇
合	併 州	二、六九九	二、六四三
マ	ン シ ャ プ	四、五六七	六、九九〇
マ	ド ラ ス	一一、二六七	四、五九七
ト	ラ ヴ ァ ン ゴ ー ル	三三、二二八	四、七四三
緬	甸	三、一八七	一一五
計		六〇八、一〇五	九、二二〇

南部印度ニ於テハ製茶ハ重ニ請負ニヨルモノナレハ勞力供給者ニ付テ正確ナル數字ヲ得ル事難シ從テ前記ノ數字モ南印度ニ付テノ分ハ確然タルモノニアラス千九百十五年ノ Assam Labour & Emigration Act ノ修正法令ニヨルハアッサムニ於ケル茶園勞力補充制度ニ大修正加ヘラレタリ即チ請負ニヨル勞力補充ハ全然廢止セラレタリ何トナレハ此制度ノ不備ハ一般ノ非難ヲ招クニ至リタレハナリ而シテ The Assam Labour Board ナルモノ、設立ヲ見ルニ至レリ其目的ハ専ラ各地ノエーシエント及茶園監督者ニヨル勞力供給ヲ監視スルニアリ倫敦・カルカッタニ於ケル印度茶業組合 (Indian Tea Association) 及アッサム・サルマダグアビーニ於ケル其支部ヲ代表スル十五人ノ委員ヨリ成立シ會長ハ印度政府ヨリ直接任命セラル本部ハ之レヲカルカッタニ置キ之レヲ維持センカ爲ノ費用ハ茶園監督及勞力補充者ヨリ各五留比ノ範圍内ニテ徵收スル事ヲ印度帝國政府ヨリ許可セラレタリ勞力補充地域ニ於ケル各雇入人、會社又ハ組合ヨリアッサム勞働管理局ノ支部ヲラントシ又ハ其勞働補給作業ノ管理者ヲラントスル總テノ請願ヲ先ツ第一著ニ管理局ニ申出テアルヘキモノナリ管理局ハ果シテ支部トシテノ許可ヲ與フルニ適當ナルヤ否ヤヲ調査シタル後採否何レカノ意見ヲ付シテ之レヲ勞働移民局長官ニ週送シテ命令ヲ俟ツ之レヲ地位ヨリ云フモ誠實ナル點ヨリ見ルモ共ニ缺點ナキ立派ナル人格者ニ管局支部ヲ委ネント試ムルハ管理局ノ正ニ努力ヲ要スル所ナリ勞働補給ノ事ハ從來監督ノ仕事トシテ法律ヲ以テ印度政府ヨリ命令セラレ居リシモノナル

カ其法律ノ勵行忽ニセラル、ヤ自然茶園監督ノ手ヲ離レテ政府管下ノ登記所ニ移リ從テ登記所ハ其責任ヲ負フニ至レリ事態斯ノ如クナリシカハ支部薦考ハ重視セラル、ニ至レリ

管理局ハ又法律ニ違反シタル労働補給ヲナスモノアラハ之レヲ警察ニ通知シ犯則者處罰ニ付テ警察側ヲ補助スルノミナラス労働補給ノ安寧ヲ害スル事等ニ付キ政府ニ防壁ノ建言ヲナシ又ハ茶製造業者ニ警告ヲ與ヘ勞力補給費用ノ輕減ヲナス等ニ努力ス而シテ又地方支部活動ヲ扶クル監督官ヲ任命スルノ權ヲ有ス

千九百十五年九月ヨリ千九百十六年三月ニ至ル茶園ニ於ケル労働者一人平均月額賃銀(但シ食料費與等ヲ含ム)五留比二安十杯ナリキ千九百十三—十四年アツサムニ於ケル労働移民行政ニ關スル決議ニヨリテ茶園労働者ハ個人ノ茶園ニ自由ニ働キテ收入ヲ増シ又ハ薪炭ノ料等ハ無料供給ヲ受クル等ノ特點ヲ與ヘラレタルニヨリ自然生活ニ餘裕ヲ有スルニ至レリ

セス積立金 千九百三年ニ茶販賣、製造促進ノ爲メ茶業組合各ノ要求ニヨリセス積立金法案ノ通過ヲ見ルニ至レリ此法律ニヨレハ印度茶輸出ハ一封信ニ付キ四分一杯ノ稅ヲ課セラル而シテ其徵收金額ノ全部ハセス積立金トナシ之レヲ其目的ノ爲メニ任命セラレタル委員ニ委ネテ政府ハ單ニ收稅ノ代理ヲナスニ過キス而シテ千九百十五年ニ徵收セラレタル金額ハ四十四萬四千留比ニシテ之レ

千九百十四—十五年ノ三十九萬四千留比ニ比スレハ五萬留比ノ増加ナリ千九百十六—十七年度セス積立ノ目的遂行ノ爲メ其使途割當テハ亞米利加十五萬留比、英本國六萬留比、印度十五萬留比、佛軍隊及白國避難民四萬五千留比ナリ印度交付金ノ増加ハ消費増加販路擴張ノ好望顯著ナリシ故ナリ而シテ此等セス積立金法ニヨル課稅ノ外輸出茶ハ一封信ニ付約三杯ノ輸出稅ヲ課セラル

茶關稅 諸外國ニ於ケル茶ノ關稅ヲ見ルニ英本國ニ次テ印度茶ノ消費國ナル露國ハ他ノ諸國ヨリモ關稅率大ナリ若シグオツカ飲用禁止ニ加フルニ茶輸入稅率低下ナリハ、印度茶ノ消費ハ將ニ増進ヲ見ルヘキハ疑ナシ

茶業投資額及配當 印度株式會社ノ登記官吏ノ統計報告及英本國ニ於テ登記セラレタル印度茶業組合報告ニヨレハ茶製造株式會社ノ投資金ハ千九百十五年ニ於テ三億千萬留比約二千七百萬磅ニ達セリト云フ

各會社ノ配當及株式相場ニ付テ見ルニ印度ニ於テ登記ナ經タル會社百十一、此拂込總資本三千二百六十萬留比中八十九會社ハ千九百十四年度總資本二千七百十萬留比ニ對シ配當平均一割六分三厘、千九百十五年度ニハ九十八會社拂込資本二千九百六十萬留比ニ對シ

二割六分一厘ノ配當ヲナセリ株式時價ハ額面百留比一株(但シ九十五會社ニ付テノ平均)ニ付千九百十五年三月ニハ百八十留比千九百十六年三月ニハ二百十六留比(但百四會社ノ平均ナリ)

之レヲ英本國ニ於テ登錄セル會社ニ付テ見ルニ其數六十八、資本金千四十萬磅、千九百十四年度配當平均一割三分八厘、千九百十五年度(三十六會社資本總額七百五十萬磅)ノ平均配當一割四分ナリ千九百十六年六月カルクタ一商社ノ出版ニ係ル營業報告一覽ニヨレハカルクタニテ登記ナ經タル會社數百七、拂込總資本額三千二百二十四萬六千四百九十留比ナリ此等會社ノ事業ハ頗ル好況ニシテ金利及社債ニ對スル利子ヲ控除シテ尙且ツ千二百七十萬留比平均三割九分四厘ノ利益ナリ而シテ株主ノ配當平均ハ二割六分四厘ナリキ之レヲ各地方ニ分類セハ次ノ如シ

各地方	アツサム	カツチャールシ	レヒト	ダーシリ	シヤルバイガリ	計
會社數	二五	二七	三	三	三	一〇九
茶園段別	一三、八四	二四、六〇	一九、五二	二六、七九	六六、六一	一四一、〇六
收穫量	一三、六四、六六	一三、一〇、九三	八、〇二、九六	一〇、〇四、九〇	五四、八八、〇一	四一、〇一、〇一
拂込資本	七、九七、三〇	七、六四、三〇	七、三〇、六〇	八、二七、三〇	三三、二四、四九	一〇一、〇一、〇一
一噫投資	三三六	三五五	三八	三八	三三三	一、〇一、〇一
一封信ニ付賣上金	九、四、三三	八、四、五九	一〇、一、五九	九、六、八三	九、三、八〇	三三、〇一、〇一
原價	五、一、一六	五、二、九七	六、一、六六	五、四、六六	五、一、〇、三三	一、〇一、〇一
資本ニ封ス	一九三三年	一九三三年	一九三三年	一九三三年	一九三三年	一九三三年
ル利益率	一九三四年	一九三四年	一九三四年	一九三四年	一九三四年	一九三四年
	一九三五年	一九三五年	一九三五年	一九三五年	一九三五年	一九三五年

配	一九三三年	一三・三六	一九二七年	二九・六六
	一九三四年	一四・四一	二二・九	二七・五
常	一九三五年	二四・八三	一七・八四	八・八四
				七・三五
				九二

茶業近況

製茶業ノ現況ヨリ見ルモ前途ノ豫想ハ印度ニ於テ輸出税ノ賦課、英國ニ於テ輸入税率ノ引上ケラレタルニモ拘ハラズ依然好況ナリ各同盟國ニ於テ酒精飲料ノ販賣禁止又ハ制限ニ鑑ミテ其茶消費ニ及ホス影響ハ注目ニ値ス而シテ今次ノ戦争ニ各國軍隊ニ供給シテ大ニ愛好セラレツ、アルハ看過スヘカラサルコトナリサレト一般ヨリ之レヲ見レハ戦争ノ茶取引ニ及ホシタル影響少ナカラス即チ運賃ノ昂騰ハ茶ノ價格ヲ上昇セシメ而モ依然昂騰ノ傾向アルハ懸念スヘキコトナリ戦争ノ繼續スル限リ船腹缺乏ヲ告グルハ理ノ正ニ然ル所ナリ、サレト茲ニ注目スヘキ興味アル問題ハ過去四ヶ月即チ四月ヨリ七月ニ至ル間ニ印度茶ノ輸出カ前年同期ニ比シ三割七分増加セルコトナリ之レヲ表示セハ次ノ如シ

仕向先	戦前輸出		戦時輸出	
	一九一四年四月—七月	一九一五年四月—七月	一九一六年四月—七月	
英 本 國	三、六一四	九、三六九	五、四四一	
露 西 亞	五、五五五	一、二六七	五、七六七	
佛 蘭 西	六	三	一五	
錫 蘭 島	一、〇五五	一、六五五	一、三九九	
其 他	六、八九七	六、三三三	九、九〇六	
計	五、三〇〇	四、六〇五	六、五二八	

然レトモ此増加ハ本期收穫良好ナリシ結果ニアラスシテ前年度製造ニ係カル分ノ過剰ナリシモ其一因ナリ努力ノ供給餘アリ且ツ耕作地段別ノ増加ハ前既ニ述ヘタル如シ之レヲ收穫ニ付テ千九百十五年度ヲ根據トシテ云ヘハ茶製作者ニ取リテハ勿論利益ヲ收メント

努力スルハ正ニ然ル處ナレトモ同時ニ満足スヘキ出来榮ノ標準ヲ維持センコトハ必要ナルコトナリ千九百十五年度ノ出来榮ハ大體ノ平均ヨリ見テ良好ナリサレド收穫期ノ終リニ於テ摘葉又ハ製作ノ上ニ不注意、粗漏アリシハ否ムヘカラス此點北部印度ニ於テ殊ニ然リ勿論年初ニ於テ茶需要増加シタル爲メ價格昂騰シタル結果ノ誘惑ニヨル過失ナリシナランモ此事タルヤ茶質ニ甚ダシキ惡結果ヲ示シ前年度ニ比シ出来榮甚ダシク劣レリ好茶ヲ製出スヘキ努力スヘキハ當業者ノ正ニ留意セサルヘカラサル所ナリ既ニ前項述ヘタルカ如ク世界茶市場ニ強敵瓜哇ノ出現セルハ當業者ノ注意ヲ大ニ喚起スルニ足ル瓜哇ハ產額増加ニ努力シツ、アルノミナラス其實質向上ニ付テモ全力ヲ注ケリ而シテ最近ニ至リ或ル一部當業者ノ懸念スルカ如ク露國製茶業ノ前途モ印度茶ニ對シテハ恐ルヘキ敵タラスンハアラス露國ハゾオツカ酒飲用禁止ノ結果各方面ニ茶ノ需要ヲ増シ從ツテ茶飲用ノ爲メ消費シタル金額モ亦莫大ナリ同國ハ氣候地質共ニ土地廣大ナル爲メ種々ノ變化差異アリ從ツテ茶耕作ニ適スル氣候及土地ヲ物色スル決シテ難キニアラス此點ヨリ見テ自國內ノ需要ハ自國供給ニ仰キ外國ヨリノ供給ヲ避ケンテ努力スヘキハ見易キコトナリ必スヤ遠カラテ製茶業ニ著手シ專門家ヲ聘シテ著々其歩武ニ進ムルニ至ルヘシ

カルカッタニ於ケル茶質上高ハ今期即チ千九百十六年七月末ニ至ル成績ニ見ルニ前年同期ニ比シテ良好ナラス今期實額價格ハ一封度平均八安十一杯ニシテ前期ノ七安十一杯ニ比スレハ一安ノ高値ヲ維持セリサレト賣捌高ヲ見レハ前期ノ十七萬九千七十九箱ナリシモ今期ハ十五萬八千四百箱ニ減少セリ

瓜哇茶商況

(大正五年度) (大正六年二月九日附在バタビヤ帝國領事松本幹之亮報告)

▽大正五年度產額ハ九千四百九萬六千四百七十四(半基瓦)ニシテ前年ニ比シ一割八分ノ増加ナリ△品質前年ニ比シ更ニ優良ナリ△本年輸出量八千九百九萬六千四百七十四(半基瓦)ニシテ前年ニ比シ三百萬(半基瓦)以上ノ減少ヲ見タリ△アマステルダム及倫敦市場△バタビヤ市場、年ヲ通シテ取引好況△スマトラニ於ケル產額

本島產出茶ノ一年輸出數量ハ普通其產出量ノ概算ト見テ太過無キカ當年末ノ和蘭向輸送停止ト倫敦及其他諸港向船腹ノ不足トニヨリ

平時ニ於テ輸出サレ得ヘカリシ茶約五百萬「半基瓦」(一「半基瓦」ハ一〇二二九英封度)以上バタビヤニ停滯シ其他ノ在庫茶モ亦運送ヲ待望シツ、アリタリ事情此ノ如クナリシヲ以テ當年ノ輸出數量前年ニ比シテ三百二十八萬三千九百九十四「半基瓦」ノ減少ヲ見タルハ其收穫ニ關係アルニ非サルカ故ニ茲ニハ前記五百萬「半基瓦」ヲ總輸出量八千九百九萬六千四百七十四「半基瓦」ニ合算シテ以テ過去二ヶ年ニ比較スルニ左ノ如シ

(單位半基瓦)

大正三年	六四、八三八、六四〇	大正四年	九二、三六六、六六八
大正五年	九四、〇九六、四七四		

即チ總テノ點ニ於テ特ニ順調ナリシカニ二季間不作ニ終リタル千九百十四年(大正三年)ニ比スレハ四割二分半ノ増加ナルモ前年ニ比シ僅二百七十二萬九千八百九(半基瓦)即チ一割八分ノ増加ヲ見タルノミ當年天候ハ一般ニ満足スヘキモノナリシカ特ニ下半年ハ極メテ良好ニシテ七月ヨリ九月ニ至ル間 Helopeltis ノ流行アリタリト雖其病害ニ依リテ蒙リタル葉ノ損失ハ最後ノ三ヶ月ニ於テ恢復シテ餘リアリ豪雨ニ對シテハ十分ナル日光力之レヲ調節シ以テ良好ナル發育ヲ遂ケシメタリ
一般ニ極メテ良好ニシテ先ツ前年ニ於ケルヨリ更ニ優良ナルヘシ實際過去二年間ニ於テ行ハレタル漸進的改善ノ歩ハ明カニ從來ニ比シテ其標準平均ヲ向上シタルモノナルカ此クシテ瓜哇茶即茶液ノ品質竝コ形状、外觀等ニ關シテハ英領東印度及錫蘭產茶ニ對シテ決シテ遜色ナク優ニ競争シ得ヘキ良品ヲ製出セラル、ニ至ルヘシ此改善進歩ノ形跡ハ期カニ之レヲ認ムルコトヲ得ヘク縱令從來ノ製品ニシテ能ク一定ノ品質ヲ維持セラレサリシ例アルモ夫ハ極メテ小數ノ場合ニ於ケル缺點ナリ
今其輸出量ヲ過去二ヶ年ニ對照比較セハ次ノ如シ

(單位半基瓦)

和	大正三年	大正四年	大正五年
蘭	二五、六二七、一五〇	三七、六三四、五五二	二九、七九九、八二六

英	二二、九〇八、一九六	二四、四八六、四二四	二二、八七三、七五八
吉			
利			
露	三、二四八、一七二	一五、三〇六、二八二	一三、四八七、三二八
西			
亞			
濠	六、七八一、五七六	七、二四七、七六〇	六、〇五六、三〇八
太			
刺			
利			
加	七、八四、七一〇	一、三〇九、一八四	六三二、二七四
奈			
陀			
及	一、五四九、九四八	一、八三八、五三六	四四七、六九〇
米			
國			
新	四、九三八、八八八	四、五四三、九三〇	六、七九九、二九〇
嘉			
坡			
其			
他			
計	六四、八三八、六四〇	九二、三六六、六六八	八九、〇九六、四七四

和蘭ニ入りタル數量ハ大正四年ニ於ケルヨリ二割強ヲ減少シ且ツ「和蘭海外トラス」ノ制限ニ依リテ實際和蘭ニ輸入セラレタル數量ハ二千萬「半基瓦」内外ニ過キサルヘク差引九百七十五萬「半基瓦」ハ倫敦ニ仕向ケラレタルモノナリ
英國ヘノ直接輸送ハ二百六十一萬二千六百六十六「卓基瓦」即チ一割強ノ減少ヲ見タリ然シテアムステルダムニ陸揚セスシテ倫敦ニ運送セラレタル量ハ前年ノ千五百二十五萬「半基瓦」ニ對シ約九百七十五萬「半基瓦」ヲ超ヘサリシヲ以テ瓜哇茶ノ英國總輸入量ハ前年ニ於ケルヨリ約八百萬(半基瓦)ノ減少ヲ見タリ需國ヘノ輸入量ハ新嘉坡經由ノモノヲ合シテ二千三百九十三萬五千十八「半基瓦」ニシテ六百七十五萬「半基瓦」即チ三割九分強ノ増加ナリ加之在支那 Brick Tea Factory ヲ通シテ露國ニ移送サル、Dusts 及 Fanning ノ出荷二百十萬六千六百三十二「半基瓦」ヲ増加シタルヲ以テ直接又ハ間接ニ同國ヘ輸送セラレタル茶量總額ハ三千三十八萬三千二百二十八「半基瓦」ニ達ス即チ露國ハ瓜哇ニ對シ極メテ重要ノ捌ケ口ニシテ世界ニ於ケル最大茶購買中心地タルヲ示ス
對濠洲取引ハ百十九萬四千四百五十二「半基瓦」即チ一割六分ニ減退シタルモ之レ獨リ瓜哇ノミニアラスカルカツタ出荷ハ五分古倫母ハ約一割ヲ減少シ總減少量九百萬「半基瓦」ニ達シタリ此ノ狀勢理由ヲ正確ニ判斷スル能ハサレモ恐クハ價格騰貴ニヨリ卸商ノ從前ヨリモ少量ノ貯藏ヲ持スト又同一理由ニヨリ消費量ノ減退セルニ依ルモノナルヘシ加奈陀及米國ヘノ輸出減少量ハ七十七萬六千九百十「半基瓦」即チ十割七分ナルカ蓋シ此取引ハ差程重要ナルモノニアラス且ツ此等兩國ニ於テ瓜哇茶ノ人氣ヲ取得スルニ何等ノ手段ヲ講

セラル、迄ハ依然トシテ不況ヲ免レサルヘシ

錫蘭及印度茶ハ其輸出約百五十萬「半基瓦」ニ及ヒタルモ尙此等兩國市場ニ於テハ本年著ルシク其不況ニ憚ミタリ
瓜哇茶モ同様ニシテ其貿易額六十三萬二千二百七十四「半基瓦」ハ著ルシキ少額ナリキ其他諸國ヘノ輸出量ハ六百七十九萬九千二百九十「半基瓦」ニシテ其内殆ト六百五十萬「半基瓦」ハ Dusts 及 Family 等ニシテ終局ハ露國ニ向ケラレ殘餘ノ三十五萬「半基瓦」ハ其他ノ諸國ヘ配分セラレタリ

對南阿取引ハ年末ニ當リ總計僅ニ二萬七千二百四十「半基瓦」ノ小契約二件成立シタルカ更ニ註文ヲ受ケ取引擴張セラレントスル狀勢ナリ然レトモ和蘭郵船ノ歐洲航行ハ蘇士運河經由テ復舊シタルヲ以テ運輸ノ便宜ヲ失ヒ本品外國市場ニ重要ナル増加ヲ與ヘ得ヘキ據市場モ定期船缺乏ノタメ閉鎖サル、ニ至レリ

アムステルダム及倫敦市場

此兩市場ニ於ケル價格ノ差異ハ愈々大ナリキ大陸市場相場ハ大正四年末ヨリハ低位ニテ開始サレタルカ價格ハ年々至リ上向テ示シタリ然レトモ十月不況トナリ年末ニ於テハ時ニ當年最高記録ノ景氣ヲ示シタルモ多クハ最低價ニ落込ミタリ總平均價格前年ヨリ約四仙低下セシカ和蘭ヨリノ輸出禁止サレ全ク國內ノ需要ニ止マリタル故其結果ハ不況ナラサリキ倫敦ニ於テハ市場多クハ六月初最高點ニ達スル迄アムステルダムニ於ケルト同一氣配ヲ示シタリ其後極メテ不況トナリテ八月半最下點ニ落込ミシカ爾來價格強味トナリ年末ニ至リ再ヒ殆ト六月ニ於ケルト同様ノ高調ニ達シタリ

最低及最高市價及六月三十日並ニ十二月三十一日ニ於ケル平均價格ヲ示シテ之レヲ過去四年間ニ比較對照スレハ左ノ如シ

種類	平均價額	平均價格	平均價格	平均價格	最低價格	最高價格	六月三十日
	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年	大正四年	大正五年	平均價格
アムステルダム (單位仙)							
Lowest Quotation Broken Tea	三三・〇	三三・三	三三・五	三三・五	三三	三三	三三
同 Pekoe Souehong	三三・五	三三・四	三三・九	三三・〇	三三	三三	三三
同 Pekoe	三三・〇	三三・〇	三三・〇	三三・〇	三三	三三	三三
同 Broken Pekoe	三三・〇	三三・〇	三三・〇	三三・〇	三三	三三	三三

種類	平均價額	平均價格	平均價格	平均價格	最低價格	最高價格	六月三十日
	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年	大正四年	大正五年	平均價格
倫敦 (單位斤)							
Ordinary Medium Pekoe Souehong	三六・七	八・五四	六三・九〇	六八・七	五三	六〇・四	六〇・四
同 Pekoe	四〇・〇	八・三三	六四・三九	六〇・五	五三	六三	六三
同 Orange Pekoe	四三・三	八・五七	六六・五	六三・八	五三	六三	六三
同 Broken Pekoe	四一・五〇	六・五〇	五八・〇五	五五・五	四九	五三	五三

種類	平均價額	平均價格	平均價格	平均價格	最低價格	最高價格	六月三十日
	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年	大正四年	大正五年	平均價格
Ordinary Dust	六・三	七・一八	八・六一	九・五	七	一〇	九・一〇
同 Pekoe Fanning	三・〇	七・五	九・五〇	一〇・〇	九	一〇	一〇・〇
Lowest Quotation Broken Tea	三・〇	七・六一	九・五	一〇・三	九	一〇	一〇・〇
同 Pekoe Souehong	三・〇	八・一一	九・五九	一〇・七	八	一〇	九・七五
同 Pekoe	七・五	八・四	九・八七	一〇・八	八	一〇	九・八九
同 Broken Pekoe	七・三	八・三	九・九	一〇・八	八	一〇	一〇・七
Ordinary Medium Pekoe Souehong	七・三	八・三	九・九	一〇・八	八	一〇	一〇・七
同 Pekoe	八・〇	八・七	一〇・五	一〇・五	八	一〇	一〇・四
同 Broken Pekoe	八・三	八・五	一〇・四	一〇・九	八	一〇	一〇・七
同 Orange Pekoe	八・七	九・四	一一・六	一二・九	八	一〇	一〇・九〇

バタビヤ市場取引數量概算次ノ如シ (單位半基瓦)

大正三年	一五、五七、一〇〇〇	大正四年	二九、二四、六〇〇〇
大正五年	三七、四二、一〇〇〇		

當年ノ増加ハ前年ニ比シ八百十七萬七千「半基瓦」即約三割ニ上リタリ此増加量ハ總ヘテ露國ニ吸收セラレタリ實ニ彼ハ殆ト全年活潑

ナル顧客ニシテ其購買量ハ提供ノ八割ニ及ヒタリ

一般ニ年ヲ通シテ需要好況ヲ示シ只六月末倫敦市場ニ於テ價格暴落ヲ示シタルトキバタビヤ取引者ハ沈靜シテ取引ヲ手控ヘタリ市場ハ年初緩漫ナリシカ爲替ノ低率ハ註文ヲ誘起シタル結果五月初ニ至ル迄市場強固ヲ持續シタリ六月中取引尙僅少ナリシカ需要次第ニ好況トナリ十月ニ於テ現物並ニ先物ノ商談頻繁トナリ此クシテ年末ニ至ル迄好況ヲ持續シタリ戰争ノ影響トシテ本島ノ船運關係甚クシク不便トナリ印度及錫蘭モ亦同様ノ故障アルヲ以テ此等印度產出茶ト本島茶トノ實數ニ就キ比較對照ヲ爲シ得サルモ此三ヶ所ヨリノ一月ヨリ十二月ニ至ル出荷量概算ヲ示セハ左ノ如シ(單位半基瓦)

	大正四年	大正五年
北 部 印 度	二六九、一七八、〇〇〇	二五四、四九三、〇〇〇
南 部 印 度	二〇、一一〇、〇〇〇	一五、八九二、〇〇〇
錫 蘭	一八三、二六六、〇〇〇	一七五、六二一、〇〇〇
瓜 哇	九二、三六六、〇〇〇	八九、〇九六、〇〇〇
計	五六五、〇二〇、〇〇〇	五三五、一〇二、〇〇〇

前年ト比較シテ合計三千萬「半基瓦」ノ減少ナルカ其減少率瓜哇茶最モ尠少ニシテ僅ニ三百二十七萬「半基瓦」ヲ算スルニ過キサルニ印度茶ハ千八百九十萬三千「半基瓦」錫蘭茶ハ七百六十四萬五千「半基瓦」ノ減少ヲ示シタリ倫敦ニ於テ年末ニ於ケル統計ハ左ノ如シ(單位半基瓦)

	輸 入 額	引 渡 額	在 庫 額
大 正 四 年	三八九、七〇〇、〇〇〇	三四四、七〇〇、〇〇〇	一三六、八〇〇、〇〇〇
大 正 五 年	三三九、二五〇、〇〇〇	三二七、五〇〇、〇〇〇	一一六、一〇〇、〇〇〇

輸入合計前年ニ比シ約五千萬「半基瓦」減少シ引渡額(國內消費及輸出ヲ含ム)モ亦千七百萬「半基瓦」減退シ十二月三十一日ニ於テ倉庫

留置ノ總ヘテノ茶ノ貯藏量ハ二千七十五萬「半基瓦」ノ減少ヲ呈示シタリ

茶況ハ此ノ如ク賣手側強味ヲ示シ而シテ船腹ノ大缺乏繼續スル限リ年末ニ於テ強勢ヲ持シタル高率ハ眞ノ不況ヲ現出スヘシトハ製測セラレサルナリ

スマトラニ於ケル產額 スマトラニ於テハ頗ル急速ノ進步ヲナシ過去二年ノ輸出數量ハ大正四年百二十萬四千百「半基瓦」同五年三百六萬四千三百三十六「半基瓦」ヲ算シ前年ニ比シ其增加量百八十六萬二千三百三十六「半基瓦」即チ十五割以上ニ達シタリ然シテ其植付面積六千五百「バウ」ナルモ產出面積ハ未ダ約二千百「バウ」ヲ出テアルヲ以テ將來最モ確實ナル増加ヲ豫期シ得ヘク又本島產茶ノ大量ハ英國ニ輸送セラレテ好評ヲ博シ満足スヘキ價格ヲ持シタリ今日ニ至ル迄其優等品ハバタビヤ市場ニ出現セス然レトモ品質中位ニ屬シ露、濠兩國ノ購買者ニ利益アルハ殆ト疑ナ容レサル所ナリ

○瓜哇茶の米國販路開拓 (大正六年二月二十一日附在バタビヤ帝國領事松本幹之亮報告)

▽瓜哇茶ノ輸出先ハ從來蘭、英、露ヲ主トシ米國トノ取引ハ輕視セラレタリ之レ歐洲及濠洲ノ需要盛ナリシト船運關係良好ナラサリシトニ因ル▽歐洲戰争以來濠洲ニテハ印度茶及錫蘭茶ヲ輸入シ又歐洲向輸送ハ種々ノ故障アル爲メ茶業者ノ損害少カラス故ニ輸出業者聯合シテ一萬箱ヲ米國ニ輸送シテ試賣スルト共ニ技師ヲ派遣シテ市場ヲ巡視セシムルコトニ決セリ

瓜哇茶ノ輸出先ハ從來和蘭本國、英國及露西亞ヲ主トシ米國方面トノ取引ハ左程重要視セラレサリシカ右ハ瓜哇茶カ歐洲及濠洲方面ノ需要旺盛ナリシタメ米國方面ノ市場開拓ニ努メサリシト船運關係良好ナラサリシトニ原因セシモ歐洲戰争以來濠洲ニテハ專ラ英領印度及錫蘭茶ヲ輸入セルト歐洲向茶ノ輸送上種々ノ故障ヲ來タシ例ハ其數量ノ制限又近クハ茶ノ和蘭輸入ヲ停止セルカ如キ當領茶業者ノ受クル損害危險ノ程度尠ナカラサリシタメ當業者ハ對米貿易ニ留意スルニ至リシヨビト商會、デーマン、フアン、ケルム商會並ニシヨイシ、ウエリー商會ノ如キ輸出業者聯合シ瓜哇茶試賣ノタメ一萬箱ヲ米國ニ輸送スルト同時ニ Tea Export Bureau

技師 Edwards ヲ派遣シ普ク米國市場ヲ巡視セシメ瓜哇茶ノ販路開拓ニ努力セシムルコトニ決定シ不日桑港ニ向テ當地ヲ出發スヘシト云フ由來瓜哇茶ノ新市場開拓方法ハ何等政府ノ後援アルニアラサルモ最モ組織的ニシテ能ク需要地ノ嗜好ヲ研究シ市場ニ地盤ヲ形成スルニ最善ノ努力ヲ吝マヌ例ヘハ大正二年露西亞仕向輸出量ハ僅ニ四十四萬封度ニ過キサリシニ同三年ニハ三百五十萬封度、同四年ニハ千六百八十萬封度、同五年ニハ二千五百八十萬封度ニ激増シタルカ如キ全ク歐洲戰亂ノ機ニ乘シ當業者カ同國市場ヘノ販路擴張ニ努力タル結果ニ外ナラス

今回當業者カ對米輸出擴張ヲ計畫シタルハ固ヨリ成算アルニ基クモノナレハ其成否如何ハ向後我當業者ニ及ボス影響夥ナカラサルヘキヲ信ス

雜 報

○紅茶製造並ニ晚芽ノ摘採ニ對シ左記ニ回ノ注意及警告書ヲ發シテ一般當業者ニ注意ヲ促シタリ

注 意 書

我カ紅茶ノ製造ハ明治七八年ノ交ヨリ諸所ニ研究セラレタルモ未ダ以テ充分ナル成績ヲ見ル能ハサル内ニ惜ヒ哉自然粗製濫造ニ流レタルハ誠ニ遺憾トスル所ナリキ然ルニ紅茶ハ世界ノ需用品タルヲ以テ此處ニ放棄スル能ハス依テ本所カ數年來紅茶製造ノ研究ニ努メシ、アリシカ其ノ結果稍キ理想的製造法ノ端緒ヲ啓キ將來益有望ナラントスルニ當リ頃來一般當業者モ亦期セスシテ紅茶ノ製造ニ注意スルノ機運ニ向ヒタルハ洵ニ悦フヘキ現象ナリトス此時ニ於テ最モ注意ヲ要スヘキハ若シ其ノ流行ニ驅ラレテ當業者各自恣ニ製造スルカ如キコトアランカ其ノ結果忽チ粗製濫造ニ陥リ復々途ニ救済ス可ラサルニ至ルノ悞レナキ能ハス而カモ猶ホ未ダ研

究時代ニ屬スルモノナレハ更ラニ一層ノ研究ヲナスノ必要アリ況ンヤ總テノ事業ハ其創メニ於テ周到ノ用意アルニアラサレハ後チ必スシモ囁臍ノ悔アルニ於テチナ近時漸ク此ノ好機運ニ向ヒシ、アル紅茶ノ爲メ著實慎重ノ注意ヲ要スル次第ナリ今ヤ新茶季ヲ迎ヘントスルニ當リ紅茶製造ニ關シ研究上左ニ其ノ要點ヲ掲ケ以テ一般當業者ノ注意參考ニ資セントス

- 一、製造場ノ設備ハ其ノ地方ノ氣候ニ適應スルハ勿論ニシテ成ルヘク空氣風通シ其キ裝置ヲシテ總テ室内ニ於テ製造ヲナシ決シテ日光ヲ用ヒサルコト

二、製造ノ大要ハ左ノ四項目ニシテ之レニ付キ最モ注意ヲ用ユヘキコト

一、萎凋、水乾 室内ノ最モ空氣ノ流通ヨキ所ヲ擇ムコト

二、揉 揉 茶葉其ノ物ノ大小硬柔ニ應シ各適當ノ揉捻ヲナスニ注意スルコト

三、醱 器内ニ於テ適度ニ純正ノ醱酵ヲ促スニ注意スルコト

四、乾 燥 始メノ荒乾燥ハ醱酵停止ノ爲メ最モ高温度ニテ少時間トナシ再度ノ仕上ケ乾燥ハ成ルヘク緩温度ヲ用ユルコト

三、紅茶ハ適當ノ茶葉アルモノナレハ之レヲ選擇スルコト

四、老硬又ハ龐大ナル茶葉ヲ用ヒス成ルヘク嫩芽ヲ用ユヘキコト

五、紅茶ノ製造ハ専ラ機械的ナルカ故ニ其ノ機械ノ選擇ニ注意スルハ勿論總テ製造方法ニツキ未ダ研究ヲナスヘキ事項多クアルニ

依リ當分ノ内ハ組合又ハ團體ニ於テ眞面目ニ研究試製ヲナシ以テ一般粗製濫造ヲ防止スルコト

以上當業者ニ於テ宜敷熟讀考慮研究セラレンコトヲ切望スル所ナリ

大正六年四月

茶 業 組 合 中 央 會 議 所

警 告 書

本年製茶一般ノ實況ヲ觀ルニ、概ネ目前ノ利ニ趨リ機械アルヲ恃ミ故ラニ生葉ノ適採ヲ遲延セシメテ機械ノ濫用ヲ恣ニシ、我カ製茶固有ノ本質ヲ没却シタリ。如此ハ我カ茶業前途ノ爲誠ニ寒心ニ耐ヘサル所ナリ。

抑々本年下茶ノ比較的高價ニ、而カモ多量ニ實行キツ、アルハ、時局ノ影響トシテ船腹ノ不足ハ延イテ運賃ノ暴騰ヲ來シ、我カ競争國タル印、錫、支、製茶ノ輸出、甚夥キニ反シ、我カ製茶ハ幸ニ船腹ノ需給、時宜ニ適ヒ、運賃亦適當ナラサルヨリ其ノ輸出上、特殊ノ便宜ヲ得タルニ因ルモノナリ。然レトモ、如此現象ハ決シテ永ク持續スヘキモノニ非ス。

此ノ故ニ、一朝平和克復ノ時期到リ、市場ノ狀況一變センカ、之レカ反動トシテ我カ當業者ノ被ル打擊ハ、蓋シ豫測シ難キモノアラム。

由來本邦製茶ノ米國ニ歡迎セラレツ、アルハ、他ノ機做シ能ハサル特質ヲ具有スルカ爲ナリ、然ルニ本年ノ製茶ハ市場ノ好況ニ誘ハレ組製相次クノ有様ニシテ、就中二番茶以來殊ニ甚シキニ至レリ、此趨勢ニシテ底止スル所ナクハ途ニ需要者ノ信用ヲ失墜スルノミナラス、組製茶輸入禁止ノ運命ニ陥ラム、今ニシテ當業者タルモノ相共ニ警メ、斯業永遠ノ計ニ想到セラレハ、彼等競争國ノ乘スル所トナリ、忽ニシテ販路ノ頓運ヲ見ルヤ必セリ。且夫レ製茶持久ノ計ヲ思ハバ、平素茶園愛護ノ爲、茶樹ノ耕耘ト施肥トニ最モ留意スヘキハ勿論、其ノ摘採モ茶樹ノ健康ニ堪フル程度ニ止ムヘキナリ、然ルコ本年ノ如ク、生産ノ多額ヲ圖ラントシテ晩季ニ及フ迄、過長ノ硬葉ヲ採收シタル結果ハ、勢茶樹ノ衰耗ヲ招キ、其ノ極、茶園ハ荒廢ニ歸スヘシ。而シテ一度衰耗シタル茶樹ハ、速ニ肥料ヲ倍施スルモ、徒ニ病蟲ノ害ヲ見ルノミニシテ、其ノ回復ノ實ヲ舉グルコト容易ノ業ニ非ス。是ヲ以テ當業者タルモノ須ラク眼前ノ利ニ迷ハス誠心誠意專ラ斯業前途ノ爲益々改善發展ヲ期スヘシ之レ刻下ノ急務ナリトス。

右警告ス

大正六年九月

茶業組合中央會議所

○大谷會頭ノ壽像建設經過

會頭カ茶業界ニ於ケル多年ノ功績表彰ノコトノ議ニ上リシハ、大正二年十一月、茶業組合創立三十年記念大會ノ交ニシテ、翌三年二月中央會議定時會ニ於テ、終始一貫斯業ニ盡瘁貢獻セラレタル功勞ニ

對シ敬意ヲ表センカ爲、名譽アル表彰ヲ行フコトヲ決議シ、之レカ方法及費用一切ノコトヲ擧ケテ評議員會ニ一任セラレ、越エテ四年二月、同定時會ニ於テ前年ノ決議ニ基キ、本所役員、中央會議員、各聯合會議所會頭等之カ發起人トナリ、適當ノ方法ニ依リ沿ク全國ニ勸誘シテ相當ノ物件ヲ以テ表彰スルコトヲ決議シタリ。此ノ議ニ從ヒ、同月、尾崎伊兵衛氏外八十四氏發起人トナリ、次イテ四月、本所評議員ヲ始メ各府縣茶業關係者ノ主ナル諸氏、百二十九氏ヲ委員ニ囑託シ、六月、全國委員會ノ議ヲ以テ、如上ノ目的貫徹ノ爲、別ニ、大谷嘉兵衛君銅像建設期成同盟會ナルモノヲ組織シ、本所副會頭尾崎伊兵衛氏ヲ委員長ニ、本所理事相澤喜兵衛氏及東京長井利右衛門氏ヲ副委員長ニ推シ、横濱岡野利兵衛靜岡縣中村圓一郎、同笹野徳次郎同松浦五兵衛、同北川米太郎、三重縣、伊藤六治郎、同、柿彌十郎、大阪府、栗谷喜八、滋賀縣、大原重右衛門ノ九氏ヲ常務幹事ニ、泉猪太郎氏外二十三氏ヲ幹事ニ擧ケ、全國茶業者ニ檄シテ釀金ノ募集ニ從事シ、以來、專建設ノ業ニ當リ三歳ヲ經テ今年十一月ニ至リ、漸、其ノ竣工ヲ見タリ。

建設位置ニ就イテハ豫メ、生國伊勢、現住地横濱及製茶ノ大産地靜岡縣ノ三ツヲ選ヒシカ、大谷會頭ノ希望、靜岡ノ地ニ厚ク、終ニ靜岡市ト定メ、建設ノ地點ハ、種々踏査ノ結果、始メ清水山公園絶頂ヲ相シ、其ノ筋ノ認可ヲ得テ、地鎮祭ヲ執リ行ヒ、基礎工事ニ從事中、偶々古墳時代ノ遺物ヲ發掘シタルヲ以テ、大谷會頭此處ニ像ヲ置クコトヲ憚ラレ仍ツテ、更ニ、同公園山麓ノ地ニ移シテ、工ヲ進メ、像ヲ圍レル四周ハ大谷會頭巨資ヲ投シ靜岡市ノ爲メニ收メテ遊園地トナシタリ。後、山上ニハ、

大谷會頭、公園鎮護ノ意ヲ以テ、松方侯ノ染筆ヲ得テ全國茶業者ヲ代表シ、護山碑ヲ建立シ、十月二十八日、之ヲ建碑式ヲ了セリ。像(寫眞参照)ハ、該遊園地ノ中央ニ位シ、臺座ハ、緩キ斜面ヲ作リテ土臺ヲ平地ヨリ約二尺許ノ高サトシ、四方ヨリ階段ヲ設ケ、其ノ上ニ、花崗石ニテ疊ミタル高サ二丈ノ座石ヲ据エ、座石正面ニ、別項記載ノ如キ撰文銅版(寫眞参照)參照ヲ嵌入セリ。

像ハ、南面シテ其ノ上ニ立ツ一丈二尺ノ立像ニシテ、フロツクコートヲ着シ、左手ニ絹帽、右手ニ洋杖ヲ携フ。地上ヨリ頭ニ至ル高サハ合セテ三丈三尺ニ及フ。

壽像ノ全設計並像及撰文銅版ノ鑄造ハ、岡崎雪聲氏ニシテ像ノ原型製作ハ渡邊長男氏ナリ。又、撰文ノ起草者ハ小櫃守衛氏ニシテ、筆者ハ、仁賀保成人氏ナリ。

功績表彰撰文

此爲我茶業組合中央會議所會頭大谷嘉兵衛君像。君以弘化元年十二月、生於伊勢飯南郡川俣村。君資性温厚識見超人。而其爲事必出於誠、故莫不事成人服焉。自文久二年始從茶業於橫濱此五十餘年矣。其間深慨粗製濫造之弊、謀之矯正孜孜弗懈。明治十七年組合準則之發布也、直共同志創成茶業組合中央會議所、選爲議員、後遂爲其會頭兼議長。是蓋其誠之所致豈求而可得者哉。明治三十二年米國突然課我茶以苛稅物論洶洶。君乃選爲渡米廢稅委員、先抵費府臨萬國商業大會、尋歷訪大統領以下名士、懇說課稅不當、理透情臻、米國竟廢之、實三十六年一月也。夫君非蘇張之流而說堂堂大國使改其稅法。是豈非所謂至誠動人者乎。今也郡市各有茶業組合、各府縣各茶業組合聯合會議所、而統之有茶業組合中

央會議所、首尾相應、內外相通。是以製法大進販路亦將大開。蓋如斯之統一整頓歐米諸國亦或不見其比云。嗚呼我業之有今日實由君之所多年一誠以經營慘澹。其功豈可忘乎。是本會議所之所以建銅像以不朽君也。願君年齒頗高而康健不讓壯者、自今以後、其所成就必有不可得量者。盛矣哉。若夫君之臨萬國商業大會、痛論日米直通海底電線緊急、喚起米國輿論、使速成之以便通信、世界通信史上可特筆者。君嘗爲貴族院議員謀議國事、加於渡米實業團、渡清實業團赴米清兩國、敦睦國交、又其現占要位於十有餘銀行會社、及爲諸公私會長、竭心力、捐貲財以謀公益、屢爲官所賞、賜銀製黃綬章、特叙正五位、叙勳三等、授瑞寶章。亦皆可傳於後者。而其事之詳細載在忠勇顯彰會所編誠忠高義傳、及茶業組合中央會議所編日本茶業史。此不復暇暇也。

壽像除幕式

大正六年十一月十五日舉行

順序

- 一 午後正一時一同着席 (第一鈴)
- 二 開會辭 (副委員長)
- 三 神官祓式 (奏樂)
- 四 除幕
- 五 式辭 (委員長)

(常務幹事)

- 六 報 告
 - 七 大臣祝辭
 - 八 知事祝辭
 - 九 來賓祝辭
 - 十 中央會議所副會頭祝辭
 - 十一 中央會議副議長祝辭
 - 十二 大谷翁謝辭
 - 十三 大谷翁萬歲
 - 十四 閉 會
- 以上
- 式場ハ恰、好シ、前夜淨メノ雨ニ洗ハレテ園地ニ敷ケル小石清ケニ、壽像ヲ蔽ヒタル紅白ノ幔幕ハ、微風ニ搖キ、今日ノ除幕ヲ壽クニ似タリ。定刻前ヨリ、來賓陸續入場シ、鑼、當日ノ主賓、大谷會頭ニハ、令嗣幸之助氏夫妻、二孫女並ニ同家一門ヲ伴ヒテ入場セラレ、定刻振鈴ニテ、一同着席スルヤ、副委員長相澤喜兵衛氏開會ヲ宣シ、次イテ三浦神官等ノ修祓アリ。

(委員長發聲)

(第二鈴)

祝 詞

掛卷母畏伎

伊邪那岐大神筑紫乃日向乃橘乃小門乃阿蘇原爾禊祓給比志時爾生座世留祓戸乃大神達今日此乃處爾銅像除幕乃式執行布我故爾此新墾所乎始采豆事爾與禮留諸人等我過犯志介非罪穢乃有良幸乎慶天津奇祓乃神業以志那止乃風乃吹祓布事乃如久神祓比爾祓給比神清米爾清給邊止白須事乃由乎聞食世止恐美恐美母白須終ツテ、二孫女ノ手ニ幕ハ撤セラレテ壽福圓滿ノ温容現レタリ。於茲、委員長尾崎伊兵衛氏式辭ヲ朗讀ス。

式 辭

丁巳初冬ノ吉辰、正五位勳三等大谷嘉兵衛君ノ壽像工竣ルヲ告ケ、茲ニ除幕ノ式典ヲ舉ク。願レハ、大正四年六月、本會ヲ組織シテ專建設ノ業ニ當リテヨリ今年今日除幕ノ運ニ會スル迄、既ニ三歳ヲ經タリ。其ノ間、幸ニ大方ノ贊助ノ厚キト、工ヲ督セシ者ノ熱心ト、造營ノ業ニ從ヒシ者ノ精勵トニ因リ、君ノ功績ヲ永遠ニ表彰スルニ足ルヘキ壯麗ノ壽像ヲ建設シ以テ君ノ萬壽ヲ祝スルヲ得タルハ、誠ニ慶賀ニ堪ヘサル所ナリ。今更ニ、君ノ我カ茶業界ニ於ケル勲業ヲ偲フ時、胸裡ニ來往スルモノハ感謝ノ念ナリ。君カ夙ニ身ヲ實業界ニ起シテ以來、五十餘年ノ經歷ヲ回顧スルニ、多ク一身ノ利殖ヲ度外ニ措イテ公ニ盡シ、殊ニ、我カ茶業者一般ノ利營ヲ一家ノ利營トナシ老ノ身ニ到ルヲ忘レテ殆寧日ナシ。洵ニ斯界ノ先覺、斯界ノ長者ナリ。爾今、吾等ノ君ニ捧ケシ感謝ノ結晶タル此ノ壽像ハ、長ニ、君ノ高風、君ノ功業ヲ語リテ清水山麓ニ、

我カ茶業界ノ鎮護タルヘシ。茲ニ君ノ功德ヲ頌シテ式辭トナス。

大正六年十一月十五日 大谷嘉兵衛君銅像建設期成同盟會委員長 尾崎伊兵衛

次ニ常務幹事村圓一郎氏事業報告ヲ述フ、

事業報告

正五位勳三等大谷嘉兵衛君ノ壽像建設諸般ノ事業豫期ノ如ク進捗シ、本日芽出度除幕ノ式典ヲ舉クルニ際シ聊事業經過ノ概要ヲ報告スルノ光榮ヲ有ス。

回顧スレハ大正四年六月本會ヲ組織シテ壽像建設ノ業ヲ創メテ以來、今日除幕ノ運ニ會スル迄、既ニ三歳ヲ閱シタリ。此ノ間幸ニ江湖ノ贊同厚キヲ致シ、今日眼ノ當、見ルカ如キ壯麗ノ壽像ヲ建設シ以テ永ク大谷君ノ功績ヲ表彰スル事ヲ得タルハ本會ノ深ク感謝スル所ナリ。

抑々本會壽像建設ノ起因ハ大正二年十一月茶業組合創立三十年記念大會ノ時、初、大谷君ノ功績表彰ノ事議ニ上リ、翌三年二月中央會通常會ニ於テ決議セラレテ表彰ノ方法及費用一切ノ件ハ舉ケテ評議員會ニ一任セラレタリ。越エテ四年二月同シク中央會通常會ニ於テ前年ノ決議ニ基キ中央會議所役員、中央會議員及各聯合會議所會頭之カ發起人トナリ沿ク江湖ニ贊成ヲ仰キ名譽アル最高ノ表彰ヲナスコトニ決議セラレタルニ創ル。此ノ目的ヲ貫徹スル爲、別ニ本會ノ成立ヲ見、夫々役員ヲ選定シ茲ニ漸ク壽像建設ノ舉トナリ以テ今日ニ迄ヘリ。

壽像ノ建設位置ヲ定ムルニ當リ、豫メ三ツノ候補地ヲ選ヘリ。第一ニハ茶ノ大產地タル静岡縣、第二ニ

ハ大谷君成功ノ地ニシテ第二ノ故郷地タル横濱、第三ニハ大谷君發祥ノ地タル郷國伊勢ノ地之レナリ、而シテ君ノ希望厚キニ從ヒ静岡市ト決定セリ。次ニ建設ノ地點ハ種々踏査ノ結果市内音羽町清水公園地ヲ相シ、直ニ市役所並ニ縣廳ノ認可ヲ得、最初清水山頂ト定メ地鎮祭ヲ執リ行ヒ基礎工事ニ着手シタル所、偶々此ノ場所ヨリ古墳時代ノ遺物ト覺ホシキ物件ヲ發掘シタルヲ以テ、大谷君ノ謙讓ナル之ヲ避ケム事ヲ望マレ仍ツテ更ニ此ノ山麓ヲ相シ、其ノ筋ノ認可ヲ得テ事業ヲ進メタリ。後、山頂ニハ大谷君公園鎮護ノ意ヲ以テ全國茶業者ヲ代表シ、松方老侯ノ染筆ヲ請ヒ護山碑ヲ建立シ去月二十八日之カ建碑式ヲ了セリ。

壽像建設ノ設計並ニ壽像及撰文銅版ノ鑄造ハ岡崎雪聲氏ノ手ニ成リ、像ノ原型ノ製作ハ渡邊長男氏ノ手ニ成ル。又君ノ功績表彰ノ撰文ハ小櫃守衛氏ノ起草ニ成リ、書ハ仁賀保成人氏ノ筆ニ成レリ。

會計事務ノ報告ニ關シテハ他日會計決算ノ時ヲ期シ詳細ニ報告スル所アラムトス。

大正六年十一月十五日 大谷嘉兵衛君銅像建設期成同盟會常務幹事 中村圓一郎

次イテ大原重右衛門氏ハ、内閣總理大臣伯爵寺內正毅氏、農商務大臣仲小路廉氏、文部大臣岡田良平氏等ノ祝電、祝辭ヲ代讀セリ。

内閣總理大臣祝電

大谷嘉兵衛氏ハ、文久以後五十餘年間、一意茶業ノ發展ニ努メ、克ク今日ノ盛運ヲ致セリ。茲ニ、斯

業有志相計リ、銅像ヲ鑄造シ、其ノ偉績ヲ長ク後世ニ傳ヘムトシ、工既ニ成リ、本日除幕式ヲ舉ケラルルニ際シ、遙ニ一言ヲ寄セテ祝詞トナス。

農商務大臣祝電

大谷君銅像除幕式舉行ニ際シ、祝意ヲ表ス。

文部大臣祝辭

帝國茶業界ノ恩人、大谷嘉兵衛翁ノ像成リ、本日ヲ以テ之カ除幕式ヲ舉ク。惟フニ翁ハ、斯界ノ先覺者、指導者トシテ、一生ヲ斯業ノ發達ノ爲ニ捧ケ、斯業ト終始スルコト茲ニ五十有餘年、歸然トシテ重キヲ我カ實業界ニ爲シ、天下我カ茶業ノ何タルヲ解セサル者尙翁ノ名ヲ知ラサルハ無シ。若シ夫レ製茶課稅問題ノ米國ニ喧シキニ方リ、挺身盡力大ニ彼ノ輿論ヲ動カシタルカ如キ、又太平洋海底電線ノ布設ヲ提議シタルカ如キ、惠澤ノ及フ所、寔ニ大ナルモノアリ。當ニ國民ノ齊シク之ヲ記シテ永ク其ノ恩ヲ銘スヘキ所タリ。静岡縣ノ地、夙ニ茶ヲ以テ著ハレ、翁ノ恩惠ヲ蒙ルコト厚ク、縣民ノ翁ヲ欽仰スルコト特ニ深シ、翁ノ像ノ爰ニ設ケラルル、蓋、其ノ所ヲ得タルモノナラスンハアラス。予生ヲ斯ノ地ニ享ケ、且翁ト相識ルコト年アリ。乃、本日ノ除幕式ニ方リ一言ヲ述ヘテ祝意ヲ表ス。

大正六年十一月十五日

文部大臣 岡田良平

静岡縣知事祝辭

次ニ、静岡縣知事安河内麻吉氏ノ祝辭朗讀及大原重右衛門氏ノ東京府知事井上友一氏ノ祝辭代讀アリ

先進ノ德行丕績ヲ旌表シ、芳名ヲ不朽ニ傳フルハ、則、世道人心ヲ益スル所以ニシテ、後生ノ當ニ務ムヘキ所ナリ。今ヤ製茶ハ我カ邦重要輸出品トシテ、盛況寔ニ驚クヘキモノアリト雖、顧ミテ其ノ發達ノ迹ヲ釋ヌレハ、幾多先輩ノ苦心慘澹、轉、感慨ニ堪ヘサルモノアリ。而シテ我カ敬愛スル大谷翁ノ如キハ、蓋、其ノ第一人ナリトス。翁ヤ夙ニ身ヲ斯界ニ投シ力ヲ生産ノ改良、販路ノ擴張ニ盡シ、悲境ニ屈セス、順潮ニ驕ラス、終始一誠孜孜トシテ息マス、苟、事ノ茶業ニ關スルモノ大小トナク、未、曾、翁ヲ煩サスンハアラス。其ノ隆昌今日ヲ致セルモノ、其ノ功勞ニ負フモノ極メテ大ナリ。茲ニ有志相謀リ、壽像ヲ建立シテ永ク偉績ヲ後昆ニ傳ヘントス。洵ニ故アリト謂フヘシ。而シテ地ヲ製茶ノ主産地タル本縣ニ相シタルハ固ヨリ其ノ所ニシテ、又我カ縣民ノ歡喜措ク能ハサル所ナリ。庶幾ハクハ後進ノ士ニシテ颯爽タル此ノ壽像ヲ仰ク者、深ク翁ノ高風ヲ欽シ感奮興起スル所アラランコトヲ、一言ヲ叙シテ祝詞トス。

大正六年十一月十五日

静岡縣知事從四位勳三等 安河内麻吉

次ニ、來賓祝辭トシテ前田正名氏ノ演說、農商務省農務局長道家齊氏（農商務技師難波五百磨氏代讀）、静岡市長小森慶助氏、静岡市會議長伴野欣平氏、静岡縣茶業組合會議所副會頭北川米太郎氏等ノ祝辭朗讀及静岡新聞記者團總代山崎高延氏ノ演說アリ。

農務局長祝辭

正五位勳三等大谷嘉兵衛君ノ壽像、今ヤ其工ヲ竣リ、本日ヲトシテ除幕ノ盛儀ヲ行ハル。惟フニ君ハ多

年一日ノ如ク誠心誠意以テ公共ノ事業ニ盡瘁シ、就中、茶業ニ付イテハ過去五十餘年間、幾多ノ波瀾曲折ニ處シテ進歩發達ニ惟レ努メ其ノ功績ノ多大ナル同業者ノ感謝措カサル所ナルト同時ニ、國家産業ノ爲洵ニ推服ニ堪ヘサル所ナリ。茲ニ茶業界ノ有志相率キテ君ノ壽像ヲ建設シ以テ其ノ德ヲ後世ニ傳ヘムトスルモノ大ニ故アリト謂ツヘシ。翻ツテ本邦茶業界ノ前途ヲ考察スルニ、今後益々奮闘努力官民相一致シテ施設計畫ヲ爲スヘキモノ頗多シ。望ムラクハ全國當業者、君ノ意ヲ以テ意ト爲シ、銳意勵精以テ茶業ノ發展ニ努ムコトヲ。聊、蕪言ヲ述ヘテ祝詞トス。

大正六年十一月十五日

農商務省農務局長 道 家 齊

市長祝辭

全國茶業家ノ御計畫ニヨリテ御建設ニナリマシタ、至誠ノ人、嘉兵衛大谷翁ノ壽像カ、茲ニ御竣工ニナリマシタノテ、本日除幕式ヲ行ハセラレルニ當リ、不肖慶助静岡市長タルノ故ヲ以テマシテ、此ノ席ニ列ルコトヲ得マシタ段ハ誠ニ光榮トスル所ヲ御座リマス。惟フニ過去五十餘年ノ間、終始一貫、常ニ至誠ヲ以テ、我カ國ノ實業界ニ、將、又、廣ク公益ノ事業ニ對シテ、御盡シニナリマシタ、翁ノ御事績ハ既ニ世間ニ周知セラレ、加之、記傳ノ上ニモ詳テ、就中、茶業ニ關シマシテノ梗概ハ眼ノアタリ金石ニ鏤メラレマシタ通りテ、何人モ御功業ノ一斑ハ、之レヲ窺ヒ得ラレヌテハアリマセヌ、然シナカラ、深ク其ノ奥ニ藏メラレマシタ翁ノ誠心ニ至リマシテハ、文字文章ノ能ク記述シ得ル處テハアリマセヌ、唯、親シク其ノ人ニ近ツキ、玉ノ如キ溫容ニ接シ、謙讓ナル態度ニ觸レ、慇懃ナル言辭

ヲ聽キ、知ラス識ラサル間ニ、其ノ德ニ薰シマスノテ、ソレカ管ニ修辭ノ巧ナルカ爲テモナク、又其ノ理論ノ純ナルニ依ル譯テモアリマセヌ、古人ノ所謂形ニ依リテ立タス、力ニヨリテ行ハス、人ヲ動シテ自然ニ此處ニ到ラシメルノテアルト存シマス。最近、此ノ公園ヲ改善ノ爲、巨額ノ費用ヲ御カケニナリマシテ、澤山ノ土地ト其ノ上、幾多ノ施設トヲ加ヘテ、悉ク之レヲ静岡市ニ御寄贈ニナリマシタ御意志モ、古人ニ對スル禮ヲ重シ、丘ノ上ニ碑石ヲ建テテ遠キヲ追ヒ、古ヲ旌サレマシタ御心モ、又ハ此ノ像ヲ爰ニ下シテ、其ノ位置ヲ更メ、二重、三重ノ費ヲモ顧ミラレマセヌ御精神モ、共ニ偶々表レマシタ、翁ノ至誠ノ一端ニ過キヌト存シマス。今ヤ、大家ノ御苦心ニ成リマシタ、宛モ眞ニ逼ル、此ノ壽像ノ御竣工ニ依リマシテ、幾多ノ市民カ、常ニ親シク翁ノ風采ニ接觸スルコトヲ得マスノミテナク、荷杖ヲ此ノ地ニ曳キマスモノノ、長ニ、其ノ德ヲ仰キ得マスモノハ、此ノ上ナキ仕合テアルト存シマス。此ノ仕合ニ對シマシテ、徒ニ謳歌シ、讚美スルコトヲ事トセス、更ニ進ンテ我カ國ノ將來ニ第二、第三ノ大谷翁ノ輩出致シマスヤウ、黽メテ且勉メマスノハ、トリモ直サス、翁ニ對スル禮テアリ又實ニ義務テアラウト存シマス。茲ニ本日ノ御盛典ヲ御祝ヒ申上ケ、同時ニ大谷翁ノ萬歲ヲ壽キマシテ、之レヲ祝辭ト致シマス。

大正六年十一月十五日

静岡市長正六位勳五等 小 森 慶 助

次ニ、本所理事相澤喜兵衛氏(本所副會頭代)ノ祝辭朗讀ニ移リ、

祝 辭

正五位勳三等大谷嘉兵衛君ノ像壽除幕ノ式典ヲ舉ケラル、誠ニ慶賀ニ耐ヘス。君恒ニ一身ノ利營ヲ忘レ、潛念我カ茶業界ニ盡シテ殆寧日ナシ。實ニ斯業ノ重鎮、斯界ノ恩人ナリ。曩ニ衆望ノ歸スル所、中央會議ノ決議ヲ以テ本所役員ニ君ノ功績最高表彰ノ事ヲ一任セラレタリシカ別ニ大谷嘉兵衛君銅像建設期成同盟會組織セラレテ遂ニ君カ壽像建設ノ舉トナリ、一ハ以テ我茶業界ノ君ニ對スル感謝ノ意ヲ表シ、一ハ以テ斯界元老ノ功績ヲ無窮ニ傳ヘンコトヲ期セリ。今ヤ君ノ壽像成ルヲ告ケ、歡喜シテ此ノ盛典ニ列シ以テ君ノ壽ヲ祝福セントス。以往、君ノ溫容ハ、永ク清水山麓ノ堅キ鎮トシテ我カ茶業界ノ護タラム。茲ニ全國茶業者ヲ代表シ、君ノ功德ヲ頌シテ祝辭トナス。

大正六年十一月十五日

茶業組合中央會議所副會頭 尾崎 伊兵衛

次イテ、中央會議所副議長大原重右衛門氏祝辭ヲ朗讀シ、

祝辭

正ニ是レ、一年ノ好景橙黃橘綠ノ時、本日ノ吉辰ニ當リ、正五位勳三等大谷嘉兵衛君ノ壽像除幕ノ式典ヲ舉ケラル。誠ニ慶賀ノ至リニ堪ヘス。我カ茶業界ノ元勳大谷君、平常人ニ語ツテ言フ、茶業ニ終始スルハ竟ニ余カ本懐ナリト、以テ君ノ志ノ在ル所ヲ知ルヘキナリ。然レトモ、具ニ君カ邦家ニ盡シシ功績ヲ考フル時ハ、獨、我カ茶業界ニノミ私スルヲ許サス、君ハ、即、我カ實業界ノ巨人ナリ。君ノ齡、漸ク高キヲ加フルニ從ヒ、益々君ノ德望、君ノ名聲、又高キヲ加フ。實ニ我カ實業界ノ師表ナリ。

大正二年茶業組合創立三十年記念大會ノ交、君カ功績表彰ノ事發議セラレテヨリ、相次イテ二度中央會ノ決議ヲ以テ名譽アル最高ノ表彰ヲナス事トナリシニ、別ニ大谷嘉兵衛君銅像建設期成同盟會組織セラレテ以來、専ラ壽像建設ノ事ニ當リ今ヤ之カ竣工ヲ見タリ。

近時、一代ノ勳業表彰ノ業トシテ、所在、鑄壽建設ノ事ヲ見ルモ、生前、而モ康健ヲ壯者ト競フ身ニシテ親シク壽像建設ノ舉ニ會フ如キハ甚稀有ノ事例ニシテ又以テ衆望能ク君ノ身邊ニ鍾リシ所以ヲ知ルヘシ。今ヨリ後、清水山麓巖然トシテ屹立スル溫乎玉ノ如キ君ノ像ヲ仰キ見ルモノ誰カ君ノ高風ヲ慕ヒ、其ノ功績ヲ稱ヘサルヘキ。

茲ニ茶業組合中央會議ヲ代表シ、君ノ壽ヲ祝シ、君ノ功德ヲ頌シテ祝辭トナス。

大正六年十一月十五日

茶業組合中央會議副議長 大原 重右衛門

終リニ、大谷會頭ハ、急般ノ如キ拍手ニ迎ヘラレツ、起チテ謝辭ヲ述ヘラル。

先、自分ノ爲ニ今日カ迄ニ盛大ナル式典ヲ舉ケラレタルヲ謝シタル後、

我カ茶業界カ今日ノ進歩ヲ來シタルヲ以テ一ニ自分ノ功績トセララル事ハ衷心慚愧ニ堪ヘス。凡、事ノ成ル、皆一致協力ニ基クモノナリ、茶業ノ盛大ヲ致セルモ亦全國茶業者ノ一致努力ノ結果ニ外ナラス。然ルニ、自、勞少クシテ功ヲ奪ヒ、カクノ如キ功績表彰ノ光榮ヲ一身ニ負フニ至リシモノ一ニ、諸君ノ賜ト、申スモロコカマシケレト父母ノ餘澤トニアリトテ
其ノ昔、生國伊勢ニアリシ日、父君カ我子ノ景福ヲ祈リテ鎮守ニ日參シタリシ當時ヲ語ラレシ時

ハ追憶ノ至情逼リテ聲涙、爲メニ下リ、滿場肅然タリ。

言々句々、天真ノ流露ニ出テシ、謙虛ナル辭ヲ陳ネテ厚ク感謝ノ意ヲ叙シテ拍手裡ニ退キ、尾崎委員
長ノ發聲ニテ、千餘ノ會衆之ニ和シ、大谷翁萬歳ヲ三唱シテ芽出度式ヲ終レリ。

尙、當日、祝辭、祝歌、祝電等ヲ寄セラレタル諸氏ハ

祝辭、伊藤仙太郎氏、殿岡嗽石氏、狩野閨八郎氏、築地光太郎氏

祝歌、立花兵吉氏、

祝句、稻森鳥水氏、掛川無名氏

祝電、發明協會長男爵阪谷芳朗氏、内閣書記官長伯爵兒玉秀雄氏、神奈川縣知事有吉忠一氏、日本勸
業銀行總裁志村源太郎氏、横濱市長安藤謙介氏、東京間室親遠氏、同松浦五兵衛氏留守宅、横濱獎兵
義會副會長増田増藏氏、横濱市教育會副會長増田増藏氏、横濱増田増藏氏、横濱佛教講話會代表加賀
美貞悅氏、横濱海産組合、横濱大濱忠三郎氏、同左右田一家、静岡縣織田利三郎氏、三重縣第一中學
校長山本安之助氏、愛媛縣安藤源七郎氏、長崎溝田丈吉氏、在米シアトル西巖、加藤祐義兩氏ナリ。

○大正六年度綠茶技術員養成所事業成績報告

大正六年度茶業組合中央會議定時會ニ於テ決議シタル綠茶技術員養成所ハ其規定ヲ定メ三月初旬ヨリ各地ノ聯合會議所ニ照會シテ練
習生ノ募集ヲナシ而シテ入場ノ許可ヲ得タルモノ二十九名ノ多數ニ達セリ

綠茶技術員養成所規定

- 第一條 綠茶技術員養成所ハ静岡市安西外新田ニ置ク
- 第二條 綠茶技術員養成期間ハ大正六年四月十八日ヨリ五月十七日迄トス
- 第三條 養成人員ハ二十名以内トシ左ノ割合ニ依リ募集ス
静岡縣六名、三重縣二名、京都府二名他ノ府縣一名宛トス若シ應募セサル地方アルトキハ適宜募集スルコトアルヘシ
- 第四條 練習生ハ品行方正ニシテ茶製造ノ經驗ニ富ミ將來製茶教師トナリ得ヘキモノニ限ル
- 第五條 練習生ニハ旅費ノ補助並ニ期間中食費トシテ若干ノ補助ヲナスコトアルヘシ
- 第六條 綠茶技術員養成所ニハ主任一名、教師一名、庶務兼會計係一名ヲ置ク
- 第七條 綠茶教授時間ハ毎日午前五時ヨリ午後五時迄トシ休憩時間ハ別ニ之ヲ定ム
- 第八條 四月十九日ヨリ同月廿四日マテ同月廿五日ヨリ五月十六日マテ學科ノ講習及茶樹栽培法再製法等實習ヲナシ綠茶ノ手採製法
並ニ機械應用法ヲ教習セシムルモノトス
- 第九條 綠茶ノ手採製法併ニ機械應用法ハ日々教師ノ指導ニ從ヒ練習生各自之ヲ自習シ時々競技採ヲナシメ學科及栽培再製法ハ適
當ノ技術ヲシテ之ヲ口授シ且ツ茶園及再製場ヲ實見セシム
但シ教授ノ方法ハ教授内規ヲ以テ別ニ之ヲ定ム
- 第十條 養成期間中中央會議所會頭隨時隨地精神修養上必要ノ訓戒ヲ爲シ其他有力ナル實驗家ノ講演ヲ乞フコトアルヘシ
- 第十一條 綠茶手採製法ハ採切ヲ主トシ最も進歩セル製造法ヲ採用スルモノトス
- 第十二條 練習生ハ監督者ノ指揮命令ニ背クコトヲ得ス
- 第十三條 製茶機械中最モ優良ト認ムルモノヲ使用シテ之レカ研究試驗ヲナス
- 第十四條 練習生ニシテ技術素行共ニ優等ナルモノニハ修業證ヲ授與ス
- 第十五條 練習生ハ前條規定ノ外本所製茶試驗場規定ヲ遵守スヘシ

大正六年四月

四月十八日ヨリ同月廿四日迄ハ主シテ學科ノ講習ヲナシ廿六日ヨリ五月十四日ニ至ル十九日間製造ノ實習ヲナシ十五、十六ノ兩日ハ再製工場、生産家、及茶園ノ實況視察並ニ中吉田試驗茶園ニ於ケル栽培上ノ實習ヲナシ十七日正副會頭其他關係諸員臨場ノ上修了證授與式ヲ舉行シ大谷會頭ヨリ左記廿九名ヘ修了證書ヲ授與セラレタリ

茶業組合中央會議所

一一八

茶業講習及製造實習修了證受領者廿二名

- 石川縣能美郡粟津村字府津
- 同 同 苗代村字須天
- 福岡縣八女郡大淵村字大淵
- 埼玉縣入間郡堀兼村字堀兼
- 宮崎縣兒湯郡東米長村字尾八重
- 同 北諸縣郡都城町前田區
- 同 東諸縣郡本庄村字本庄
- 靜岡縣庵原郡高部村字大内
- 同 志太郡濱濱村字宗高
- 同 富士郡傳法村字傳法
- 茨城縣猿島郡長田村字長井戸
- 和歌山縣那賀郡東野町字小畑
- 同 日高郡下山路村字小家
- 和歌山縣日高郡眞妻村字川又

- 大 籾 仁 三 耶
- 島 田 伊 三 耶
- 月 足 芳 太 耶
- 平 沼 謙 三 耶
- 中 武 常 藏
- 長 倉 國 良
- 宮 永 善 之
- 見 城 忠 平
- 横 山 貴 綠
- 水 上 輝 三
- 加 藤 熊 吉
- 西 田 益 一
- 岡 本 周 三 耶
- 酒 井 岩 松

三重縣員辨郡山郷村字中津原

- 同 一志郡太郎生村
- 京都府天田郡菟原村字高杉
- 同 相樂郡笠置村字切山
- 同 綴喜郡三山水村字三山水
- 岡山縣英田郡河會村字北
- 熊本縣玉名郡小天村字赤仁田
- 高知縣土佐郡鏡村字今井
- 製造實習修了證受領者七名
- 高知縣安藝郡中山村安中ノ川
- 同 同 東川村字大井
- 同 長岡郡本山村字北山
- 同 香美郡上垂生村字神北
- 和歌山縣西牟婁郡栗栖川村字西谷
- 同 同 同
- 同 同 同

- 伊 藤 作 二 耶
- 岡 田 嘉 藏
- 西 山 作 治
- 井 上 政 雄
- 村 上 多 一
- 藤 本 嵩 嵩
- 野 田 良 矩
- 秋 月 廣 衛
- 伊 吹 福 次 耶
- 中 屋 勢 榮
- 小 笠 原 三 次
- 岡 初 次
- 應 押 彌 平
- 西 村 政 一
- 立 石 慶 藏

一一九

修業證

府縣氏名

茶業講習及綠茶製造法ノ修業ヲ證ス

大正六年五月十七日

茶業組合中央會議所會頭正五位勳三等 大谷嘉兵衛

修業證

府縣氏名

綠茶製造法ノ修業ヲ證ス

大正六年五月十七日

茶業組合中央會議所會頭正五位勳三等 大谷嘉兵衛

○綠茶手採法研究報告

本年二月開會セル第三十八回中央會議定時會ニ於テ綠茶手採製ノ研究會ヲ開設スルコトニ決シ四月規定ヲ定メ静岡縣二名三重二名京都府二名滋賀縣二名埼玉縣二名奈良縣一名茨城縣一名計十二名ノ優秀ナル技術員推選方ヲ當該府縣茶業組合聯合會議所ヘ五月八日照會セリ越ヘテ六月ニ入り豫定ノ人員中茨城縣一名ハ都合ニ依リ缺員ニテ臨時静岡縣一名滋賀縣一名三重縣一名雷外トシテ加ハリ六月二十一日ヨリ同廿五日マテ製造ニ從事セリ

綠茶手採製法研究規定

- 第一條 本會ハ綠茶ノ香味、水色、色澤ヲ秀絶ナラシムル爲メ蒸シ方、葉打法、廻轉採、採切、仕上ケ採ノ手續及形狀ヲ佳真ニシテ而モ香味、水色、色澤ノ劣ル處ナキ製法ヲ研究調査シテ綠茶ノ製造改良上ニ資スルヲ目的トス
- 第二條 本會ハ大正六年六月二十一日ヨリ同月二十五日ニ至ル五日間静岡市安西外新田ニ於テ施行ス
- 第三條 本會ニ主任一名、審査委員若干名、會計係一名ヲ囑託ス
- 第四條 主任ハ審査及一般事務ヲ整理スルモノトス
- 第五條 審査委員ハ實地製造ノ手續ヲ審査シテ香味、水色、色澤、形狀ノ製造方法ニ依リ變化發現スル事項ヲ詳細會頭ニ報告スヘシ
- 第六條 本研究ヲナス爲メ静岡、京都、三重、滋賀、奈良、埼玉、茨城其他ノ府縣ヨリ十四名以内ノ優秀ナル技術員ヲ募集シテ一人一日蒸葉量三貫目又ハ四貫目ノ製造ヲナサシム
- 第七條 研究事務施行ノタメ補助員三名ヲ雇用ス
- 第八條 補助員ハ掛員ノ指揮ヲ受ケ生葉及蒸葉ノ供給、蒸シ方、製品ノ處理ヲナス
- 第九條 蒸葉ハ完全ニ混淆シテ一貫目宛技術員ニ分配スルモノトス
- 第十條 焙爐用木炭ハ一人一日二貫目以内トス

第十一條 製茶ハ記號ヲ付シ練火ヲ入レ見本二十多宛ヲ紙包トナシ殘品ハ各自ノ大袋ニ入レ櫃圖ニナスヘシ

第十二條 製品ハ匿名ヲ以テ審査スルモノトス

第十三條 審査及研究ニ差圖ヲ生セサル範圍ニ於テ一般ノ觀覽ヲ許スコトアルヘシ

大正六年四月

茶業組合中央會議所

各縣選拔技術員ハ左ノ十一名ニシテ辭令ヲ發セリ

- 入江丑之助
- 松井高次郎
- 上野留吉
- 野村音松
- 龜田多吉
- 植西繁藏
- 堀元周藏
- 磯和作市
- 寺島幸作
- 田中平吉
- 三重縣阿山郡玉瀧村
- 同 志摩郡越智村
- 靜岡縣志太郡高洲村兵大夫
- 同 藤原郡相良町大澤
- 審査委員ハ繁田武平殿岡噉石杉山彦三郎岡本耕一加藤彌太郎大林雄也ノ諸氏會計事務ハ馬場寅藏氏之ニ當リ上杉本所技術員志太郎茶業組合技術員芳村多喜次藤原郡茶業組合技術員本杉十平及教師小長谷松五郎代理杉本和作ノ諸氏外數名ノ卒業生ハ諸般ノ助勢ヲナシ炎暑ノ交幸ニ無事本研究ノ目的ヲ完成セシコトハ誠ニ感謝ノ至リナリ而シテ審査ノ結果昨年決定セシ所ニ對シ多少改定ヲ加ヘ統一ノ傾向ヲ生セリ

製造手續標準 本法ハ蒸葉一貫目ヲ標準トナス

一、蒸シ方 蒸シ上ケノ度合ハ青臭ノ去ル途端則チ箸心ノ滑リ初ムル時ヲ以テ上トナス（一貫目ノ生葉蒸シ上ケ四分乃至五分トス）

二、葉振 約二十五分葉振ヒハ露切ト葉打トヨリ成リ初ノ五六分間ハ蒸露ヲ去ル爲メニ露切ヲ行フ凡ソ二百五十多ノ蒸葉ヲ兩手ニ取り高サ三尺位上ケ能ク振ヒ捌ク次ニ葉打ニ移リ同シ高サノ處ヘ上ケタルモノヲ手早ニ最モ早ク振ヒ落シ漸次一手ノ量ヲ増シ常ニ助炭中央ニ堆ク休マサル心懸必要ナリ而シテ漸ク鞣柔トナリ若シ試ニ其少量ヲ採リテ之ヲ揉ムトキハ汁液ノ出ツル事甚シカラサレハ以テ終リトナスニ適ス

△備考 助炭面ノ火度ハ中央部ニ於テ縱ニ五寸位掌ヲ當テ、擦スルコトヲ得ルヲ適度トシ紙底ノ焦ケルカ如キハ高キニ過クルモノトス總シテ低キ火度ノ助炭ニテ製造シタル茶ハ香氣從テ低キモノナリ而シテ水分多キ間ノ葉振ヒハ前記適度ノ火度ヲ少シク低ク用フルノ心得必要ナリ廻轉揉ノ際ニモ亦水分多キ初メノ頃ハ高キ火度ノ助炭ヲ低ク使用スルノ手續ト並ニ極メテ疾速ナル手使ヒトヲ要ス

三、廻轉揉 約四十分（形狀ヲ造ルニハ約五十分）廻轉揉ハ葉團大キク手廻ハリ遅ケレハ其内部ニ熱ヲ高メテ蒸レ易ク色澤碧綠ナル良好ノ目標ヲ惡變スヘシ故ニ廻轉揉ハ成ルヘク小玉トナシ手早ニ轉廻シテ茶葉同志ニ磨擦スル様ニナシ常ニ助炭一面ノ葉カ動キ濡色ヲ呈スルヲ力ノ掛ケ度トス之ヲナサンカ爲メニハ交互禪掛ケニ長ク轉旋スル様ニ手ヲ使ヒ中央ノ紙面ニ不絶隱現スル様茶葉ノ散轉ニ心

懸クヘシ又茶葉ハ助炭面ノ熱キ部分ヲ通過スルモ停滯スルコトナク常ニ熱マリテハ冷メル様疾速ナル
 手使ヲナシ茶ノ本色ヲ出サシムルヲ上トナス揉磨ノ際忽チニシテ水分ノ出テ過クルハ葉振ノ不足ニ由
 ル然レハ廻轉揉ノ初ヨリ一體ニ稍々力ヲ懸ケ得ヘキ様葉振ニ過不足ナキコト肝要ナリ或ハ葉振ノ初ハ
 故ラニ火度ヲ低クメルコトアレトモ是亦香氣發展ノタメニハ面白カラス故ニ廻轉揉ニ於テハ熱キ火度
 ノ中央部ハ成ルヘク通過スルノミニテ茲ニ堆息スルコトヲ忌ム左右適度ノ部分ニ於テ葉ノ休ムモノハ
 寧ロ中央部ニ堆息スルモノニ比シ優レリト謂フヘシ又廻轉揉ハ途長ニ廻轉シテ磨擦揉ヲナスヘク其長
 サハ凡ソ三尺許其速度ハ一分間百四十回以上ニモ上ルコトアリ且手廻リヲ能クシ乾燥ニ不齊ナキ様注
 意スルコト必要ナリ更ニ形狀佳良ナル茶ヲ製造セント欲セハ五分乃至十分間ハ練リ廻轉ヲナス、此方
 法ハ玉解ノ前ニ當リ葉ヲ二手ニ分ケ一手ハ爐ノ左右ニ散ラシ他ノ一手ニテ練リ心水ヲ浮カシ濡レ色ヲ
 呈セシメテ玉解キヲ容易ナラシム

四、玉解 約五分玉解ハ練揉ヲ終リタル時直ニ行フ方法ニテ一時ニ力ヲ弛メサル様頻繁ニ橫揉ヲ
 行ヒタル後手早ヤニ揉切ノ手使ヲ行ヒ浮ヒタル水分ヲ心ニ引込マサル様充分揉切ルヲ上トナス

以上ノ下揉ハ合計一時間二十分内外ヲ程度トス

五、中上ケ 約十分助炭ノ掃除ハ先ツ水霧ヲ吹キ置キ一方中上ケ茶ノ放冷始末ヲナシタル後ニ之
 ヲナスヘシ

六、中揉(中火後揉切) 約三十分投入シタル茶葉全部ヲ爐ノ前ニ向ヒ指先ヲ用ヒ三手ニテ重ネ拾

ヒヲナシ手早ヤニ玉解揉切ヲナス此ノ力ノ掛ケ度合ハ小玉ノ出來サル程度ニシテ愈々力ノ入ル頃ニ至
 リ燃リ落ス此間五分乃至十分間順次乾クニ從ヒ葉揃ヲ多ク行ヒ(六手拾ヒ位マテ)最モ力ヲ加ヘテ揉
 切ヲナス此處空氣、力、火度ノ兼合最モ緊要ナリ揉切ノ押手手使ヒハ重ニ掌ノ兩端ヲ用ヒ其ノ中部ハ緩
 ク使フ引手手使ヒハ受ケ手モ引手モ共ニ食指及重ニ小指ノ先ヲ締メ力ヲ入レテ泳キ形ヲ斟酌シ以テ磨
 擦シツ、心ヨリ左右ニ揉ミ出サシム此間漸次乾クニ從ヒ肘付ケ揉ヲ増ス

△備考 此ノ三十分間ハ常ニ濡色ヲ保存シ少クモ潤碧ノ澤ヲ帶ハシムルヲ佳トス

七、仕上ケ揉 是レヨリ敷狭ク山高ク手早ク大廻シニ深ク斜揉スル處ノ立手葉揃揉ヲナシツ、形
 狀ヲ附シ十五分間以内ニシテ之ヲ止メ「コクリ」又ハ板「コクリ」ヲ七八分間行ヒ二手又ハ三手分ケ
 揉切ニテ乾燥ニ移ス而シテ香味色澤揉ミノ場合ニ在リテハ葉揃揉ハ四五分間ニ止メ板「コクリ」ヲ行
 ヒ仕上ケ揉ヲ了ル形狀揉ノモノハ前記ノ如ク少シク長ク立手葉揃揉ヲナス乾シ度ハ凡テ濡レ肌ニテス
 ヘシ

○大正五年試驗茶園業務概要(大正六年一月杉山監督報告)

大正四年九月中鯨ノ精液酸アンモニアヲ基肥トシテ施用シタルタメ本年茶樹ノ概勢ハ大ニ回復シ越年以來氣候概シテ順當ニシテ三
 月上旬春肥トシテ大豆粕七百七十貫燐酸加里ノ補給トシテ木灰ヲ施用シタル効果大ニシテ三月下旬ニ至リ春芽ノ萌芽ヲ見同月二十四
 日ニハ早生ノ一部ハ摘採ヲ初メタルモノ連續摘採ヲナスヲ得ス一時中止シ五月八日ヨリ同月廿一日迄一番茶ノ摘採ヲナシタリ
 本期間中ハ氣候溫暖ノ爲メ赤壁虱ノ發生ヲ見タルヲ以テ除虫菊加用石鹼液或ハ松脂曹達合劑ヲ以テ三四兩月ニ涉リ時々驅除ヲ行ヒタ
 リト雖モ多少ノ被害アリシヲ以テ收葉量一千三百七十五貫弱ニシテ豫想收葉ナカリシモ前年度ヨリハ一層増收トナリ摘採人數三百八

十一人一人一日當り參貫六百多強ヲ摘採シタルニ見ルトキハ本茶園ノ樹勢ヨリ見テ適當ノ工程ト謂ハサル可ラス
一番茶收葉后直ニ踏ミ固メタル土壤ヲ和ラケンカ爲メ中耕ヲ行ヒ又時々除草ヲナシ六月廿四日ニ至リ二番茶摘採ノ好期ニ入りシテ以テ向日ヨリ七月八日マテ十五日間摘採シ收葉六百八十六貫ヲ得タリ之レニ要セシ人夫貳百拾貳人一人一日當り參貫貳百多強ニシテ一番茶ニ比較スルトキハ其工程亦相當ト見テ可ナリ二番茶收葉后直ニ中耕除草ヲ行ヒタリ

本期間ニ於テハ浮塵子赤壁蠶葉捲虫ノ發生多ク就中葉捲虫ノ驅除ニハ最モ困難ヲ感シ石灰硫黃合劑松脂曹達液除虫菊石鹼液或ハ「バリスクリース」其他一二藥液ヲ施用セシモ效果無ク苦辛ノ末本縣農事試驗場岡田技師ニ相談ノ結果除虫菊加用石鹼液ノ散布法改正ニヨリ其全滅ヲナスコトヲ得タリ此方法ハ一度茶樹ノ上ヲ掃ヒ中ヨリ虫ヲ地上ニ落シ其上ニ該液ヲ散布ス然ルトキハ地上ニ落タル虫ノ一部分ハ蟻ノメ食害セラレ他ノ虫ノ再ヒ樹ニ匂ヒ上ルモ一面ニ藥液附着シ居ルニ依リ直ニ蝕ム事能ハス餓死スルニ至ル夏肥ハ二番茶摘採后直ニ施用ノ豫定ノ處天候ノ爲メ延引シ八月中旬ニ至リ大豆粕七百貫木灰二十五俵(凡ソ二百貫)ヲ加用シタリ二番茶ノ摘採ハ七月十日ヨリ十二日ニ渡リ二百二十七貫ヲ收メタリ夏肥延引ノ結果秋肥モ自然ニ延引シ九月下旬ヨリ十月上旬ニ渡リ深耕シ後十一月月上旬ニ至リ鍊ノ粕三百貫木灰百五十貫米糠凡ソ七十貫ヲ混合施用シタリ最モ其間人糞尿百九十荷ヲ時々稀薄シテ施用シタリ尙本年度ニ於テ昨年旱魃ノ結果枯死セシ小生茶園ニ移植ヲナシ或ハ斜面ノ改良耕土ノ改良等一大整理ヲナシタリ尙加里肥料試驗區ハ前年度ヨリ繼續試驗ヲ行ヘトモ未ダ幼樹トテ摘採ニ至ラザレハ其試驗成績不明ナリ

○大正六年度試驗園業務工程報告(大正六年十二月十五日)

(試驗園杉山監督報告)

一、茶園概況

本園設置當時ハ枯損樹點々トシテ全面ニ涉リ衰態甚ダシク加フルニ地盤ノ形容雜然トシテ外觀極メテ不整ナリシモ年ヲ逐フテ漸次其ノ面目ヲ一新シ殊ニ樹勢ノ回復著シク新植簇立シ業形大ニ色澤濃綠色ヲ呈シ附近茶園ニ比シ幹然區劃ヲ立ツルニ至レリ

本年ノ氣候ハ概本適順ト云フヲ得ヘク只昨年末ヨリ初春ニ涉ル嚴寒乾燥ハ播種園ニ多少ノ被害ヲ見タルノミナラス發芽ヲシテ約一週間遲延セシメタリト雖爾後順當ニ經過セルヲ以テ收穫、全作業等ニ影響無ク茶樹ノ發育又佳良ナリ

二、茶園反別

實測ニヨレハ本園ノ全面積ハ貳町八反七畝拾壹步ニシテ内宅地畝貳拾九步記念碑敷地四畝貳拾九步道路敷地九畝拾四步純耕地反別ハ貳町七反參畝拾四步ナリ而シテ此ノ在來茶園ハ參町七畝八步内シテ播種園ハ六反六畝六步ナリトス

三、採收面積

施肥及收穫ハ茶園ノ採收面積ニ比例スヘキモノニシテ單ニ耕地反別ヲ以テ云々スルハ徹底セル事ニ非ス故ニ本園ハ本年春期ニ於テ採收面積ヲ調査セシニ坪數參千貳百拾八坪(壹町七畝八步)即チ總耕地反別ニ比シ猶壹町六反六畝七步ノ空積ヲ有スルモノトス播種園ノ成木ト俣ツテ近キ將來ニ於テ少クトモ九千坪内外ノ採收面積マテ茶樹ノ發育時期セサルヘカラス

四、播種園

播種園ハ大正二年ノ播種ニシテ種子ハ京都府下、宇治、埼玉、三重、岐阜ノ三縣愛知縣三河、本縣安倍郡井川村及本園附近産ノ七種トス、翌大正三年發芽シタルモ同年ニ至リ非常ナル夏期ノ旱魃ニ遭シテ枯死セルモノ少ナカラス就中、第四紀火山灰土ニシテ其以前松杉檜等ノ苗育地タリシ部分殊ニ甚ダシク、第四紀赤色土及雜草ノ蔓延ニ放置セシ部分ハ枯死少ク適當ノ發育ヲ遂ケツ、アリ今各種ノ成育ニ就キ比較スルニ一見シテ宇治産最モ優良ニシテ其ノ他ハ殆ト同一ノ程度ニ於テ甚ダシク劣レルヲ知リ得ヘシ宇治種中發育最モ良好ナルモノハ發芽後四年ノ今日ニ至リ樹幹三尺乃至四尺ニ達セルモノアリ不長ノモノト雖猶一尺五寸以上ニシテ樹勢頗ル旺盛、惡質ト認ムヘキモノ少ナキカ如キモ其他ノ各種ハ良好ト雖二尺ニ達スルモノ少ナク葉形小ニ樹勢貧弱ノ感ニ於テ概本一致セリ

五、耕 耘

耕耘ハ概本縣農事試驗場茶業部ノ方法ニ則リ元出シ元寄セ除草等ヲ行ヒツ、アルモ只在來園ハ株間狹隘、加フルニ多株密生ノ爲メ元出シノ完全ニ行フ能ハサルヲ遺憾トス故ニ漸次之レヲノ整理ヲ行ヒツ、アリ其他耕作ニ當リ一般栽培家ノ通弊タル根際マテ鋤耨チ及ホスノ愚ヲ嚴止シ勉メテ根ノ保護ニ微細ノ注意ヲ拂ヒツ、アリ

六、剪 枝

剪枝時期ハ一番、二番、三番茶後等其ノ何レニ施行スルヲ以テ適當トスルカハ園ニ應シ各々其ノ得失ヲ鑑ミ決定スヘキモノニシテ本園ノ如キ採收面積ノ廣大ナ計ルヘキ時代ニアリテハ一番茶後ヲ以テ好時機ト認ム其ノ形狀モ亦角、屋根、丸形刈等各々得失ヲ存スヘシト雖、本園ニ於テハ丸形ヲ以テ適當トシ施行セリ

七、施 肥

施肥量ハ全ク採收面積ニ比例シ土壤ニ應シテ三要素ノ適度ヲ本旨トスト雖未タ衰頹ノ挽回中ニ屬スルヲ以テ何等具體的ニ試驗セシコトナシ但シ加里ノミハ大秋技師ノ實驗ニ徴シ毎回多量ニ施スヲ慮ラス此ノ他本園ノ土壤ハ乾燥殊ニ甚タシキヲ以テ常ニ敷草又ハ綠肥等ヲ以テ其ノ害ヲ除キツ、アリ

八、病虫害驅除

本園ニ於テ前年來最モ多カリシ害虫ハ赤壁蝨、浮塵子、茶蝨蟻、蝼蛄、尺蠖虫及昨年二番茶時期ニ於テ殊ニ慘害ヲ極メタル三角葉捲虫等ナリシモ、石灰硫黄合劑、除虫菊加用石鹼石油合劑其他ヲ散布シ極力驅除、豫防ニ留意セル結果、赤壁蝨三角葉捲虫、浮塵子ハ大ニ減少シ蝼蛄、茶蝨蟻、等ハ殆ント其ノ痕跡スラ認メサルニ至レルハ偏ニ驅除劑ノ有効ニ依ルコト論ナキモ而カモ氣候、及霜落葉チ「カフエン」原料トシテ他ニ搬出セル事等モ又觀過スヘキコトニ非ラサルヘシ、此ノ他間々根部ニ於テ木蠹虫ノ被害ヲ見ルコトアリ

九、收 穫

之レカ驅除ニ就テハ當路ノ技師ニヨリ考究中ニ屬スト雖未タ良法ヲ得ス
病害ハ先ニ赤葉枯病、白紋羽病等ノ發生ヲ見タルモ三斗式ホルド液又ハ石灰、硫黄等ノ散布ニヨリ昨今其ノ害ヲ認メサルニ至レリ
大正二年及三年度ニ於テ畦間狹隘ニ過クルノ故ヲ以テ一畦置キニ之ヲ除去シ採收面積ヲ殆ント半減セル結果、反當リ收穫ハ極メテ少ナク僅カニ一番茶ニ於テ約一千五百貫、二番茶八百貫其後ノ芽摘等ニ於テ約二百五十貫合計貳千五百貫餘ニ過キスト雖而カモ輪開園當時ノ七百貫ニ比スレバ約四倍ニ近シト云フヘシ

十、摘採方法

本年度ニ於ケル摘採人員ハ七百七十二人ニシテ極力摘採ニ注意セリ綠茶製造用トシテハ四月二十五日ヨリ紅茶製造用トシテハ五月八日ヨリ極メテ嫩芽ヲ摘採セリ
摘採使用ノ巧拙ハ製茶經濟ニ至大ノ關係ヲ有スルモノナルヲ以テ全期ヲ通シテ日摘、入り摘、通ヒ摘ノ三種ニ分ク其ノ得失ヲ試驗セリ、日摘ニアリテハ工程極メテ高シト雖摘採ニ於テ粗雜ニ失シ入り摘、通ヒ摘ハ摘採佳良ナルモ工程低シ、日摘、通ヒ摘ハ共ニ降雨等ニ際シ任意ニ休業スルモノチ生シ作業ヲ遲延シ芽ヲ硬化スルノ憂アルヲ以テ之ニ對シテハ入り摘ヲ是ナリトスルモ經費、手數等ニ於テ前者ニ劣レリ斯ク長短互ニ相伴フモノナルヲ以テ猶一層慎重ニ攻究スルノ要アリト云フヘシ

十一、品種撰別

茶樹栽培上、印度、錫蘭、臺灣等ニ於テハ既ニ種類ヲ撰別シ之レニ號名ヲ附シテ其種ノ繁殖ヲ勵行セルニ拘ラス獨リ本邦ニ於テ未ダ何等考究セラレタルヲ聞カサルハ新業界ニ於ケル一大缺陷ト云ハサル可カラス近來ヤ、一部ノ口端ニ上ホルニ至リシハ慶スヘキコトト雖然カモ此ノ事タルヤ一朝一夕ノ茶飯事ニアラスシテ長キ年月ト堅忍不拔ノ一大努力ニ俟タサルヘカラス本園ニ於テハ夙ニ茲ニ留

意シ大正四年大谷會頭ノ命ニヨリ栽培研究ノ目的ヲ以テ、當時紅茶研究生タリシ横倉榮太郎、土肥茂兩名ノ來園ヲ機トシ附近茶園ニ於テ十數年來予カ實驗唱道セル其種及早、中、晚撰種ノ法ニ則リ衰頹茶園ノ挽回策ヲ兼テ之レカ遂行ノ楷梯トシテ樹實ノ識別ニ便ナラシムル爲メ先ツ本園中最モ衰頹ノ顯著ナル一部ヲ撰定シ單植法ヲ施行セリ此ノ他、或ハ播種園中枯死セル部分ニ移植ヲ行ヒ或ハ園中特殊ト認ムルモノヲ標識シ或ハ各地有志者ヨリ購入又ハ寄贈ヲ受ケテ移植スル等可及的手段ヲ講スト雖未タ總計僅カニ五千本ニ過ヤス移植セルモノ、大部ハ日向水淺クシテ樹勢回復ニ至ラサルヲ以テ充分樹實ヲ確ムル能ハスト雖然カモ各樹毎ニ發芽期、色澤、葉形ヲ異ニシ各々獨特ノ素質ヲ發揮シツ、アルヲ以テ何レノ日力之レカ成績ヲ發表スルノ機アルヲ信ス

十二、衰頹園挽回法

在來園ハ概テ播種ノ多キニ失シ一株中拾乃至貳拾本叢生セル結果樹根ノ發育ニ從ヒ根ト根ト互ニ纏々接着シ共ニ發育ノ自由ヲ失ス枝葉ハ全ク根ニ比例スヘキモノナルヲ以テ根ノ困苦ニ伴ツテ生氣ヲ失シ漸次衰頹ニ陥ルモノ極メテ多ク本園中ノ枯損樹ハ殆ント之レカ原因ナリトノ實證ヲ擧グルヲ得タリ斯クノ如キ衰頹樹モ多量ノ施肥及酷使ヲ免ルルモノハ辛シテ常態ヲ保ツト雖一朝或ハ施肥ヲ怠リ或ハ浸リニ萎弱ヲ以テ一時的回復ヲ圖ラントセハ途ニハ到底生存ニ堪ヘサルニ至ルモノノ如シ本園中最モ衰頹ノ甚ダシキハ樹高僅ニ一尺乃至二尺株張一尺五寸内外ニシテ枯死ニ瀕セントスルモノアリ之レカ根本的挽回策トシテ前記ノ如ク撰種ヲ兼テ單植トナセリ他ノ普通園ト同量ノ施肥ニ拘ラス作業二年後ニテ少シク樹勢活氣ヲ呈シ三年目ノ今日ニ至ツテ發育旺盛、新梢抽出シ全然面目ヲ一新セリ況ンヤ比較的衰頹ノ度輕微ナリシ部分ニアリテハ實ニ繁伸ヲ極メツ、アリ

十三、不良種淘汰

現今ノ如ク播種粒多量ノ結果多數異種ノ混生セル一株中ニハ發芽不良ノ劣等種ヲ含ムコトハ又已ムヲ得サルコト云フヘシ之レヲハ發芽稀少ニシテ摘採ニ適セス常ニ採取ヲ免ル、ヲ以テ反ツテ年々摘採ノ厄ヲ蒙ル優異種ニ比シ安逸ノ結果樹勢盛ンニシテ採收面積ヲ廣大スルト共ニ根亦伸展シ多量ノ肥料ヲ獨リ吸收シテ途ニ優異種ヲ窘迫ス肥料ノ多量ニ比シ收穫ノ伴ハサルハ往々カ、ル因ニ依ルコト多シ本園ニ於テハ常ニ不良種ノ淘汰ヲ行ヒ其種ノ發育ヲ自由ナラシムルニ勉メツ、アリ

十四、良種繁殖法

母樹ヨリ以上ノ其種ヲ得ントセハ播種法ニ依ラサルヘカラサルモ多クハ惡變シ目的ヲ得サルモノナリ故ニ優異種ト認メタルモノハ無性繁殖ヲ行フヲ可トス但シ挿木法ハ本園ノ如キ乾燥ニ過クル地質ニ於テハ枯渴ヲ免カレサルニヨリ多年ノ實驗ニ鑑ミ常ニ壓條法及根植法ヲ用ヒツ、アリ

○第二回全國製茶品評會報告

一、第貳回全國製茶品評會規定

- 第一條 品評會ハ大正六年製茶ヲ以テ左ノ手續ニ依リ施行スルモノトス
- 第二條 出品ハ內國生産ノ再製綠茶、碾茶、玉露茶、冠ヶ茶、紅茶、煎茶及磚茶トス
- 第三條 出品ハ一口ニ付製茶和五斤磚茶ハ五枚トス
但シ定量ニ滿タサルモノハ參考品トス
- 第四條 出品ハ各種團體若シクハ個人ニ於テ之ヲナシ所轄聯合會議所ヲ經テ出品ノ手續ヲナスモノトス
- 第五條 出品ハ其品名、數量、價格、住所、氏名ヲ明記シ本年六月三十日迄ニ主催地茶業組合聯合會議所ヘ申告シ九月三十日迄ニ現品ヲ同所ヘ送付スルモノトス
- 第六條 出品茶ハ必ス變質セサル機完全ナル荷造ヲナスヘシ
但出品ニ關スル荷造リ費及運賃ハ出品者ノ負擔トス
- 第七條 出品茶ハ總テ返付スルモノトス
但競賣希望者ハ九月三十日限リ申出ツルヲ要ス代金又ハ出品ハ所轄聯合會議所ヲ經テ送付スルコト其ノ送金手数料及運賃ハ出品者

ノ頁増トス

第八條 出品茶一口ニ付陳列及審査用トシテ八十枚磚茶ハ一枚ヲ使用スルモノトス

第九條 出品茶ノ審査及褒賞授與ハ十月中ニ施行スルモノトス

第十條 褒賞ハ一等二等三等ノ三種トス

但賞與ハ一等金拾圓二等金五圓三等金貳圓トス

第十一條 授與ノ割合ハ出品總數ノ三割五分以内トシ一等拾七分ノ二二三等十七分ノ十四以内トス

第十二條 同一出品人ニシテ二點以上授賞セラル、場合ハ其ノ最高ノモノノミニ對シ賞與ス

第十三條 出品茶ノ審査方法ハ審査會ノ決議ニヨリ別ニ之ヲ定ム

第十四條 審査委員ハ七名以内トシ本所會頭之ヲ囑託スルモノトス

第十五條 審査長ハ農商務省ニ申請シテ派遣ヲ請フモノトス

第十六條 褒賞ハ本所會頭之ヲ授與ス

第十七條 審査ノ決定并ニ競賣處分ニ對シ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

大正 六年 四月

本品評會ハ京都府茶業組合聯合會議所ニ於テ主催ス

茶業組合中央會議所

一、品評會經過概要

一、受託 大正六年四月五日中央會議所ヨリ發第六號ヲ以テ第貳回全國製茶品評會ノ開催ヲ囑託セラレタリ

一、出品豫定數 規定ニヨリ當日マテニ申込テ受理シタルモノ又ハ出品概數ノ報告ヲ受ケタルモノ及推定數ニヨル出品點數ノ豫定左表ノ如シ

靜岡縣	一八三	三	六〇	宮崎縣	七
奈良縣	一一〇	大府府	三〇	新潟縣	八
埼玉縣	六五	東京府	一五	福岡縣	八
滋賀縣	六〇	岐阜縣	一二	茨城縣	八
兵庫縣	七	鹿兒島縣	五	熊本縣	三
岡山縣	五	福島縣	五	京都府	〇
和歌山縣	五	石川縣	五	合計	八〇〇

一、經費豫算 七月九日 臨時聯合會議ヲ開會シ本會經費ノ追加豫算ヲ提出シ原案通り可決相成リタリ 歲出事業費第七項品評會費 貳千二百五拾圓

七月十二日 追加豫算ノ認可申請ヲ京都府知事へ本會經費増額交付申請ヲ中央會々頭へ提出セリ 京都府知事ヨリ指令六勅第四〇五〇號ヲ以テ本月十九日認可アリ 中央會頭ヨリ發第一二七號ヲ以テ金參百圓増額交付ノ件通牒アリ

一、會場選定 九月六日 宇治町ヨリ本會ヲ同地ニ於テ開催セラレタキ旨申出アリタルニヨリ玉井上林正副會頭及石井技手同地へ出張事務所、倉庫、式場審査場等ノ設備ニ付調査ヲナシタル上同地ニ開催スルコトニ内定セリ

一、委員囑托 本日左ノ通り本會委員ヲ囑托セリ

- 本聯合會議所正副議長評議員 七名 本所正副會頭以下職員 五名
- 宇治町役場吏員 六名 久世郡役所員 五名
- 京都府勸業課員 三名 附近茶業組合長及事務員 八名
- 其他 六名 計 四拾名

一、會場及期日 九月十日 委員ノ内主ナルモノ十一名本所ニ集合ヲ催シ左記ノ件ヲ決定セリ

一、會場ハ久世郡宇治町ニ於テ開會スルコト 一、期日ハ審査十月十日ヨリ同十七日迄 開會十月二十日ヨリ同二十六日迄 授
與式十月二十四日 一、事務分掌ノコト

一、豫算内譯

右決定事項ハ翌十一日中央會議所へ報告シ其ノ承認ヲ求メタリシニ授與式ハ二十日ニ變更ノ旨通牒アリシモ準備付ケ難キ由チ上
申セシニヨリ右決定通り承認セラレタリ 尙十五日宇治町會場豫定地ニ委員總會ヲ開キ分掌事務ノ打合チナシ之ヲ各委員ニ托セ
リ

一、審査委員 九月十九日 審査長審査委員左ノ通り申請或ハ囑托セル旨中央會議所ヨリ通牒アリ 審査長農商務省農事試驗場技師
宮地鐵治 審査委員茶業組合中央會議所技師大林雄也 滋賀縣大原重右衛門 靜岡縣中村圓一郎 埼玉縣繁田武平 三重縣柿彌十
郎奈良縣杉本久三郎 京都府渡邊辰三郎

九月二十日 本日ヨリ宇治町役場内ニ本會事務所ヲ設ケ書類ノ整理出品物ノ受付ヲナス 之レヨリ先キ各府縣茶業組合聯合會議所へ
二十日ヨリ三十日ニ出品物ヲ宇治町へ送付方照會セリ

九月三十日 本日出品受付期日ナルニ到着出品物極メテ僅少ナリ依テ再ヒ出品物送付方照會ス

十月三日ヨリ出品物續々到着セルモ十月一日ノ風水害ノ爲メ延着ノモノ少カラス依テ同十三日中ニ到着セルモノハ之ヲ受付タリ
今各受付數并ニ府縣別出品數ヲ示セハ左ノ如シ

十月三日	受付數	一八〇	受付累計	一八〇
十月五日		二二		三九一
十月六日		一九四		五八五
十月七日		三七		六二一
十月八日		四五		六六七

十月十日 n 二八

十月十四日 n 九

出品物ノ受付ハ出品ヲ解封シ申込書ト照合ハセ現品及臺帳ニ出品番號ヲ記入シ五個乃至八個宛紙力張リ茶箱ニ收メ概番號ヲ付シ之
ヲ收メタル番號ヲ表記シテ整理セリ

府縣別出品點數表

靜岡縣	一七五	茨城縣	一二	福岡縣	二五
京都府	一四七	熊本縣	一一	兵庫縣	一一
奈良縣	一〇五	崎縣	一〇	福島縣	一一
埼玉縣	六四	高知縣	九	石川縣	一一
滋賀縣	六二	岐阜縣	八	臺灣	二
三重縣	四〇	東京府	六	臺灣	二
大阪府	三八	新潟縣	六	合計	七〇四

十月五日 中央會議所大林技師本日ヨリ審査準備ノ爲メ出張セラレタルニヨリ六日ヨリ同技師立會ノ下ニ各府縣ノ出品ヲ混合シテ審
査番號ヲ付シ出品物ヲ開函シ背掛及風袋ノ秤量チナシ内八十枚ノ審査并ニ陳列用見本ヲ採收シ現品ハ元ノ函ニ收メ別ノ櫃ニ目錄ヲ
付シテ管理シ審査番號簿ハ審査長來場スル迄大林技師之ヲ保管セラレタリ、見本採收ハ八日迄三日間終了シ延着品ハ十日及十四日
ニ之ヲ採收セリ

十月六日二〇四點 同七日二二五點 累計四二九點 同八日二三八點 同六六七點 同十日二八點 同六九五點 同十四日九點
同七〇四點

一、審査 十月九日 大林技師指揮ノ下ニ審査場、審査器具ノ準備ヲナス 審査場ハ會場トナルヘキ久世郡公會堂ヲ之ニ充ツ 本日

ヨリ事務所ヲ此所ニ移シ審査用見本ノ櫃ヲ當所ノ置場ニ移シ保管ス
十月十日ヨリ十七日ニ至ル八日間別項記載ノ通り審査ヲ行フ十月十八十九ノ兩日ニ於テ審査殘品ヲ陳列瓶ニ詰メ陳列棚ヲ設ケ開會
ノ準備ヲナシタリ

一開會 十月二十日ヨリ二十六日迄一週間公衆ノ鑑賞ニ供シタリ此ノ期間ヲ通シ入場者壹千貳百名及授與式參列者ヲ合スルトキハ
其ノ數壹千五百名ヲ超過セリ 會場ハ久世郡公會堂ニシテ脚下ニ宇治川ノ碧流ヲ望ミ後ニ朝日山ヲ負ヒ風光明輝亦茶ニ縁故アル所
タリ 場内ノ二方ニ長サ十間三段ノ陳列棚ヲ設ケ府縣別ニ配列シ各府縣ノ間ニ生花ヲ配シテ調和ヲ計レリ 尙參考トシテ古式御茶
壺ノ模形其他參考品ヲ陳列セリ

十月二十四日 午前十時別項ノ通り褒賞授與式ヲ舉行セリ

一、競賣 十月二十七日 競賣希望ノ出品百參拾四點ノ競賣ヲ行フ

去ル二十五日附近茶商ニ通知ヲ發シタレハ購入希望者十六名來場競賣ハ出品一點毎ニ入札ヲ以テ容器代ヲ含ム一貫目單價ヲ記入シ
入札シ出品一點毎ニ高札者ヲ以テ落札トシ數量モ前ニ秤量セル目方ニ從ヒ代金ヲ徵收セリ 競賣代金各計六百五圓七拾七錢之ヲ各
府縣毎ニ纏メ十一月七日各聯合會議所ヘ送金セリ

七、返送 十月二十八日ヨリ三十日ニ至ル三日間出品物府中賣約又ハ競賣トナラサルモノ四百九十八點ヲ荷造リシ各聯合會議所ヘ送
還セリ 尙開會中非賣品以外ノモノハ一般公衆ノ賣約ニ應シ申込價格ニヨリ賣却セリ 此ノ點數六拾五點四百貳拾五圓七拾參錢ヲ

右代金モ十一月七日各府縣聯合會議所ヘ送付セリ

七、審査成績表印刷 十二月十五日 審査成績ハ傳票ヲ整理シ各種類毎ニ表ヲ作り十一月二十日印刷ニ付セシメ本日出來セシニヨリ
各出品人數ヲ各府縣聯合會議所ヘ送付シタリ 尙各出品人ニ紀念狀ヲ送り受賞漏レタル出品人ニ對シ紀念品ヲ呈シタリ

三、審査日誌

十月十日 雨 宮地審査長 大林繁田中村柿渡邊杉本大原各審査委員出席 玉井會頭上林副會頭參列 午前中審査ニ關スル打合ヲ
ナシ左ノ事項ヲ決議ス

一、出品茶ノ量目七百五拾匁未満ノモノハ規定ニヨリ參考品トス 一、延着ノ出品物ハ十四日中ニ受付タルモノハ之ヲ審査ニ付ス
一、非賣品ハ總テ審査ニ付ス 一、成績ノ細別得點表ハ授與式後ニ於テ發表スルモノトス 一、審査委員ノ出品物ハ之ヲ參考品ト
ナス 一、審査ハ午前九時ニ着手シ午後四時ニ終ル

一、審査項目ノ主任ハ左ノ通り分擔ス(一)形狀中村圓一郎 柿彌十郎 色澤大原重右衛門 渡邊辰三郎 香氣 繁田武平 大原重
右衛門、味 渡邊辰三郎 繁田武平 水色 杉本久三郎 柿彌十郎
各項目滿點ノ配當ハ製茶ノ種類ニ依リ左ノ通り之ヲ定ム

玉露茶冠セ茶	形狀二〇點	色澤二〇點	香氣二五點	味二五點	水色一〇點	計百點
碾茶	形狀一〇點	色澤三〇點	香氣二五點	味二五點	水色壹〇點	計百點
煎茶再製茶	形狀二〇點	色澤二〇點	香氣二〇點	味二〇點	水色二〇點	計百點
龍向茶再製龍茶	形狀三〇點	色澤一五點	香氣二〇點	味一五點	中水色二〇點	計百點
紅茶	形狀十五點	色澤二〇點	香氣二〇點	味一五點	水色三〇點	計百點
磚茶	形狀五〇點	色澤二〇點	香氣一〇點	味一〇點	水色一〇點	計百點
本日煎茶百拾五點ノ形狀色澤ヲ審査シ午後四時終了ス						

十月十一日 晴 午前八時三十五分開庫審査準備ヲナス(一)宮地審査長及大林中村大原杉本柿繁田渡邊審査委員出席 午前九時開始シ
煎茶四百拾貳點ノ形狀色澤ヲ審査シ午後三時五十分ニ審査終了ス

十月十二日 晴 午前八時二十分開庫審査準備ヲナス 宮地審査長大林中村大原杉本柿繁田渡邊審査委員出席午前九時審査ヲ開始シ

再製茶貳拾四點龍茶五拾五點玉露四拾八點冠茶六點碾茶拾八點ノ形狀色澤及再製茶玉露ノ水色香味ヲ審査ス
 十月十三日 晴 午前八時開庫審査ノ準備ヲナス 宮地審査長及大林大原杉本柿繁田渡邊審査委員出席 午前九時審査開始シ煎茶百
 貳拾八點ノ水色香味及紅茶烏龍茶磚茶全部ヲ各項目共審査シ午後四時二十分終了ス
 十月十四日 晴 午前八時貳拾分開庫準備ヲナス 宮地審査長大林大原杉本柿繁田渡邊審査委員出席午前九時着手煎茶百八拾點碾茶
 冠セ茶ノ水色香味ヲ審査シ午後四時終了ス
 十月十五日 曇天 午前八時三十分開庫審査準備ヲナス 宮地審査長大林大原柿杉本繁田渡邊審査委員出席中村審査委員午後出席
 煎茶百貳拾點龍茶五拾五點ノ水色香味ヲ審査シ延着出品物煎茶九點及紅茶碾茶ノ各項目共審査シ午後五時終了ス
 十月十六日 雨 午前八時貳拾分開庫審査準備ヲナス 宮地審査長大林大原杉本柿繁田渡邊中村審査委員出席午前九時開始シ煎茶ノ
 残り全部水色香味ヲ審査シ紅茶六點碾茶四點再製茶全部玉露八點ノ再審査ヲナス午後四時貳拾分終了ス
 本日京都府茶業組合聯合會議所會頭ハ審査長委員ヲ始メ關係者ヲ菊屋ニ招待シ慰勞宴會ヲナシタリ
 十月十七日 雨 午前八時三十分開庫準備ヲナス 宮地審査長大林大原杉本柿繁田渡邊中村審査委員出席大谷中央會頭塚野同書記臨
 席午前九時貳拾分開庫煎茶十八點龍茶四點再審各種類ノ優等品各府縣ノ優等品ノ比較ヲナシ概評ヲナス本日ヲ以テ審査終了ス
 審査附票點左ノ如シ

第 號

茶審査票

出品人	府 縣	市 郡	町 村	品 名

科 目	形 狀	色 澤	水 色	香 氣	味 味	合 點	考 點		總 點
							增	減	
初 審									
再 審									

大 正 六 年 十 月 日 審 査

四、褒賞授與式概況

大正六年十月二十四日午前十時久世郡公會堂ニ於テ左ノ順序ニヨリ褒賞授與式ヲ舉行セリ其ノ順序左ノ如シ

- 第一鈴 出品人着席
- 第二鈴 來賓着席
- 第三鈴 開 會
- 一、審査報告
- 一、褒賞授與
- 一、中央會議所會頭式辭
- 一、主催聯合會議所會頭式辭
- 一、農商務大臣告辭
- 一、京都府知事告辭
- 一、來賓祝辭

一、授賞者總代答辭

第四節 閉會

審查報告

京都府茶業組合聯合會議所主催茶業組合中央會議所第二回全國製茶品評會出品茶ノ審査終了シ本日ヲ以テ褒賞授與ノ式典ヲ舉行セラル、ニ當リ審査ノ成績ヲ報告シ授賞ノ申請ヲ爲スヲ得ルハ不肖ノ光榮トスル處ナリ

今回ノ出品ハ七百四點ニシテ之ヲ前回ニ比スレハ實ニ七割五分ノ増加ナリトス、主要ナル出品物及府縣ニ對シテ概評ヲ試ムレハ玉露及碾茶ハ大部分京都府ノ出品ニ屬シ品質概シテ良好ナルノミナラス眞ニ山城茶ノ名聲ヲ發揮スルニ足ルノ優品少ナカラス煎茶ハ今回ノ出品中最モ重要ノモノニシテ其點數モ亦甚タ多ク五百參拾六チ算シ全出品ノ約七割六分ノ高率ヲ占メタリ其ノ出品全部ヲ達觀スルニ栽培製造ノ方法宜シキヲ得外觀内容共ニ整備セル優品多ク且ツ品質ハ漸次統一スルノ傾向アリ從來重キチナサリシ諸府縣ノ製茶中質著シク改善セラレ名産地ノ製茶ト相伍シテ遜色ナキモノ少ナカラス各名産地ノ特色漸次減少シ審査上産地ヲ識別スルコト漸ク困難ナルニ至ラントスルノ傾向アリ之レ從來名産地ヲ以テ人モ許シ自ラモ任シタル産地當業諸氏ノ大ニ注意警戒スルヲ要シ新ニ改良ニ着手セル諸府縣ノ當業諸氏ノ自ラ重シテ大ニ發奮スヘキ處ナリトス

前回ノ審査報告ニ顯著ナル欠點トシテ指摘セル乾燥貯藏荷造リノ不完全ニヨル製茶品質ノ損傷ハ今回モ多少之ヲ認メ當業諸氏ノ注意ヲ要スル所ナリト雖モ前回ニ比スレハ此等ノ欠點ハ大ニ減少セリ茶樹ノ培養製造ノ方法ニ於テ尙改良ヲ要スヘキ點少ナカラサルモ全出品中著シキ劣等品ノ少ナキハ從前ニ比シテ大ナル進歩ナリトス

府縣別ニ概評スレハ品質最モ優良ナルハ滋賀靜岡ノ二縣ニシテ平均品質ニ於テハ滋賀縣ハ稍靜岡縣ニ優レリ而シテ靜岡ハ形狀ニ於テ滋賀ヲ超ヘ滋賀ハ色澤ニ於テ靜岡ヲ凌駕セリ京都府ハ製茶上ノ名聲甚タ高キニ拘ラス一二等賞ヲ獲スヘキモノ滋賀靜岡ニ比シテ遙ニ下リ平均品質ニ於テモ二縣ニ劣レルハ誠ニ惜ムヘシ、本府製茶ノ品質上最モ重シスヘキ香味ハ佳真ニシテ香氣ハ滋賀靜岡ト伯仲ノ間ニアリテ味ハ之レニ優リ形狀ハ稍劣レリ而シテ其ノ著シキ欠點ハ水色ニアリ品質評會上好結果ヲ得サル主因ハ是ニ存スルモノトス埼玉

縣ハ一二等ニ擬スヘキ優品ニ乏シキモ三等ニ擬スヘキモノニ至リテハ其數甚タ多ク又本邦名産地ノ一タルヲ失ハサルト云フヘシ其長處ハ水色ノ良好ナルニアリテ形狀ハ稍劣レリ三重縣ハ形狀良好ナルモ色澤水色ニ於テ劣レリ其ノ理由ノ一ハ同縣茶ノ乾燥不完全ニ歸スヘシ奈良縣ハ前回ニ比スレハ著シク改善セルモ生葉摘採ノ不注意ニ基ケル形狀ノ不良ハ其ノ顯著ナル欠點ナリトス岐阜縣ハ其平均品質ニ於テ甚タ良好ナリ熊本宮崎ハ著シク改善セルヲ認ム

輸已向籠製綠茶中ニハ品質優良ノモノ少ナカラスシテ形狀ヲ整フル點ニ於テ特技ヲ有セル靜岡縣ノ出品ニ於テ擬賞ノ大部分ヲ占ムルハ自然ノ數ナリト雖熊本縣ノ出品ニ於テ見ルヘキモノアリシハ本縣茶業改良ノ効果ヲ示スモノト云フヘシ再製茶ハ品質概シテ良好ナリ

紅茶ハ品質改善セラレトキハ將來有望ノ輸出品タルコト疑ヒナク良品ノ產出ニ對シテハ大ニ努力ヲナスノ要アリテ尤モ獎勵ヲ加フヘキモノナリト雖モ今回ノ出品ニ於テ一等賞ヲ獲スヘキモノヲ得サリシハ甚タ遺憾トスル處ナリ其ノ品質上尤モ重要ナル水色ニ著シク濃厚ナルモノアリタルハ喜フヘク形狀ハ概シテ良好ニシテ色澤香味ニ於テハ未タ著シキ進歩ヲ認ムルヲ得ス

綠磚茶ハ蒙古向輸出品トシテ大ニ有望ノモノトス其出品唯一點ニ止マリシモ從來磚茶製造上難事トセラレタル形狀ノ整正及縮リニ於テ殆ント成功ニ近ツケルハ寔ニ喜フヘシ

之ヲ要スルニ今回ノ出品ハ從前ニ比シテ進歩ノ跡顯著ナリ而シテ諸種ノ方面ヨリ觀察スルニ前回開催ノ効果大ナルモノアルヲ認ム

當業諸氏再ヒ深ク今回ノ成績ニ鑑ミ己ヲ知り又人ヲ知り益研究ヲ加ヘ之レガ成果ヲ次回ニ發揮シ本品評會ヲシテ大ニ有効トラシメンコトハ不肖ノ切望シテ已マサル處ナリ

審査ノ結果一等十四名 二等二十九名 三等百九十七名ヲ撰拔擬賞シ既ニ閣下ノ裁定ヲ經タリ謹テ授賞アラシムコトヲ申請ス

大正六年十月二十四日

審查長 正五位勳五等 宮地 鐵 治

大谷會頭式辭概要

回顧スレハ昨秋第一回全國製茶品評會ヲ静岡市ニ於テ開設シタルニ當リ出品多數ニ上リ斯業ノ振運ニ對シテ品評會ノ効果著大ナルヲ認メタルニ由リ第二回ヲ開設スルニ決シ、京都府茶業組合聯合會議所ノ申請ヲ以テ茲ニ委囑スルコト、ナリ本日ヲ以テ褒賞授與ノ式ヲ舉クルヲ得タリ抑今回ハ前回ニ比シテ府下ノ出品鮮カラス就中覆下茶ノ多キヲ占メタルハ殊ニ異數トスル所ナリ審査ハ規定ニ據リ委員七名ノ内昨年ノ例ヲ斟酌シテ出品多數ノ府縣ヨリ採用シ特ニ審査長ニハ農商務省ヨリ派遣ヲ請ヒ宮地技師ノ御盡力ヲ仰キタリ玉露碾茶ノ出品ニ就テハ古來著名ノ地位ヲ占メタルノ名ニ背カス誠ニ優絶ノ出品少カラサリシハ大ニ賞スヘク輸出用再製茶及内外用煎茶ニ在リテモ亦前年ニ比シ優良ノ茶多カリシハ當業者ノ改良ニ熱心ナルコト實ニ嘆賞ニ堪ヘサルナリ終ニ望ミ主權地玉井上林正副會頭委員諸氏審査各員ノ御盡力ヲ謝シ茲ニ褒賞ノ授與ヲ行フヲ得盛大ナル式典ヲ舉行スルノ機會ヲ得タルハ予ノ最モ光榮トスル所ナリ云々

式 辭

京都府茶業組合聯合會議所主催第二回全國製茶品評會審査終リテ告ケ茲ニ褒賞授與ノ式ヲ舉グルニ當リ農務局長京都府知事兩閣下並ニ貴賓ノ貴臨ヲ辱フセルハ洵ニ本所ノ光榮トスル所ナリ
本所曩ニ中央會議所ノ意ヲ承ケ本會ヲ開催スルヲ豫期以上ノ出品ヲ見ルニ至リタルハ之偏ニ地方當局ノ勸誘其ノ宜シキヲ得タルト當業諸氏ノ斯業ニ熱心ナルトニ依ルモノニシテ主催者タル本職ノ最モ欣幸トスル處ナリ
惟フニ製茶ハ本邦輸出農産品中重要ナル地位ヲ占メ其盛衰ハ直ニ地方富力ノ消長ニ關シ延テ國運ノ伸暢ニ影響スルコト極メテ大ナ
輓近各地競フテ之カ改善進歩ニ努メ其成績大ニ見ルヘキモノアルハ誠ニ喜フヘシト雖今本會審査ノ報告ニ徴スレハ尙幾多改善ヲ要スヘキモノ夥シトセズ
當業者諸君希クハ今回ノ成績ニ鑑ミ自今一層精勵セラレ以テ一段ノ改善進歩ヲ實現セラレムコトヲ終リニ臨ミ審査委員連日ノ勞ヲ謝シ併セテ本會ヲ翼賛セラレタル關係諸賢ノ好意ヲ陳謝ス

大正六年十月二十四日

京都府茶業組合聯合會議所會頭

玉井源次郎

祝 辭

製茶ハ本邦ノ一大物産ニシテ農家經濟ニ貢獻ス所頗ル大ナルト共ニ本邦重要輸出品トシテ國富ノ増進ニ資スル所極メテ多シテ以テ將來益之カ販路ノ擴張ヲ圖ルハ最モ緊要トスル所ナリ而シテ近ク時局ニ於ケル本邦茶業ノ趨勢ヲ觀ルニ頗ル順境ニ在リト雖モ進ンテ戰後ニ亘リ一層此ノ趨勢ヲシテ促進セシメトスルニハ益製茶ノ品質ヲ改良シ價格ヲ低廉ナラシムルヲ最モ必要ノ事項ナリト信ス蓋シ此ノ事タル甚々難キニ似タレトモ技術ノ熟達及經營法ノ改善ニ依リ能ク品質ヲ改良シ而モ生産費ヲ節減スルノ餘地決シテ夥シトセズ當業者タルモノ專ラ意ヲ此ニ致シ以テ今後一層銳意努力アラムコトヲ望ム幸ニシテ茲ニ第二回全國製茶品評會ノ開催ヲ見ル諸氏能ク其ノ審査ノ成績ニ鑑ミ以テ研鑽ヲ加フル所アラハ庶幾クハ叙上ノ要望ニ副フコトヲ得ム聊カ所見ヲ陳ヘ以テ祝辭トス

大正六年十月廿四日

農商務省農務局長

道 家

齊

祝 辭

茶業組合中央會議所ノ囑託ニヨリ本府茶業組合聯合會議法ノ主催ニ係ル第二回全國製茶品評會ヲ本町ニ開催セラレ其ノ參加ノ區域ハ三府十五縣ニ涉リ其出品數七百餘點ヲ算ス洵ニ盛ナリト謂フヘシ而シテ偶々之レヲ茶ノ産地トシテ數百平ノ歴史ヲ有スル我カ宇治町ニ開催セラレタルハ本町ノ最モ光榮トシ本職ノ深ク欣幸スル處ナリ
思フニ製茶ハ我カ邦重要輸出品ニシテ之カ改良進歩ヲ圖ルハ方今ノ急務ナリ中央會議所茲ニ見ル所アリ昨年始メテ第一回ヲ静岡ニ開催セラレ本年第二回ヲ本府ニ開カレ今ヤ熱々其出品ヲ見ルニ進歩ノ著ルシキモノアルノミナラス、各地ノ製法漸ク統一セラレントスルノ現象アリ此際各地ノ製品ヲ一堂ニ集メテ比較品評シ當業者ヲシテ採長補短其嚮ヲ指導セラルトハ實ニ機宜ニ適スル施設ト謂フヘク其効果ヤ蓋シ甚大ナルヘキヲ信ス庶幾クハ當業者ハ本會審査ノ成績ニ鑑ミ益々斯業ノ改良發達ヲ圖リ本會開催ノ趣旨ヲ貫徹セラレノコトヲ茲ニ多大ノ成功ヲ以テ褒賞授與式ヲ舉行セラルルニ方リ一言ヲ祝辭トス

大正六年十月廿四日

祝 辭

本會ノ審査並ニ終テ告ケテ褒賞授與ノ式ヲ舉行セラル不肖亦參列ノ榮ヲ膺ヒ衷心欣喜ニ堪ヘサルナリ惟フニ我國製茶ノ業ハ漸次改良
ナ企テラレ産額年ト共ニ加ハリ品質日ニ聲價チ高ム之ヲ今回ノ出品ニ徴スルモ其ノ優秀ナルコト前年ニ越ヘ當業者諸氏ノ勵精刻苦歷
然トシテ認ムヘク洵ニ邦家ノ爲メ慶賀ニ堪ヘサルナリ然リト雖モ觀テ近時支那印度地方ノ茶業狀況ニ見ルニ其ノ發展ノ著シク或ハ我
カ貿易上ノ一大打擊タラスンハ有ラサルナ實ニ我當業者ノ勵起勇奮スヘキノ秋ナラサルヤチ思ハシム
此時ニ當リ本會ヲ愛ニ開催セラレ諸氏ノ苦心砥勵ノ蹟ニ觸レ滿場ノ芳香碧色ニ接スルチ得タルモノ豈不肖一身ノ喜ノミナラムヤ庶幾
クハ内外ノ狀勢ニ鑑ミ益々新業ノ改良チ企テ進テ海外ノ發展チ期センカタメ倍々協力研鑽ニ努メンコトヲ
一言チ祝辭ニ代フ

大正六年十月二十四日

答 辭

京都府茶業組合聯合會議員總代 井上與四郎

本日ヲトシ第二回全國製茶品評會褒賞授與ノ盛典ヲ舉行セラルルニ當リ茲ニ名譽アル褒賞ヲ受ケ加フルニ貴賓ノ懇篤ナル訓諭ヲ給フ
何ノ光榮カ之ニ如カム
惟フニ今回ノ受賞ハ當局ノ施設指導ノ賜モノニシテ一同ノ感激ニ堪ヘサル處ナリ自今奮勵以テ勸奨ノ意チ空アセサラムコトヲ期ス希
クハ一層誘掖ヲ給ハムコトヲ受賞者一同ニ代ヘ懇言チ陳ヘ謹チ答辭トス
大正六年十月廿四日 第二回全國製茶品評會受賞者總代 松尾嘉平 治
式場ハ會場ノ内部チ以テ之ニ充テ正面ニ階段ヲ設ケ屏風ヲ配シ花輪國旗等チ以テ裝飾シ兩側ニハ製茶陳列ヲ其ノ儘置キタレハ舉式ノ
前後隨意ニ出品ノ總覽ヲ爲スコトヲ得タリ

- 一、來賓 道家農商務省農務局長 同松島 木内京都府知事 竹澤同勸業課長 山田森下同技師 同課 福田近藤屬
- 中央會議所會頭副會頭理事評議員 六名 審査長審査委員 六名 京都府會議員郡長郡農會長 十名 各縣會頭 十二名
- 新聞記者 八名 聯合會議所議員 十四名 組合長 十二名 委員 三十五名 其他來賓 五十二名
- 計 百六十三名
- 一、出品人列席者
- 府外 三十四名 府下 百五名
- 合計 三百二名

一、宴會 授與式後廻廊新築大廣間ニ來賓ヲ招キ祝宴ヲ開ク此席ニ於テ道家農務局長ハ茶業ノ改良意見ヲ述ヘラレ次テ宴ニ入ルヤ餘
興トシテ宇治茶摘歌ヲ紹介シ木内知事ノ發意ニテ來賓ノ所感五分演說ヲナシ大谷會頭ハ日本飲料嗜好ノ變遷ニ徴シ紅茶研究ノ必要
ヲ説キ杉本奎真聯合會頭ノ國家ニ於テ茶業研究機關ヲ設ケル必要ヲ述ヘ築山氏ハ茶業ニ關スル專門技術員養成ノ必要ヲ説キ林
屋氏亦研究ノ必要ト茶業者ノ覺悟ヲ陳シタルヲ初メ幾多ノ希望アリ最後ニ木内知事ハ大谷翁ノ説ヲ贊シ當業者ニ研究ト同時ニ熱心
ニ本業ニ従フヘキヲ説カレリ斯クテ來賓何レモ歡テ盡シ午後五時閉會セリ

一、喫茶店 宇治町保勝會ハ本會開會中會場附近宇治神社境内ニ喫茶店ヲ設ケ總覽者ニ茶菓ヲ供セラレ有名ナル茶器ヲ陳列シ殊ニ授
與式當日ハ來基及參列者ニ喫茶券ヲ呈シテ茶菓ヲ饗應セラレタルハ本會ノ深ク感謝スル所ナリ

茶 摘 歌 (なげぶし)

其 一 御代も治まる御物もつまる
なほもうへさま末繁昌

其 二 めでたの若松さまや
枝も榮えりや葉も茂る

その昔將軍家の御用の御茶や、大名方の御上覽に、赤手拭に赤繻の妙齡の茶摘女が、風薫る若葉の木かくれに、たうふ茶摘歌の絶え
つ續きつ、聞ゆるも床しかりき

第二回全國製茶品評會受賞一覽表

府縣別	出品別	受賞數			府縣別	出品數	受賞數		
		一等賞	二等賞	三等賞			合計	一等賞	二等賞
靜岡縣	一七五				高知縣	九			
京都府	一四七				岐阜縣	八			
奈良縣	一〇五				東京府	六			
埼玉縣	六四				新潟縣	六			
滋賀縣	六二				福岡縣	五			
三重縣	四〇				兵庫縣	二			
大阪府	三三				石川縣	一			
茨城縣	三三				福島縣	一			
熊本縣	二二				臺灣	二			
宮崎縣	〇				總計	七四	二四	一九	二四〇

第二回全國製茶品評會審査成績表

玉露茶ノ部

出品番號	審査番號	形狀	色澤	水色	香氣	味	合計	等級	住所		氏名
									住	所	
二九六	一四二	二〇	二〇	九	二四	二四	九七	壹等	京都府	宇治郡宇治村	松尾嘉平治
二九五	一九	一九	一九	八	二五	二五	九六	同	京都府	宇治郡宇治村	横井半七
六六六	六六五	一七	一八	九	三三	三三	九〇	同	京都府	宇治郡宇治村	辻利兵衛
二九七	一四五	一九	一九	六	三三	三三	九〇	同	京都府	宇治郡宇治村	平岡甚太郎
三〇三	三六八	一八	一八	八	三三	三三	八九	同	京都府	三條通室町西入	平岡平治
五八〇	五九	一七	一九	一〇	二二	二二	八七	同	京都府	紀伊郡向島村	秋山覺治郎
五八九	二八三	一八	一七	八	三三	三三	八六	參等	京都府	紀伊郡向島村	島山七郎兵衛
三三五	一一〇	一六	一八	九	三三	三三	八五	同	京都府	紀伊郡富之庄村	中川幾太郎
三四五	四九七	一七	一八	八	三三	三三	八三	同	京都府	紀伊郡堀内村	奧西芳太郎
三三九	六八	二〇	一九	八	二二	二二	八二	同	京都府	同	鳥羽伊兵衛
一七〇	一九七	一六	一六	九	二二	二二	八一	同	京都府	久世郡小倉村	小山政次郎
五八八	二八七	一八	一七	八	二二	二二	八一	同	京都府	久世郡伏見町	片岡淺次郎
六七〇	六六八	一四	一六	九	二二	二二	八一	同	京都府	久世郡久津川村	菊岡光太郎
三三四	二四	一四	一六	九	二二	二二	七九	同	京都府	同	北川半兵衛
三三〇	六三	一四	一五	六	二二	二二	七九	同	京都府	紀伊郡深草村	辻井作次郎
三七〇	五七	一六	一七	五	二二	二二	七九	同	京都府	久世郡宇治町	阪部卯之助

五七九 五三五 八 三 六 三 八 五 等外 京都市大島町五條上ル 橋本要松

碾茶ノ部

番號	出品	審査	形状	色澤	水色	香氣	味	合計	等級	住	出	所	氏	人
六二七	六二七	五〇三	一〇	二八	八五	三〇	二五	九二五	壹等	京都府久世郡	宇治町	宇治町	中村	藤吉
三六五	三六五	四七七	九	二七	八	二〇	二五	八九	貳等	京都府久世郡	宇治町	宇治町	桑原	善助
三七八	三七八	五六二	九	二八	八	二〇	二五	八九	參等	京都府久世郡	宇治町	久世郡宇治町	入江宗太郎	
六二五	六二五	五五〇	八	二二	九五	三三	三三	八六五	同	同	同	檜島村	奥山	仙造
五四八	五四八	五〇五	一〇	三〇	九五	二七	二〇	八六五	同	同	同	宇治町	山田庄三郎	
二九九	二九九	一四一	八	二八	六	二〇	二〇	八〇五	同	同	同	宇治郡宇治村	伊藤善四郎	
一七八	一七八	一九三	九	二七	九五	二七	二〇	七七五	同	同	同	久世郡小倉村	熊勢	孫市
六六七	六六七	六六四	七	二五	七五	二八	二〇	七五	同	同	同	宇治町	寺川秀次郎	
六六	六六	五四八	八	二五	七五	二七	二〇	七五	同	同	同	佐山村	北尾	仙吉
三六七	三六七	四七九	六	二〇	八五	二〇	二〇	七五	同	同	同	宇治町	西村作太郎	
六三〇	六三〇	六五七	七	二〇	九五	二〇	二〇	七五	同	同	同	宇治町	山本榮次郎	
三六八	三六八	四八〇	六	二〇	九五	二〇	二〇	七五	同	同	同	佐山村	藤井顯治郎	
五八五	五八五	五〇四	七	二二	九	二八	二〇	七五	同	同	同	宇治町	阪部卯之助	

普通煎茶ノ部

三七九	三五八	八	三	一〇	一六	一六	一六	三	同	同	同	御牧村	會東馬次郎
六二九	六五六	七	一八	九五	一七	一七	一六	七五	同	同	同	宇治町	河村與左衛門
二九四	一一六	八	二〇	八五	一六	一六	一六	七五	同	同	同	宇治郡宇治町	畑田誠一
三六六	四七八	七	二〇	九	一六	一六	一六	七	同	同	同	久世郡宇治町	平馬兵三郎

番號	出品	審査	形状	色澤	水色	香氣	味	合計	等級	住	出	所	氏	人
四〇二	四〇二	一五七	一八	一九	一七	二〇	二〇	九四	壹等	静岡縣小笠郡	佐倉村	山本	新作	
六五六	六五六	六二五	一八	二〇	一六	一九	一九	九二	同	滋賀縣甲賀郡	朝宮村	曾和	太三郎	
五三六	五三六	五四二	一七	一九	一八	二〇	一九	九二	同	静岡縣榛原郡	上川根村	千頭	共同販賣所	
六五四	六五四	六三三	二〇	一九	一五	一九	一九	九二	同	滋賀縣甲賀郡	深草村	植田	太吉	
三四一	三四一	六〇三	一八	一九	一五	一九	一九	九二	同	京都府紀伊郡	深草村	田村	太吉	
五四〇	五四〇	五二四	一九	一九	一五	一九	一九	九二	同	静岡縣榛原郡	上川根村	榎田	權一	
二〇四	二〇四	一八	一六	一八	一五	一九	一九	九〇	同	埼玉縣入間郡	宮岡村	栗原	惣作	
一五八	一五八	三二九	一七	一八	一五	一九	一九	九〇	同	三重縣一志郡	大郎生村	岡田	耕平	
四五一	四五一	四二四	一八	一九	一五	一九	一九	九〇	同	静岡縣志太郡	東川根村	森越	重吉	
五五九	五五九	一六六	一八	一九	一五	一九	一九	九〇	同	滋賀縣愛知郡	東小椋村	白木喜三郎		

出品番號	審査番號	形	色澤	水色	香氣	味	合計	等級	住	所	氏名
四八四	三三九	三〇	二五	一六	一七	二	九〇	一等	静岡縣志太郡	德山村	山本嘉三郎
五二五	五〇〇	二八	二二	一八	一七	二	八六	二等	同	榛原郡上川根村	芹澤兵九郎
五二四	五〇〇	二九	二二	一六	一七	二	八六	同	同	榛原郡上川根村	鈴木寅平
五三〇	五四四	二八	二二	一六	一七	二	八五	三等	同	榛原郡上川根村	望月熊吉
四七三	三四一	二七	二二	一五	一八	三	八五	同	静岡縣榛原郡	上川根村	大石幸七
一五二	三	二五	二二	一五	一七	三	八四	同	三重縣	一志郡多氣村	小林貞次郎

一七七

籠向綠茶及籠再製茶ノ部

三五七	五九一	一一	二二	一〇	一〇	九	四四	同	熊本市	新通三丁目	森本利三吉
六九七	六九五	一六	一〇	一〇	一〇	九	四四	同	高知市	鐵砲町	乾俊助
一一	四六	五五	六六	八八	八八	七	四四	同	奈良縣山邊郡	福住村	大窪政市郎
七六	四〇四	五五	六六	八八	八八	七	四四	同	同	添上郡東山村	上羅喜松
六九五	六九三	九	九	八	八	九	四四	同	高知市	桑園場町	松村比佐吉
七八	三九九	七	七	八	八	九	四四	同	奈良縣添上郡	東山村	森下直吉
五〇三	三〇九	九	九	〇	〇	九	四四	同	勝岡縣	駿東郡金岡村	後藤新平
四九二	二二九	九	九	〇	〇	九	四四	同	同	引佐郡龜玉村	戶田貞二

四二	二四二	二〇	一〇	一〇	一〇	三	五	同	奈良縣吉野郡	大淀村	森本豐次郎
六〇	四八六	一〇	一〇	一〇	一〇	三	五	同	同	添上郡田原村	林勝治郎
四〇三	一五九	三	九	〇	〇	二	五	同	静岡縣駿東郡	大岡村	青木繁藏
三三八	五三	三	九	〇	〇	二	五	同	京都府綴喜郡	宇治田原村	田和真一
九九	三八八	〇	〇	〇	〇	二	五	同	奈良縣添上郡	田原村	垣内榮治郎
九〇	三五八	〇	〇	〇	〇	二	五	同	同	生駒郡都跡村	岡島由松
四二	六七	〇	〇	〇	〇	二	五	同	静岡縣磐田郡	久努村	敦賀勝太郎
三八〇	五五九	〇	〇	〇	〇	二	五	同	三重縣三重郡	小山村	古川文平
六四七	六四五	二	二	二	二	二	五	同	滋賀縣甲賀郡	大原村	東友吉
六九六	六九四	二	二	二	二	二	五	同	高知市	中新町上一丁目	宮本常熊
二六七	四二	二	二	二	二	二	五	同	静岡縣磐田郡	笠西村	加藤喜藤次
七〇〇	六九八	二	二	二	二	二	五	同	高知市	要法寺町	廣末龜市
一九	一〇六	二	二	二	二	二	五	同	奈良縣添上郡	大柳生村	今中淺治郎
八三	四五四	二	二	二	二	二	五	同	同	添上郡東山村	鎌野市松
一三八	二九六	二	二	二	二	二	五	同	大阪府北河内郡	越村	北口萬太郎
九八	五二六	二	二	二	二	二	五	同	奈良縣添上郡	東山村	今出捨吉
六	三九	二	二	二	二	二	五	同	同	同	植田吉治郎
六九四	六九二	二	二	二	二	二	五	同	高知市	蓮池町	永野喜市
四二	二四三	二	二	二	二	二	五	同	奈良縣添上郡	狹川村	今西石太郎

一七六

紅茶ノ部

四三七	五三四	二八八	△四〇九	△三八七	△二八九	四九七	四九四	△一九七	△四二七	一九九	六〇一	四〇〇	四三五	五四
四八八	五四六	三七四	七三	三七六	三七五	二二三	四九三	二	三九八	一三	五五三	三七八	四九〇	九二
一四	一〇	二	六	三	二	七	二	二	二	〇	二	二	四	一五
九	二	五	六	五	五	四	四	四	五	六	一	五	三	一四
八	四	二	三	三	三	三	六	四	三	四	一	四	七	一七
一〇	三	六	四	六	六	五	四	六	六	七	六	一	五	四
三	六	五	二	四	五	二	五	七	七	七	七	六	六	四
五	四	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	靜岡市片羽町	茨城縣結城郡飯沼村	靜岡市北番町	同	茨城縣結城郡飯沼村	同	靜岡縣志太郡藤枝町	同	靜岡市安西三丁目	東京市神田區一橋通町	靜岡縣駿東郡金岡村	東京市四谷區傳馬町二丁目	京都府相樂郡上狛村	靜岡市安西二丁目
伊藤春吉	伏見製茶合資會社	木村元吉	吉川國太郎	横川子之吉	横川得太郎	笹野徳次郎	吉川覺次郎	渡邊惣十郎	後藤喜作	川口稻太郎	まると商會	内野直次郎	製茶株式會社	高田伊之助

再製茶ノ部(釜再製)

△印ハ内地向再製

出品番號	審査番號	形状	色澤	水色	香氣	味	合計	等級	住	出	所	品	氏	人	
四〇四	一五四	一九	一九	一九	一八	一八	九三	一等	靜岡縣小笠郡四方村	富士合資會社	堀ノ内支店	氏	堀ノ内支店	氏	
五五六	五二一	二九	一八	一八	一七	一七	八九	二等	靜岡市安西三丁目	辻安吉	辻安吉	氏	辻安吉	氏	
△二〇三	一七	二	一	一	一	一	八	三等	東京市四谷區舟町	加藤謹一	加藤謹一	氏	加藤謹一	氏	
△二〇八	二四	三	一	一	一	一	七	同	埼玉縣入間郡三ヶ島村	佐久間光太郎	佐久間光太郎	氏	佐久間光太郎	氏	
△四九	四七〇	三	一	一	一	一	七	同	同	高麗村	新井伴次郎	新井伴次郎	氏	新井伴次郎	氏
四二二	一八三	三	一	一	一	一	七	同	靜岡市安西神明下	駿遠製茶合資會社	駿遠製茶合資會社	氏	駿遠製茶合資會社	氏	
五九五	五六七	三	一	一	一	一	七	同	京都府相樂郡木津町	出石宗之助	出石宗之助	氏	出石宗之助	氏	

四二	二	五六	二〇一	四九三	四八七	四三
四三五	一〇三	五七	一五	二二三	二四八	四九二
三	七	三	〇	二	二	一五
〇	九	七	九	六	六	六
五	八	八	七	六	八	八
〇	〇	二	二	九	二	一五
五	六	七	八	七	六	六
三	四	四	四	四	四	五
同	同	同	同	同	同	等外
靜岡市安西三丁目	周知郡森町	同	富士郡吉永村	同	同	靜岡市安西三丁目
靜岡縣引佐郡鹿玉村	奈良縣添上郡大柳生村	靜岡市駿東郡浮島村	同	同	同	靜岡市安西三丁目
高田市三郎	中保治郎	伏見製茶合資會社	森信吾	齋藤清作	製茶株式會社	吉川覺次郎